

に ちく ひ なた 4  
荷竹日向IV遺跡

—市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書—

2008.3

岩手県宮古市教育委員会



に ちく ひ なた 4  
荷竹日向Ⅳ遺跡

—市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書—

2008.3

岩手県宮古市教育委員会



## 序 文

本州最東端に位置する岩手県宮古市には、580を超える遺跡が分布し、縄文時代から連綿と続く先人達の営みが現代に残されています。教育委員会ではこれらの遺跡をさらに後世に伝え残していくために周知と保護・保存を行っております。また、開発工事等により発掘調査された遺跡については記録として残し、出土した土器や石器などは体験学習や展示に活用しております。

本発掘調査報告書は、荷竹地区で進められてきた市道向川原荷竹線道路改良工事に伴い実施された荷竹日向IV遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。調査によって土坑や縄文時代の遺物包含層が確認され、特に遺物包含層からは約8千年前と考えられる縄文時代早期中葉の土器が多数出土しました。現在宮古市内で調査された当該期の土器の中では最多の数を有しています。そのため、今回遺構は確認されませんでした。縄文時代早期における土器様相の一端を知ることができました。


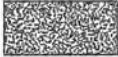

これらの土器資料が宮古市のみならず周辺地域における縄文研究に寄与し、大いに活用されることを願っております。

最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

宮古市教育委員会  
教育長 中屋定基

## 例 言

1. 本書は、「市道向川原荷竹線道路改良工事」に伴う荷竹日向IV遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は「I 概説編」と「II 本編」で構成され、概説編は主として調査報告の要旨、本編は通常の報告書である。
3. 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 中屋定基）である。発掘調査及び本書の執筆・編集は文化課の長谷川が担当し、その他、文化課担当職員がこれを補佐した。
4. 調査座標については道路工事により設けられた杭を基準とし任意に設定したものである。
5. 土色及び土質の観察は『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著 2001年度版）を基準とし、図版中において土層観察表で表示した。
6. 図版中のスクリーン表示は図版中で定めない限り以下の通りである。  
遺構図版 ・  石  
遺物図版 ・  繊維が混入された土器 ・  磨石の機能面
7. 遺物の観察は全て肉眼観察により行い、遺物観察表としてまとめている。
8. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

# 目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 表目次

I 概説編	1
II 本編	2
第1章 調査に至る経緯	2
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 立地と環境	3
第1節 宮古市の位置と遺跡の環境	
第2節 周辺の遺跡	
第3章 調査の方法	7
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 基本層序	
第4章 検出された遺構と遺物	11
(1)土坑 (11) (2)遺物包含層 (11) (3)遺構外出土遺物 (28)	
第5章 遺跡隣接地の試掘調査	31
(1)トレンチ調査 (31) (2)トレンチ調査出土遺物 (36)	
第6章 まとめ	44
引用・参考文献	
報告書抄録	70

## 図版目次

I 概説編	1	第3章 調査の方法	
写真1 縄文時代の遺物包含層が見つかった様子		第4図 遺跡位置図	9
写真2 遺物包含層を掘り下げている様子		第5図 調査区全体図	10
写真3 出土した縄文時代早期中葉(約8,000年前)の土器		第4章 検出された遺構と遺物	
図1 調査区 遺構配置図		第6図 1号土坑 平面図・断面図	11
II 本編		第7図 遺物包含層 平面図・断面図	12
第2章 立地と環境		第8図 遺物包含層 出土遺物(1)	14
第1図 荷竹日向IV遺跡 位置図	3	第9図 遺物包含層 出土遺物(2)	15
第2図 地形分類図	4	第10図 遺物包含層 出土遺物(3)	16
第3図 周辺の遺跡分布図	6	第11図 遺物包含層 出土遺物(4)	17

第12図	遺物包含層	出土遺物(5)	18
第13図	遺物包含層	出土遺物(6)	19
第14図	遺物包含層	出土遺物(7)	20
第15図	遺物包含層	出土遺物(8)	21
第16図	遺物包含層	出土遺物(9)	22
第17図	遺物包含層	出土遺物(10)	23
第18図	遺物包含層	出土石器(1)	25
第19図	遺物包含層	出土石器(2)	26
第20図	遺構外出土遺物(1)	27	
第21図	遺構外出土遺物(2)	28	
第22図	遺構外出土石器	29	

### 第5章 遺跡隣接地の試掘調査

第23図	試掘調査トレンチ配置図	31
第24図	試掘調査トレンチ 断面図(1)	33
第25図	試掘調査トレンチ 断面図(2)	35
第26図	試掘調査トレンチ 出土遺物	36

### 第6章 まとめ

第27図	遺物包含層 出土土器	45
------	------------	----

29	Fトレンチ	調査状況 (東から)	53
30	Gトレンチ	調査状況 (東から)	53
31	Hトレンチ	調査状況 (東から)	53
32	Iトレンチ	調査状況 (東から)	54
33	Jトレンチ	調査状況 (東から)	54
34	Kトレンチ	調査状況 (東から)	54
35	Lトレンチ	調査状況 (東から)	54
36	Mトレンチ	調査状況 (東から)	54
37	Nトレンチ	調査状況 (東から)	54
38	Oトレンチ	調査状況 (東から)	54
39	Pトレンチ	調査状況 (東から)	54
40	Qトレンチ	調査状況 (北東から)	55
41	Rトレンチ	調査状況 (北東から)	55
42	Sトレンチ	調査状況 (東から)	55
43	Tトレンチ	調査状況 (南西から)	55
44	Uトレンチ	調査状況 (南から)	55
45	Vトレンチ	調査状況 (南東から)	55
46	調査風景	(西から)	55
47	調査風景	(南西から)	55
48	出土遺物(1)	56	
49	出土遺物(2)	57	
50	出土遺物(3)	58	
51	出土遺物(4)	59	
52	出土遺物(5)	60	
53	出土遺物(6)	61	
54	出土遺物(7)	62	
55	出土遺物(8)	63	
56	出土遺物(9)	64	
57	出土遺物(10)	65	
58	出土遺物(11)	66	
59	出土遺物(12)	67	
60	出土遺物(13)	68	
61	出土遺物(14)	69	

## 写真図版目次

1	荷竹日向IV遺跡 航空写真	49
2	調査区近景 (北東から)	49
3	調査区近景 (北東から)	49
4	調査区近景 (南西から)	49
5	調査風景 (南西から)	49
6	調査区東側 完掘状況 (北東から)	50
7	調査区西側 遺物包含層検出状況(南西から)	50
8	遺物包含層 東西セクション面 (南東から)	51
9	遺物包含層 東西セクション面 (南東から)	51
10	遺物包含層 東西セクション面 (南東から)	51
11	遺物包含層 東西セクション面 (南東から)	51
12	遺物包含層 南北セクション面 (北東から)	51
13	遺物包含層 南北セクション面 (東から)	51
14	遺物包含層 南北セクション面 (東から)	51
15	遺物包含層 東西セクション面 (南から)	51
16	調査区北側 遺物包含層検出状況 (南東から)	52
17	調査区北側 完掘状況 (南東から)	52
18	調査区西側 完掘状況 (西から)	52
19	調査区西側 完掘状況 (東から)	52
20	遺物包含層 掘り下げ状況 (西から)	52
21	遺物包含層 掘り下げ状況 (西から)	52
22	1号土坑 セクション面 (南から)	52
23	1号土坑 完掘状況 (北から)	52
24	Aトレンチ 調査状況 (東から)	53
25	Bトレンチ 調査状況 (東から)	53
26	Cトレンチ 調査状況 (東から)	53
27	Dトレンチ 調査状況 (東から)	53
28	Eトレンチ 調査状況 (東から)	53

## 表目次

第1表	土器観察表(1)	37
第1表	土器観察表(2)	38
第1表	土器観察表(3)	39
第1表	土器観察表(4)	40
第1表	土器観察表(5)	41
第1表	土器観察表(6)	42
第2表	石器観察表	43



# I 概説編

荷竹日向IV遺跡は宮古市津軽石第16地割字荷竹日向に所在し、津軽石川の支流である七田川左岸の河岸段丘上に立地しています。発掘調査は市道向川原荷竹線の道路改良工事に伴い実施されたもので、平成17・18年度に遺跡隣接地の試掘調査（どのような遺構・遺物があるのかを調べる調査）が行なわれました。

その結果、遺跡の東約50mの地点から縄文土器が出土し、縄文時代の遺物包含層であることが確認されました。遺物包含層とは土器や石器などが含まれている土層のことで、ここでは縄文時代早期中葉（約8,000年前）の土器が出土しました。

そのため、遺跡の範囲は当初知られていたところよりも東側にも広がっていることが分かり、遺跡範囲の拡大変更を行なっています。

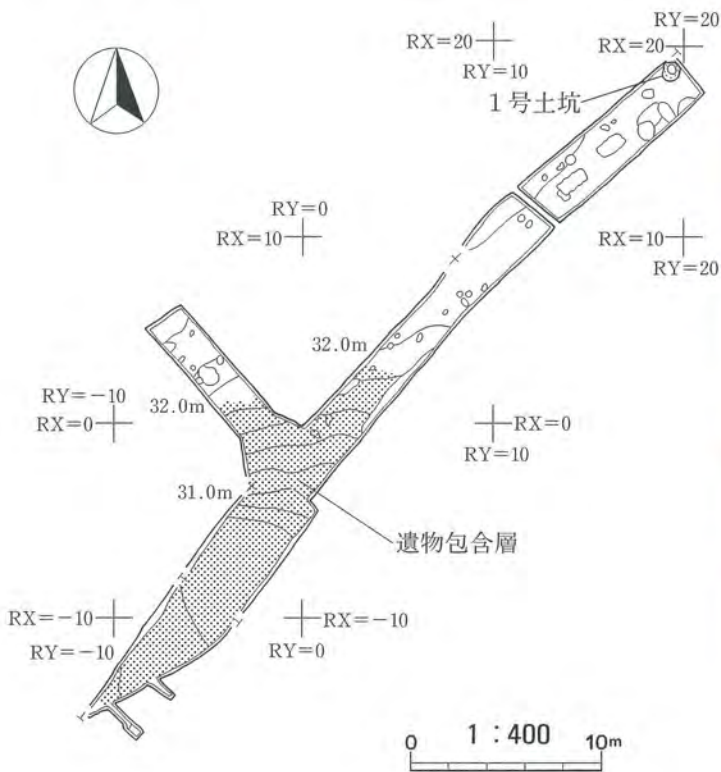


図1 調査区 遺構配置図



写真1 縄文時代の遺物包含層が見つかった様子



写真2 遺物包含層を掘り下げている様子



写真3 出土した縄文時代早期中葉（約8,000年前）の土器

## II 本 編

### 第1章 調査に至る経緯

#### 第1節 調査に至る経緯

荷竹日向IV遺跡は、岩手県宮古市津軽石第16地割字荷竹日向に所在し、現況は畑地及び宅地である。市道向川原荷竹線の道路改良工事に伴い建設課から遺跡の有無について現地踏査の依頼があり、平成15年12月3日に生涯学習課（現文化課）と建設課で現地を確認した。その結果、4地点において縄文土器や鉄滓を表採したため、試掘調査が必要になる旨回答した。その後、試掘調査は事業の進捗状況から荷竹公民館を基点に東側を平成17年度に、西側を平成18年度に実施することとなった。

平成17年9月6日付け建第28号で平成17年度調査分の依頼があり、それを受け同年9月16日から10月24日まで試掘調査を実施した。その結果、A～Mトレンチからは遺構・遺物は確認されなかったが、荷竹公民館の北側の畑地からは縄文時代の遺物包含層が確認されたため、次年度も同地点を調査することになった。

平成18年度は平成18年4月5日付け建第4号で調査の依頼があり、同年4月10日から7月12日まで試掘調査を実施した。その結果、T～Vトレンチからは少量の遺物が表土中からみられたものの遺構は確認されなかった。平成17年度に一部調査した縄文時代の遺物包含層については範囲の西端を確認し、遺物包含層の東西端が確定した。平成17・18年度の調査面積は計289㎡である。なお、荷竹日向IV遺跡の範囲変更、拡大について文化財保護法第97条第1項の規定により平成18年10月2日付け教文第180号で岩手県教育委員会に対し遺跡発見の通知を行なった。これを受けて岩手県教育委員会では平成18年10月10日付け教生第935号で遺跡登録の通知をされた。

#### 第2節 調査体制

##### <平成17～19年度>

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	中屋定基
調査総括	関沢敏	宮古市教育委員会文化課長	(～平成18年度)
	元田秀一	宮古市教育委員会文化課長	(平成19年度～)
調査員	竹下将男	〃	文化課文化財係長 (～平成18年度)
			文化課主査 (平成19年度～)
	高橋憲太郎	〃	文化課文化財係主査 (～平成18年度)
			文化課主査 (平成19年度～)
	鎌田祐二	〃	文化課主任文化財調査員
	加納由美	〃	文化課主任文化財調査員
	安原誠	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	〃	文化課文化財調査員 (調査・報告書担当)
	阿部豊	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	江口邦泰	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員

##### <発掘調査作業員・整理作業員>

在原正利 扇田正義 大沢裕明 大下義文 越田真理子 坂本晃 鈴木祥一 鳥居義文 三浦功  
村松光子 山根保行 米澤豊

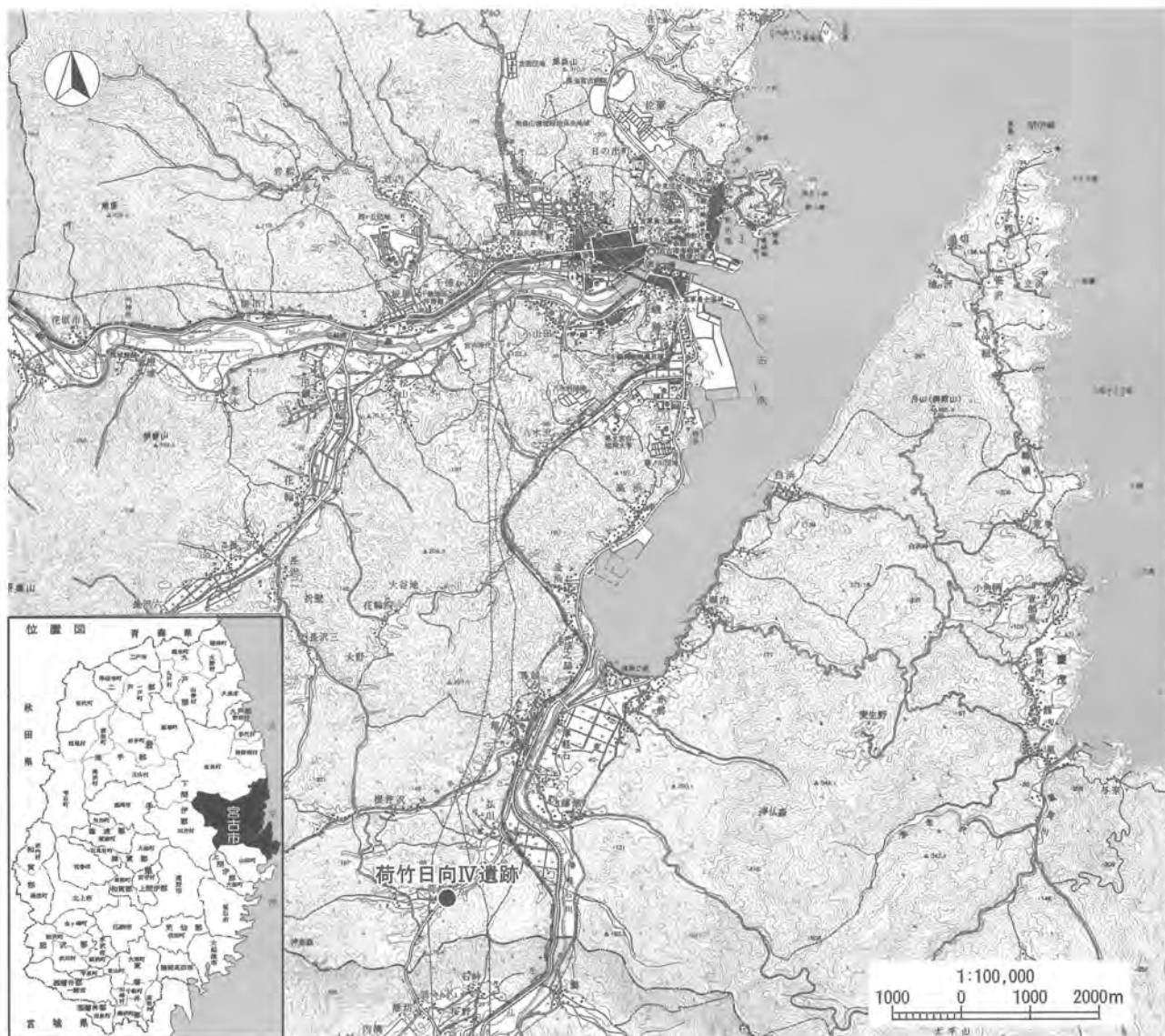
## 第2章 立地と環境

### 第1節 宮古市の位置と遺跡の環境

岩手県宮古市は三陸海岸のほぼ中央に位置し、北は岩泉町、西は川井村、南は山田町と隣接し、東は太平洋に面している。市域の総面積は696.82km<sup>2</sup>、人口約60,000人の漁業と観光の都市である。

市域の西側は標高1,914mの早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なり、東側は太平洋を望む。北東方向に突き出す重茂半島の鮎ヶ崎は本州最東端となっている。宮古市周辺の海岸は岩手県指定名勝「浄土ヶ浜」や国指定天然記念物「崎山の蠟燭岩」「崎山の潮吹穴」などの岩手県随一の景勝地を有し、また「日出島クロコシジロウミツバメ繁殖地」などの国指定天然記念物があり自然豊かな景観をみることができる。

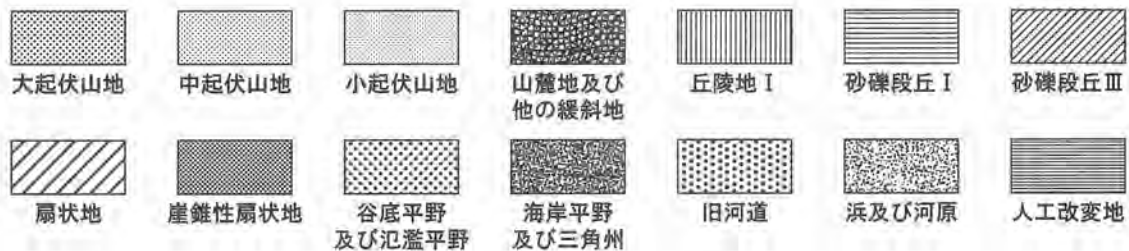
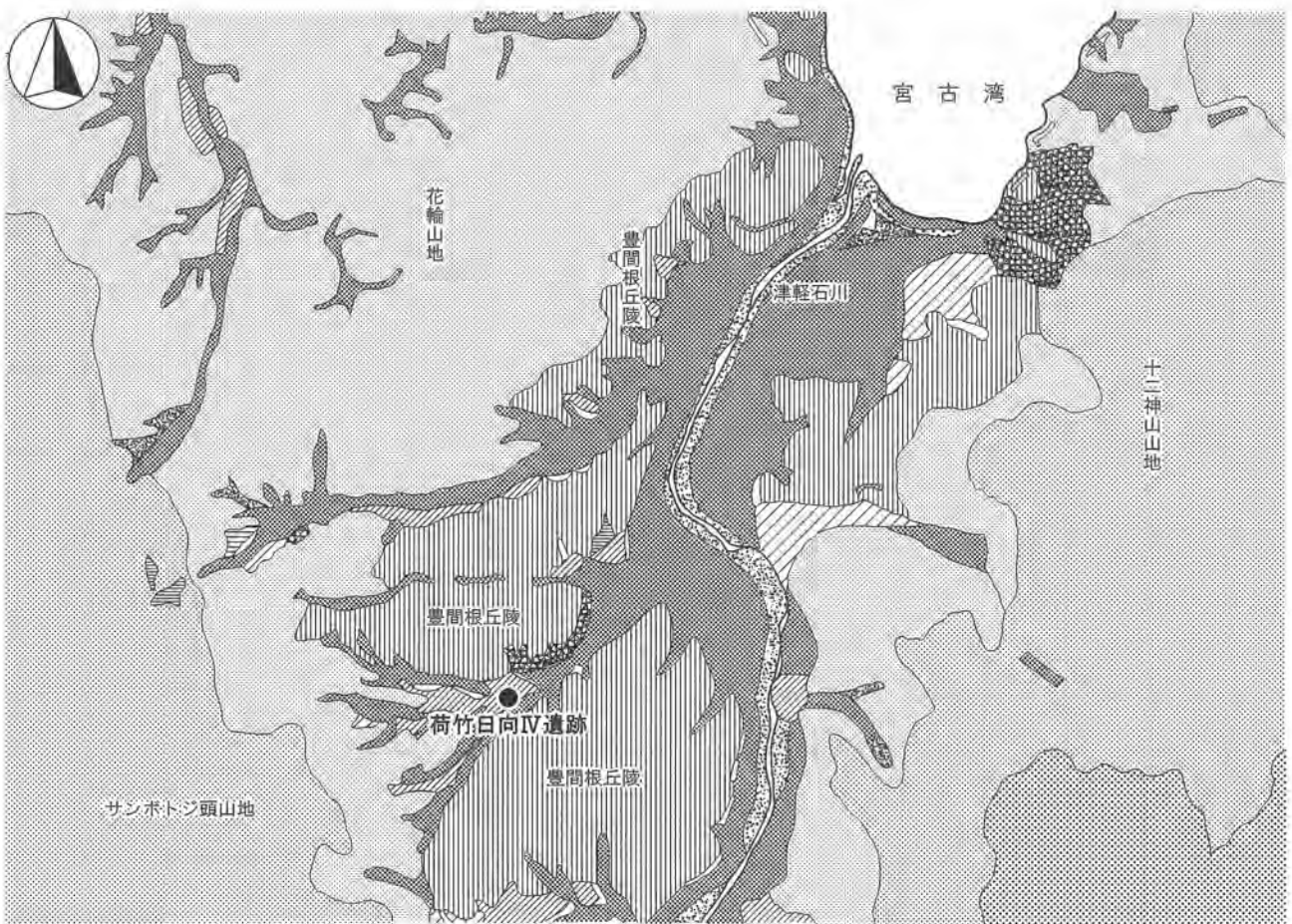
市内を流れる河川は、北上山地を源流とする閉伊川、その支流で市街地を流れる山口川、近内川、長沢川、さらに宮古湾に注ぎ込む津軽石川など大小の河川がある。それらの河川によって樹枝状に延



第1図 荷竹日向IV遺跡 位置図

びた尾根を有する千徳丘陵や八木沢丘陵、豊間根丘陵などが閉伊川低地や津軽石川低地などの低地に面している。河川に面した丘陵の周囲には小起伏山地である黒森山山地や花輪山地、十二神山山地などの山地が広がり、その背後にはサンボトジ頭山地や峠ノ神山山地などの中起伏山地や大起伏山地が連なっている。

荷竹日向IV遺跡は岩手県宮古市津軽石第16地割字荷竹日向に所在し、山田町との境にある宮古市南端の地区に位置する。津軽石川の支流である七田川の河岸段丘上に立地し、南北には豊間根丘陵が広がっている。遺跡のすぐ南には七田川が東流し、遺跡周辺から大きく南へ蛇行している。調査した地点の標高は31.4~32.9mを測り、遺跡の北側には南面する緩斜面が広がっている。なお、遺跡の現況は宅地及び畑地である。



第2図 地形分類図

## 第2節 周辺の遺跡

津軽石川の支流である七田川の河岸段丘に位置する荷竹日向Ⅳ遺跡の周辺には、荷竹日向Ⅰ～Ⅴ遺跡や荷竹日陰Ⅰ～Ⅴ遺跡が分布している。いずれも豊間根丘陵の裾部に位置し、南面する裾部に前者が、北面する裾部に後者がみられる。表採資料であるが、縄文土器や土師器、鉄滓などがみられる。

周辺で調査された遺跡としては弘川Ⅰ遺跡、弘川館跡、藤畑遺跡、上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡などがある。弘川Ⅰ遺跡は本遺跡から約1.2km東にある南向きの緩斜面に位置し、奈良時代の竪穴住居跡が4棟検出されている。この他縄文時代の陥し穴や12～13世紀代の掘立柱建物などが検出され、縄文時代には狩猟の場で、その後集落として利用されていたことが確認されている。

弘川館跡は弘川Ⅰ遺跡の北約300mに位置し、主郭や空堀を有する中世の城館跡で、江戸時代の文献では天正11年（1583年）に落城したとされている。主郭の西側に位置する瑞雲寺の裏庭整備に伴い平成16年に第1次調査が実施され、平安時代の竪穴住居跡1棟、炭窯跡1基、中近世の墓壇6基などが検出されている。平安時代の竪穴住居跡は一边約8mを測る大型の住居跡であり、北壁にはカマドが残存していた。さらに谷地形の区域からは鉄滓が多く出土し、炭窯跡も確認されている。また、調査区のすぐ南は寺地であることから中近世の墓壇が確認され、一部埋葬人骨も残存し、棺に使用したと推測される鉄釘などが多数出土している。人骨とともに六道銭と考えられる銅銭も出土している。なお、遺構外ではあるが、館が機能していた16世紀代の白磁片や染付碗が出土していることが特筆される。平成18年には第2次調査が実施されている。竪穴状遺構や土坑が検出され、弥生時代後期の土器などが出土している。

藤畑遺跡は津軽石川の右岸に位置し、平成9年の調査で奈良時代後半の竪穴住居跡や鍛冶炉が検出されている。特に鍛冶炉の周辺からは鉄滓やふいごの羽口などが大量に出土している。

津軽石川の支流である根井沢の上流に位置する上根井沢Ⅰ遺跡では掘立柱建物跡が2棟、柱列などが検出されている。また、津軽石地区西側の山裾部に位置する沼里遺跡からは縄文時代の竪穴状遺構や土坑、焼土遺構、古代の竪穴住居跡、近世の墓跡などが検出されている。墓跡からは人骨が確認され、煙管や刀鎌などの副葬品が出土している。

さらに遺跡周辺を概観してみると、津軽石川河口の東側に位置する赤前地区には小堀内Ⅲ遺跡・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡・赤前Ⅴ柳沢遺跡・赤前Ⅳ八枚田遺跡・赤前Ⅲ遺跡があり、古代の鉄生産に関する集落が確認されている。このように、津軽石地区や赤前地区、そして本遺跡のある荷竹地区の周辺では現在のところ奈良時代・平安時代以降の遺構・遺物が多く検出されているという特徴がみられる。

### <参考文献>

- 宮古市教育委員会 1991 『弘川Ⅰ遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書29
- 宮古市教育委員会 1998 『藤畑遺跡—平成9年度発掘調査報告書—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書52
- 宮古市教育委員会 1999 『赤前Ⅲ遺跡・赤前Ⅳ八枚田遺跡・赤前Ⅴ柳沢遺跡・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡・小堀内Ⅲ遺跡—宮古市水産課津軽石環境整備事業関係—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書53
- 宮古市教育委員会 2001 『宮古の遺跡発掘史』第12回ふるさと歴史展図録
- 宮古市教育委員会 2003 『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡—市内遺跡発掘調査報告書3—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書60
- 宮古市教育委員会 2005 『弘川館跡—瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書64
- 宮古市教育委員会 2007 『弘川館跡（第2次調査）—宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書73



1	荷竹日向Ⅳ	24	高浜Ⅴ下地神	47	払川Ⅱ	70	上根井沢Ⅱ	92	寺沢Ⅱ
2	白浜太田浜Ⅲ	25	金浜堤ヶ沢	48	払川Ⅲ	71	上根井沢Ⅲ	93	寺沢Ⅰ
3	白浜太田浜Ⅳ	26	高浜Ⅵ地神	49	荷竹日向Ⅰ	72	上根井沢Ⅳ	94	程久保
4	白浜太田浜Ⅴ	27	金浜館	50	荷竹日向Ⅱ	73	長沢横街道Ⅳ	95	花輪館
5	堀内Ⅰ	28	金浜Ⅰ	51	荷竹日向Ⅲ	74	長沢横街道Ⅲ	96	鱒沢館
6	堀内Ⅱ	29	金浜Ⅱ	52	払川館	75	長沢横街道Ⅱ	97	鱒沢Ⅰ
7	堀内Ⅲ	30	金浜Ⅲ	53	荷竹日向Ⅴ	76	長沢横街道Ⅰ	98	鱒沢Ⅱ
8	堀内Ⅳ	31	金浜Ⅳ	54	荷竹日影Ⅰ	77	上大野Ⅲ	99	大谷地Ⅴ
9	小堀内Ⅰ	32	金浜Ⅴ	55	荷竹日影Ⅱ	78	上大野Ⅱ	100	大谷地Ⅳ
10	小堀内Ⅱ	33	山崎館	56	荷竹日影Ⅲ	79	上大野Ⅰ	101	大谷地Ⅲ
11	小堀内Ⅲ	34	馬越Ⅱ	57	荷竹日影Ⅳ	80	中大野Ⅱ	102	大谷地Ⅱ
12	赤前Ⅵ釜屋ヶ沢	35	馬越Ⅰ	58	荷竹日影Ⅴ	81	中大野Ⅰ	103	大谷地Ⅰ
13	赤前Ⅴ柳沢	36	津軽石大森	59	荷竹米山Ⅰ	82	下大野Ⅱ	104	下大谷地Ⅵ
14	赤前Ⅳ八枚田	37	沼里	60	荷竹米山Ⅱ	83	下大野Ⅰ	105	下大谷地Ⅰ
15	赤前Ⅲ	38	沼里館	61	荷竹米山Ⅲ	84	中折壁Ⅱ	106	下大谷地Ⅱ
16	赤前館	39	根井沢穴田Ⅰ	62	荷竹米山Ⅳ	85	中折壁Ⅰ	107	下大谷地Ⅲ
17	赤前Ⅰ牛子沢	40	根井沢穴田Ⅱ	63	荷竹米山Ⅴ	86	折壁館	108	下大谷地Ⅳ
18	久保田	41	根井沢穴田Ⅲ	64	荷竹米山Ⅵ	87	下折壁Ⅰ	109	下大谷地Ⅴ
19	藤畑	42	根井沢穴田Ⅳ	65	荷竹米山Ⅶ	88	下折壁Ⅱ	110	賽の神
20	高浜Ⅰ坂ノ下	43	根井沢穴田Ⅴ	66	根井沢Ⅰ	89	長沢向	111	八木沢Ⅲ野来
21	高浜Ⅱ今ヶ洞	44	根井沢日影Ⅰ	67	根井沢日影Ⅱ	90	長沢内の沢	112	八木沢駒込Ⅱ
22	高浜Ⅲ熊野	45	高平館	68	根井沢Ⅱ	91	長沢館	113	八木沢駒込Ⅰ
23	高浜Ⅳ横須賀	46	払川Ⅰ	69	上根井沢Ⅰ				

第3図 周辺の遺跡分布図

## 第3章 調査の方法

### 第1節 調査方法と調査経過

#### (1) 実測・写真撮影・土層注記

遺構平面図及び遺構断面図の縮尺は1/20を基本とし、レベルは道路工事の基準杭をもとに調査区に基準高を設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考資料としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

#### (2) 整理の方法

実測図及び全体図は、平面図・断面図相互の整合性についてチェックし、第2原図の作成・トレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーライドファイルはライドファイルに収納し、それぞれ写真ごとに番号を付した。

出土した遺物は現場での取上げ後、埋蔵文化財調査室で水洗いを行い、袋ごとに番号を付し遺物袋台帳を作成した。この段階で袋内において遺物を接合し、全ての接合が終了した時点で遺物台帳を作成し、整理作業の基本台帳とした。

本報告書に掲載されている遺物は、整理作業の中で設定した基準に基づき選別したものである。その選別の基準は以下のとおりである。

##### a. 土器類

土器の総数は、破片数1,662点、重量14,67kgを測る。その中で、①口縁部や底部が残存しているもの、②概ね破片の大きさが5cm以上のもの、③貝殻文が施文されているもの、④時期決定できる特徴的な文様をもつものを抽出し、図化した。図化した遺物は計396点である。

##### b. 石器類

石器類は41点、重量887.6g出土し、全点について図化した。

##### c. 鉄滓

鉄滓は重量7515.6g出土し、図化は行っていない。第4章で詳述する。

#### (3) 調査経過

##### <平成17年度>

- 9月16日 道路工事範囲内にロープを張り、遺跡隣接地調査A～Fトレンチを設定した。
- 9月20日 遺跡隣接地調査A～Fトレンチの掘り下げを開始した。
- 9月27日 遺跡隣接地調査G～Mトレンチを設定し、掘り下げを開始した。
- 9月30日 当初、遺跡隣接地として捉えていた荷竹日向IV遺跡東側の調査地点の掘り下げを開始した。表土中からは石匙などの石器が出土した。
- 10月3日 調査区内から縄文土器が出土したため、調査区を拡張し、さらに遺構・遺物の確認を行った。
- 10月12日 1号土坑が検出され精査を開始した。

- 10月13日 縄文時代の遺物包含層が検出され、遺物分布範囲の確認を行なった。
- 10月14日 調査区遺構検出状況の写真撮影及び断面図を作成した。1号土坑の断面図を作成した。
- 10月17日 平板を用いて調査区の平面図を作成した。
- 10月21日 遺跡隣接地調査トレンチの埋め戻しを開始した。
- 10月24日 器材を撤収し、調査が終了した。

#### <平成18年度>

- 4月10日 平成17年度の調査で遺物包含層が確認された地点の西端を調査区として設定した。あわせて遺跡隣接地調査N～Vトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行なった。
- 4月13日 遺物包含層の北端を検出した。
- 4月17日 遺物包含層の南北ベルトの断面図を作成した。
- 4月28日 遺物包含層の検出状況写真を撮影し、掘り下げを開始した。
- 5月10日 遺物包含層の東西ベルトの断面図を作成した。
- 5月12日 遺物包含層検出調査区の平面図を作成した。
- 5月15日 電柱移設のため、一度器材を撤収し、調査を中断した。
- 6月29日 電柱移設が完了したため、調査を再開した。
- 7月7日 電柱があった地点の遺物包含層を検出し、掘り下げを開始した。
- 7月12日 器材を撤収し、調査が終了した。

## 第2節 基本層序

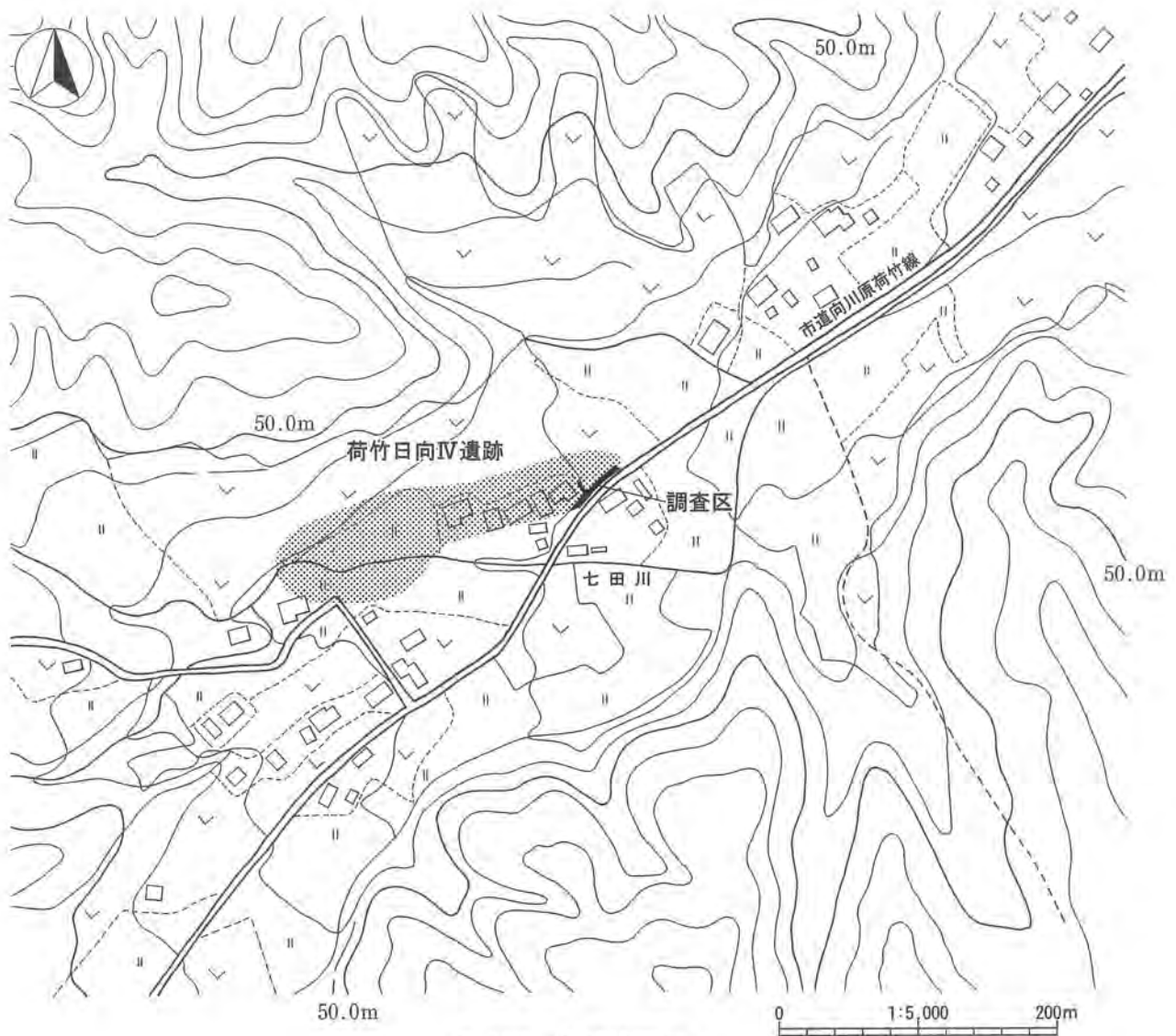
調査区内堆積土の土層観察は、調査区中央部の南北ベルト及び調査区北壁で実施した。遺物包含層の上層にみられた盛土層の堆積状況は、調査区内でも箇所によって異なっている一方、遺物包含層及びその下層については調査区内においてはほぼ同一の堆積状況を示していたため、ここでは調査区中央部南北ベルトでの土層を基準にして詳述する。

- A・B層 : 調査区全域に堆積しており、表土及び盛土層である。調査区西端では宅地の前の平場を構築するために盛土されたものと思われ、最大で層厚約1mにもなる。A・B層ともに黒褐色を呈し、A層はシルト質埴土、B層は埴壤土である。盛土中にはガラス片などが含まれている。
- C層 : 黒褐色を呈する埴壤土で、遺物包含層の上層に堆積している。自然堆積と思われるが、遺物は含まれていない。調査区北端に主に堆積している。
- D～F層 : 縄文時代の遺物包含層である。D～F層の3層に細別されるが、含まれている縄文土器に時期差はみられない。早期から前期の土器が含まれ、前期初頭よりも新しい遺物は含まれていないことから、縄文時代前期初頭ごろに堆積したものと考えられる。D層は黒色を呈する埴壤土で、やや硬質で粘性はややある。調査区中央部にのみ堆積している。E層は暗褐色を呈する埴壤土で調査区西端にのみ堆積している。F層よりも遺物量は少

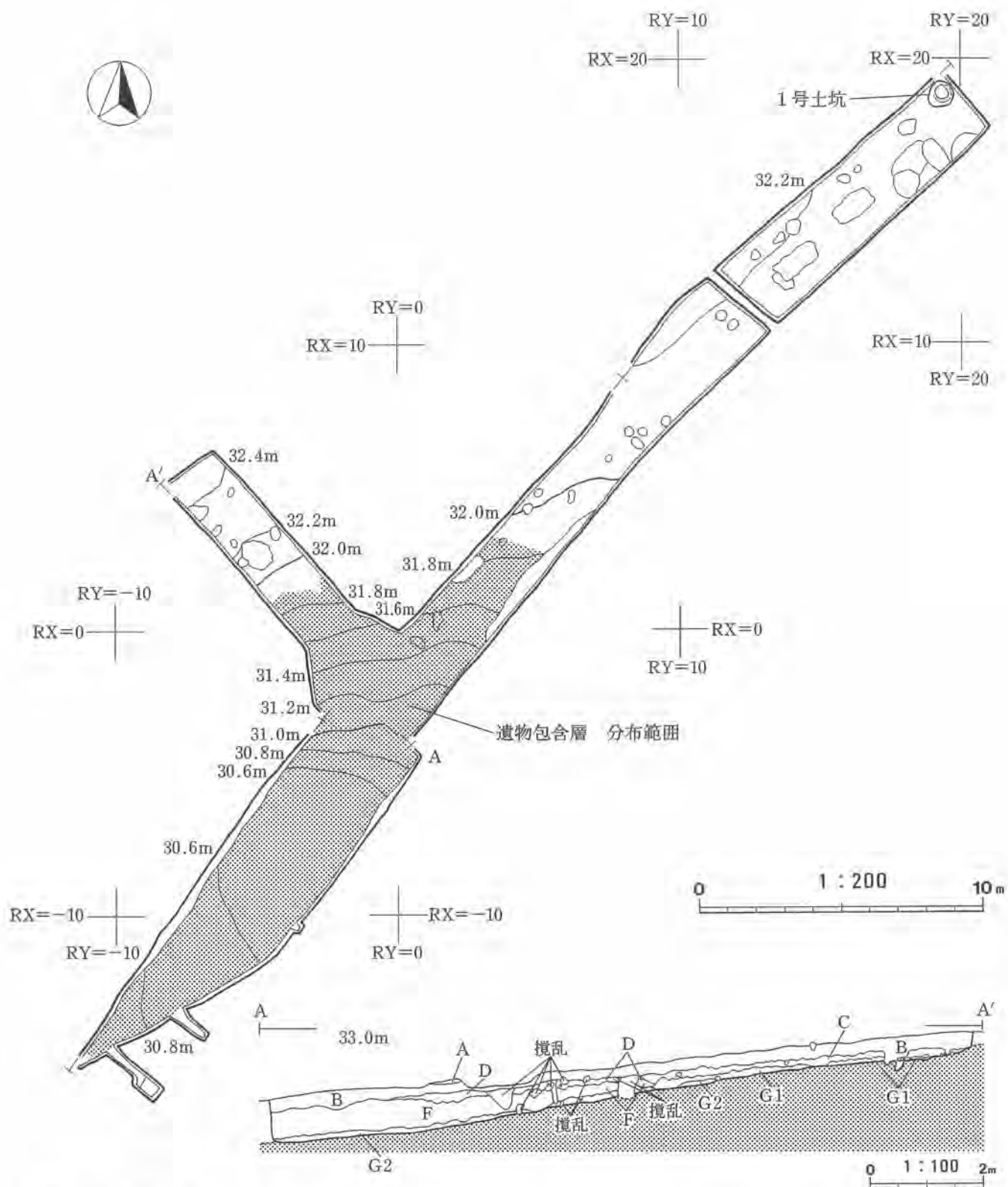


ない。F層は暗褐色を呈する埴壤土で、D層よりもやや明るい土色をもつ。しまり・粘性はD層と同様である。調査区中央部を中心に調査区西部まで広く堆積している。

G1・G2層：ともに暗褐色を呈するシルト質埴土で、遺物包含層の下層に堆積する地山漸移層である。調査区全域に堆積している。



第4図 遺跡位置図



荷竹日向IV遺跡 基本層序 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土	A 10YR2/3 黒褐色壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土10%混状	硬質、粘性あり
盛土	B 10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR2/3 黒褐色壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物少量
埋積土	C 10YR2/2 黒褐色壤土	10YR3/3 暗褐色壤土20%混状	やや硬質、粘性ややあり
	D 10YR2/1 黒色壤土	10YR2/3 黒褐色壤土20%混状	やや硬質、粘性ややあり
遺物包含層	E 10YR3/3 暗褐色壤土	10YR2/3 黒褐色壤土5%混状	やや硬質、粘性ややあり
	F 10YR3/3 暗褐色壤土	10YR2/3 黒褐色壤土10%混状	やや硬質、粘性ややあり

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
地山	G1 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土10%混状	やや硬質、粘性ややあり
漸移層	G2 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土5%混状	硬質、粘性あり

第5図 調査区全体図

## 第4章 検出された遺構と遺物

### (1) 土坑

#### 1号土坑 (第6図、写真図版22・23)

1号土坑は調査区の東端で検出され、**遺構検出面**は地山面である。地山面の上層は畑の耕作土となっていることから、土坑の掘り込み面はすでに掘削等により失われていると思われる。重複する遺構はない。

**平面形**は東西方向の長軸をもつ楕円形で、**規模**は長径1.0m、短径0.88m、検出面から底面までの深さは0.4mを測る。断面形は底面の方が広がるいわゆるフラスコ形土坑の形態を有している。

**堆積土**は1～4層に分けられ、1～4層はともに暗褐色を呈する埴壤土で、土色・混入土に若干の違いがみられる。全層とも硬質で粘性がある。

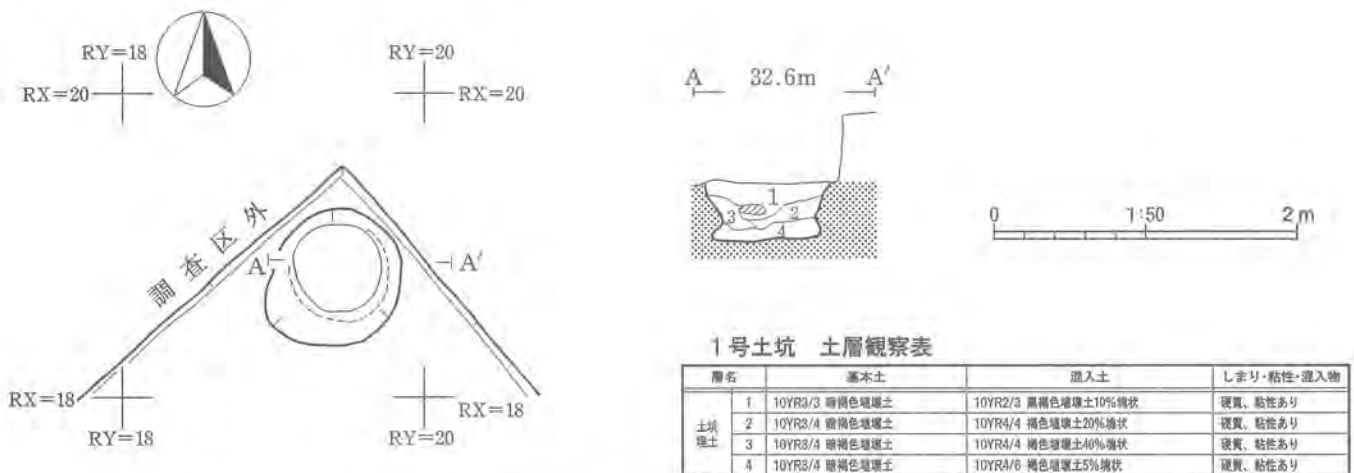
本土坑の形態から縄文時代に属するものと考えられるが、遺物は出土していないため詳細な年代については不明である。

### (2) 遺物包含層 (第7図、写真図版7～21・48～61)

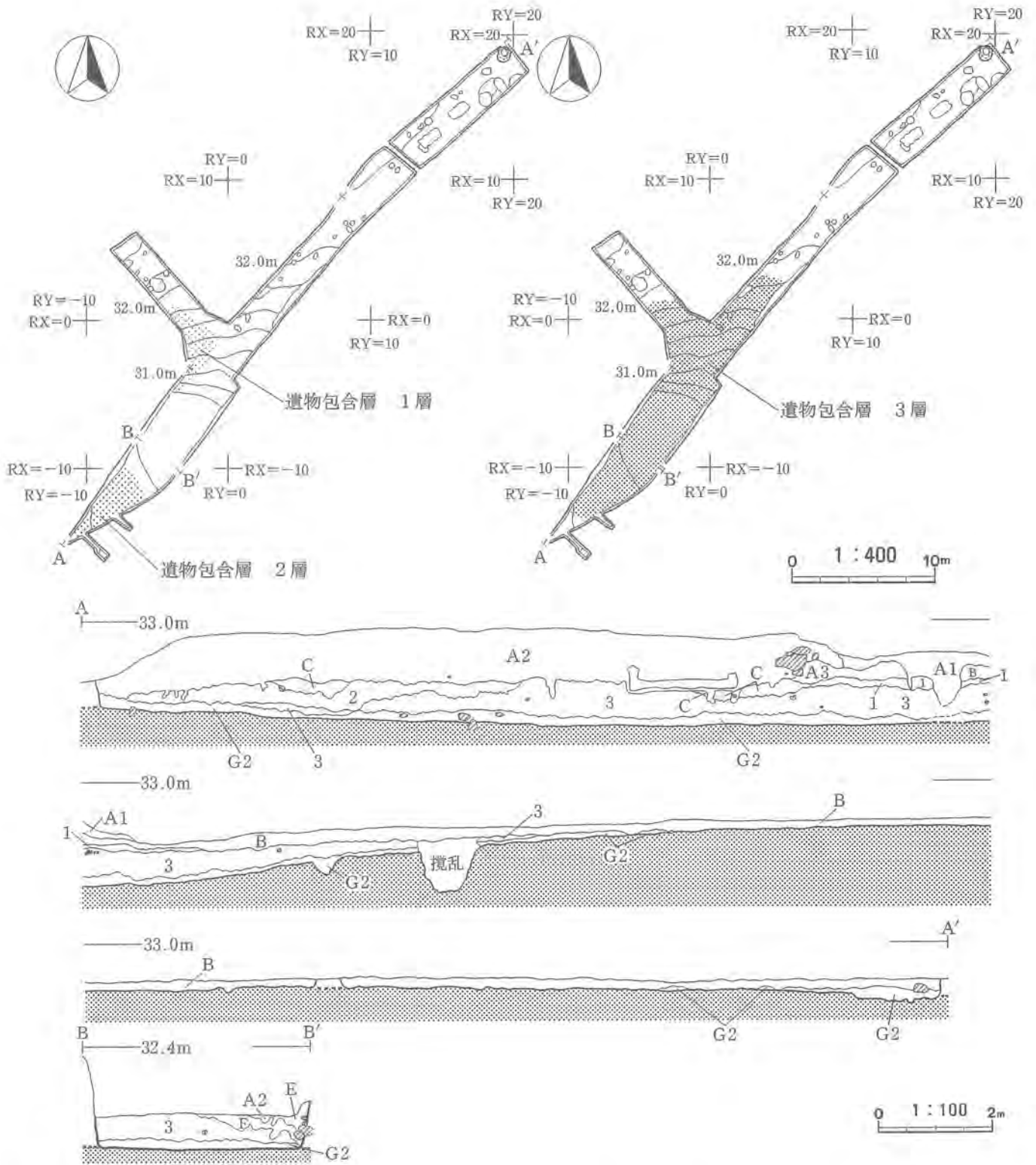
遺物包含層は調査区西端から中央部で確認され、基本土層A・B層を掘り下げた時点で検出されている。**分布範囲**は南北6.9m、東西23.6mを測り、層厚は最大で65cmである。後述するように、この分布範囲は1層～3層を含めた範囲である。遺物包含層の南端は現在通る市道向川原荷竹線に切られ確認することはできなかったが、本来の分布範囲はさらに南へ広がっていたと思われる。

**堆積土**は3層に分けられる。1層(基本土層表記：D層)は黒色を呈する埴壤土を基本土とし、やや硬質で粘性もややあり、2層(基本土層表記：E層)は暗褐色を呈する埴壤土で調査区西端のみ堆積している。3層(基本土層表記：F層)は暗褐色を呈する埴壤土を基本土とし、やや硬質で粘性はややある。2層の方がやや明るい土色をもち、層厚も最大で60cmと厚い。

1層は調査区中央部で南北約4.2m、東西約4.6mの範囲に分布している。これは一部調査区外に延びているため、調査した部分の範囲である。自然堆積と思われ、層厚は薄い。さらに1層の上層には盛土層や表土層が堆積していることから、1層の上部は掘削されている可能性も考えられる。2層は



第6図 1号土坑 平面図・断面図



遺物包含層 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土	A1 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土	10YR2/3 黒褐色埋埋土10%塊状	硬質、粘性あり 炭化物少量
	A2 10YR2/1 黒色埋埋土	10YR4/6 褐色シルト質埋埋土10%塊状	やや硬質、粘性なし
	A3 10YR3/4 暗褐色埋埋土	10YR6/8 10YR2/2 黒褐色埋埋土20%塊状	硬質、粘性あり
表土	B 10YR2/3 黒褐色埋埋土	10YR4/6 褐色シルト質埋埋土10%塊状	硬質、粘性あり
埋埋土	C 10YR2/2 黒褐色埋埋土	10YR6/8 同質褐色埋埋土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり
遺物包含層	1 10YR2/1 黒色埋埋土	10YR2/3 黒褐色埋埋土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10YR3/3 暗褐色埋埋土	10YR2/3 黒褐色埋埋土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10YR3/3 暗褐色埋埋土	10YR2/3 黒褐色埋埋土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
池山 産産層	D 10YR3/4 暗褐色シルト質埋埋土	10YR3/3 暗褐色シルト質埋埋土5%塊状	硬質、粘性あり

調査区南西部南北セクション 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土	E 10YR2/2 黒褐色埋埋土	10YR3/1 黒褐色埋埋土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
埋埋土	F 10YR2/1 黒色埋埋土	10YR2/2 黒褐色埋埋土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

第7図 遺物包含層 平面図・断面図

調査区西部にのみ堆積し、分布範囲は1層同様調査した部分の範囲であるが、南北約2.3m、東西約6.2mを測る。3層と比較すると遺物量は極端に少ない。3層は調査区中央部において南北約6.3m、東西約21.9mの範囲に分布し、1・2層に比しても遺物量は豊富である。1・2層よりも下層に堆積しているため、堆積時期はそれらよりも古いということがいえる。なお、1層と2層については土層の重複はみられず、切り合いによる時期差は推測することができない。

これらの遺物包含層が堆積している地点は地山面の標高で約31.9m～約30.8mの範囲に堆積し、調査区北側では30.9m以上の地点には堆積していない。このことから標高が低いところに局所的に堆積している土層と考えられ、堆積状況などからも自然堆積を呈するものと思われる。

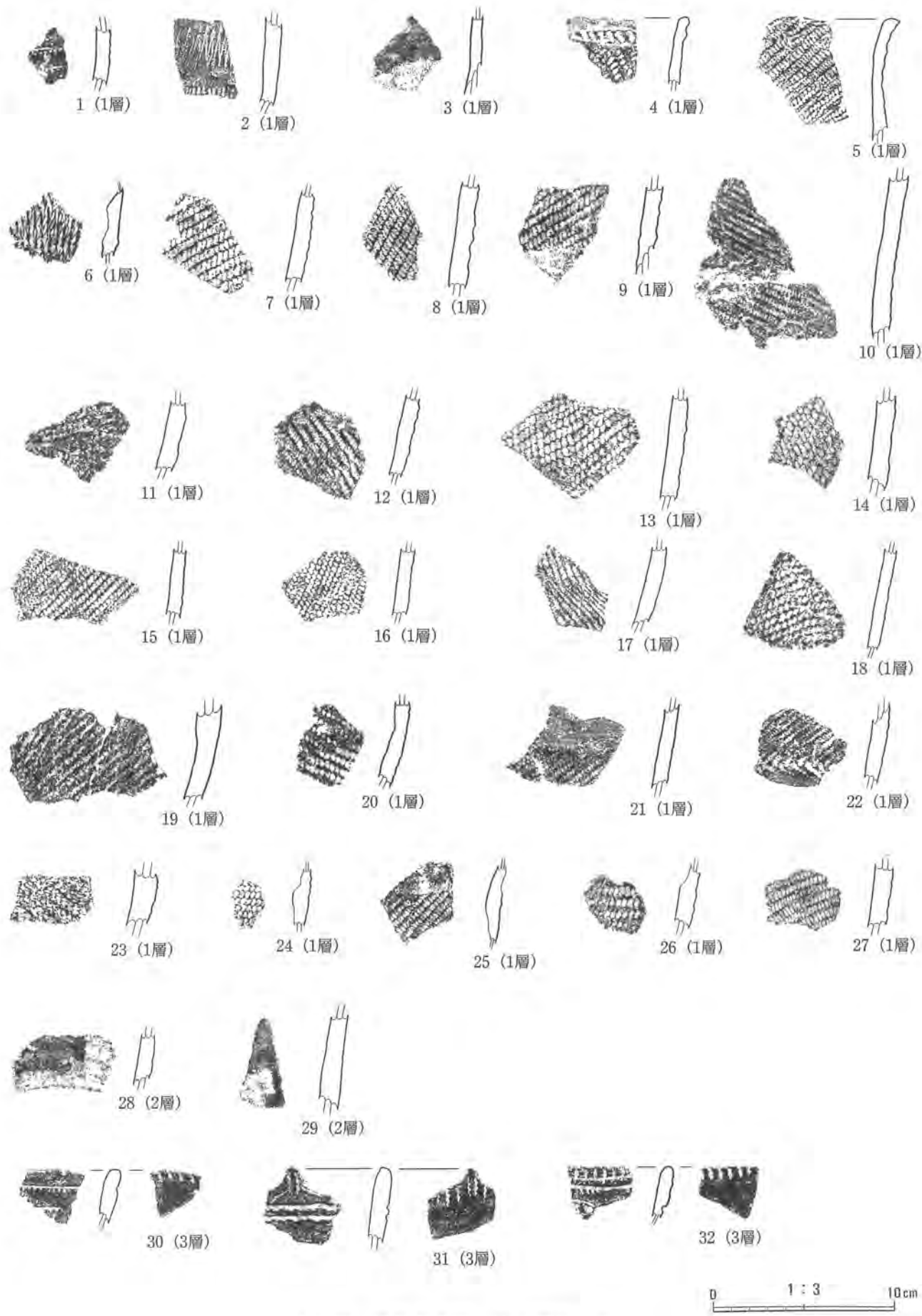
これらの遺物包含層から出土した遺物については、次に詳述する遺物の文様や形態などから縄文時代早期中葉から前期初頭に属すると考えられ、2層からは縄文時代早期中葉の土器のみ、1層・3層から縄文時代早期中葉から前期初頭までの土器が出土している。したがって、遺物包含層の堆積時期については縄文時代前期初頭以降と推測することができる。さらに、1層～3層と細別された層により堆積した順番については確定しているが、それぞれの層から出土した土器をみると時期差はみられず、そのため短期間のうちに堆積したものと考えることができる。

遺物は縄文土器・石器が出土し、334点を図示した。

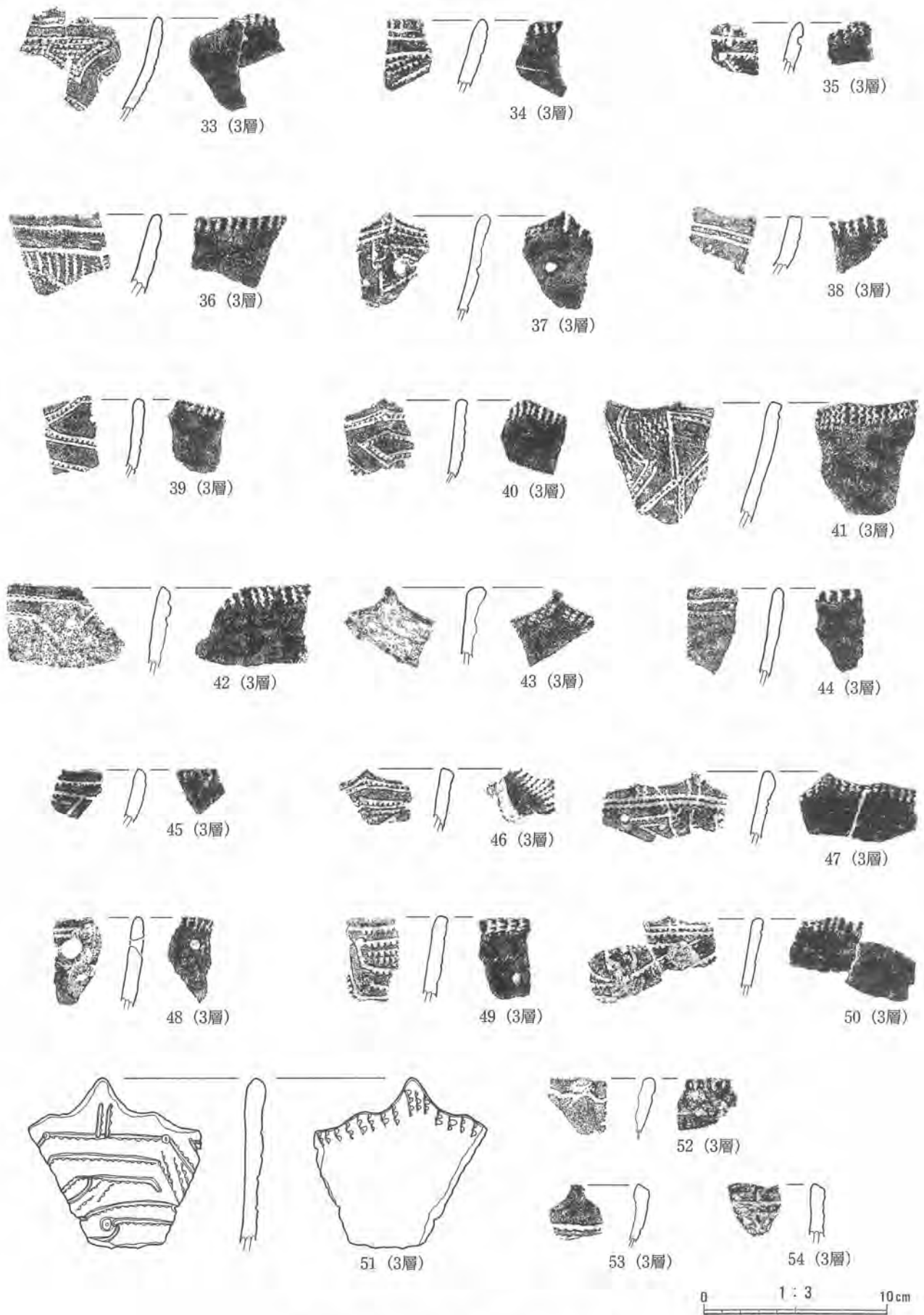
1～27は1層から出土している。1は横方向の沈線と貝殻腹縁文が施文されている。2は貝殻腹縁の圧痕文が横方向に連続している。3は内外面ともナデ調整され、焼成が良好である。1～3は縄文早期中葉に属すると思われる。4・5は口縁部の破片で、4は横方向に粘土紐の貼り付けがみられ、その上部には刺突が連続している。5は口唇部までLR単節縄文が施文されている。6～18は胎土に繊維が含まれている胴部の破片で、LR単節縄文(7～9、13～16、18)、RL単節縄文(12、17)、撚糸文(6)が施文されている。10・11は摩滅のため縄文の詳細は不明である。19～27は胴部の破片で、胎土に繊維は含まれていない。LR単節縄文(21、24～27)、RL単節縄文(19、20、23)が施文されている。22は羽状縄文で、RL単節縄文が施文され結束はみられない。4～27は縄文時代前期に属すると思われる。

28・29は2層から出土している。ともに内外面はナデ調整され、焼成が良好である。胎土・焼成などから縄文時代早期中葉に属すると思われる。

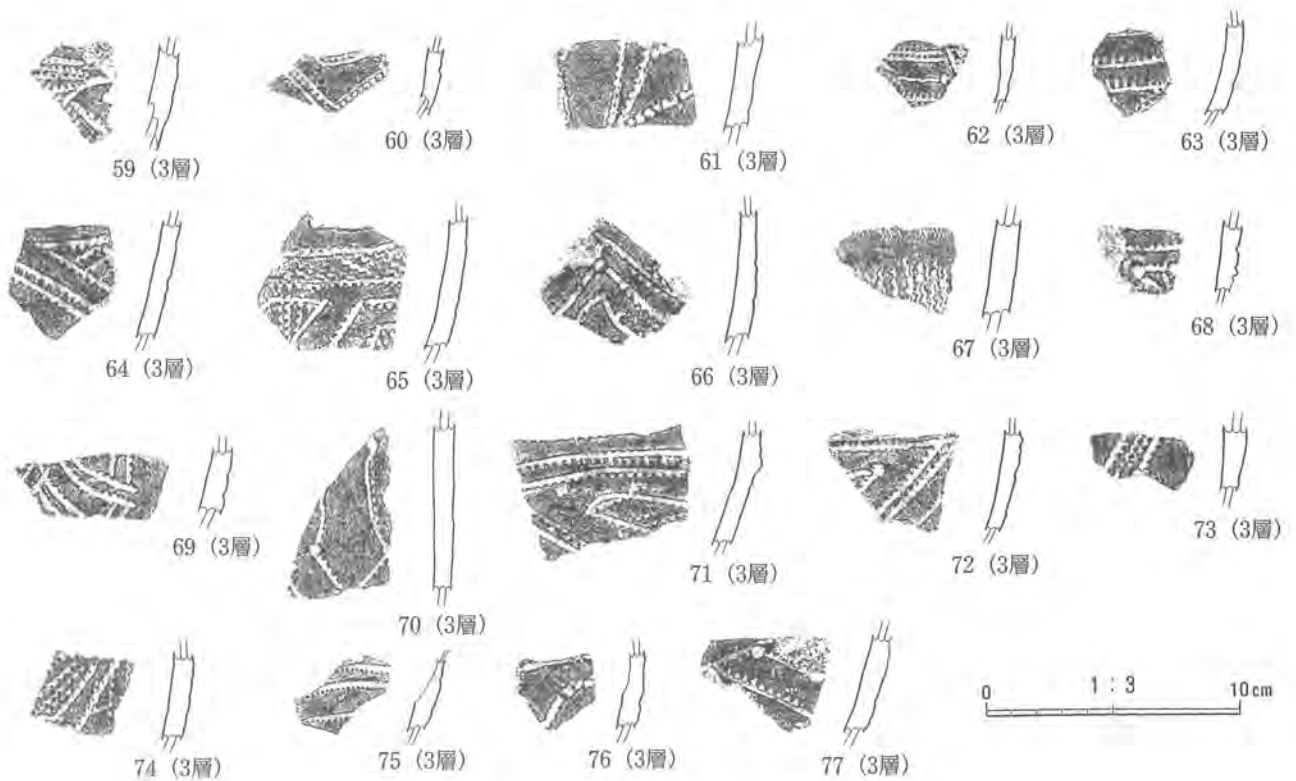
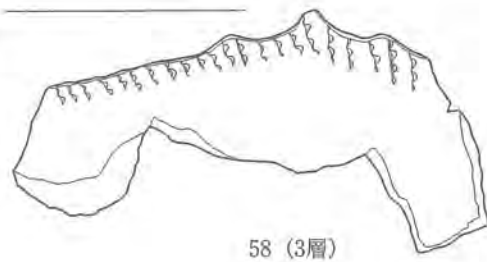
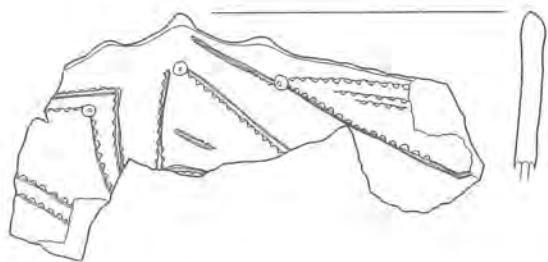
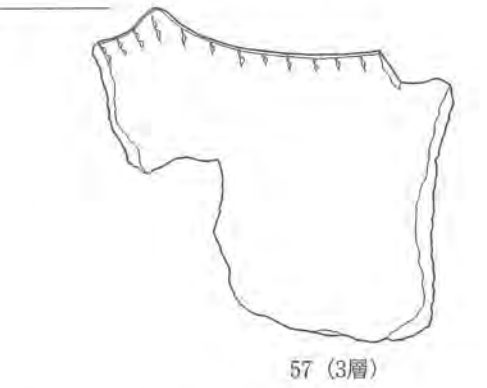
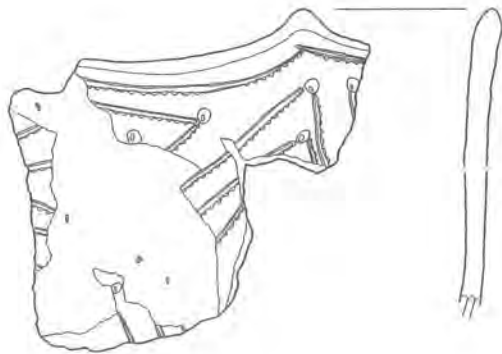
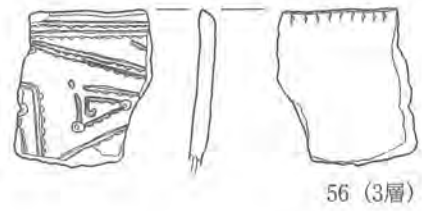
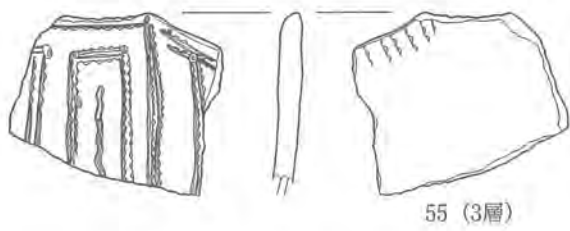
30～334は3層から出土している。30～58は貝殻腹縁文が施文されている口縁部の破片である。波状の小突起がみられ、さらに口縁部の内面には貝殻腹縁圧痕文が刻み様に連続して施文されているのが特徴である。30は横方向の沈線の上に貝殻腹縁文がみられる。31は口唇部に小突起がみられ、その突起部分にも貝殻腹縁圧痕文が施文されている。また、その下部には棒状のものを利用し横方向に押し引いた文様がみられる。32は横位の沈線と貝殻腹縁文、33は沈線と貝殻腹縁文で逆三角形のモチーフを作り出し、沈線と沈線が交わる三角形の鋭角部分には刺突が施されている。34は横位の沈線と貝殻腹縁文、35は横位の沈線と貝殻腹縁文がみられ、その下部には33と同様逆三角形のモチーフに刺突が施文されている。36は横位の沈線と貝殻腹縁文が平行して施文され、その間には貝殻腹縁圧痕文が連続してみられる。37は口唇部に小突起があり、その形態に合わせ沈線が「八」状に引かれ、貝殻腹縁文がその上から施文されている。三角形のモチーフが沈線と貝殻腹縁文で作られ、要所に刺突がみられる。また、補修孔が1箇所観察される。38～40は沈線と貝殻腹縁文により2本の平行した線や三角形、さらに菱形状のモチーフを作り出している。41は波状口縁で、口唇部まで沈線及び貝殻腹縁文が施文されている。「X」字状の幾何学的な文様で、沈線と沈線の間には貝殻腹縁が連続して圧痕



第8図 遺物包含層 出土遺物 (1)

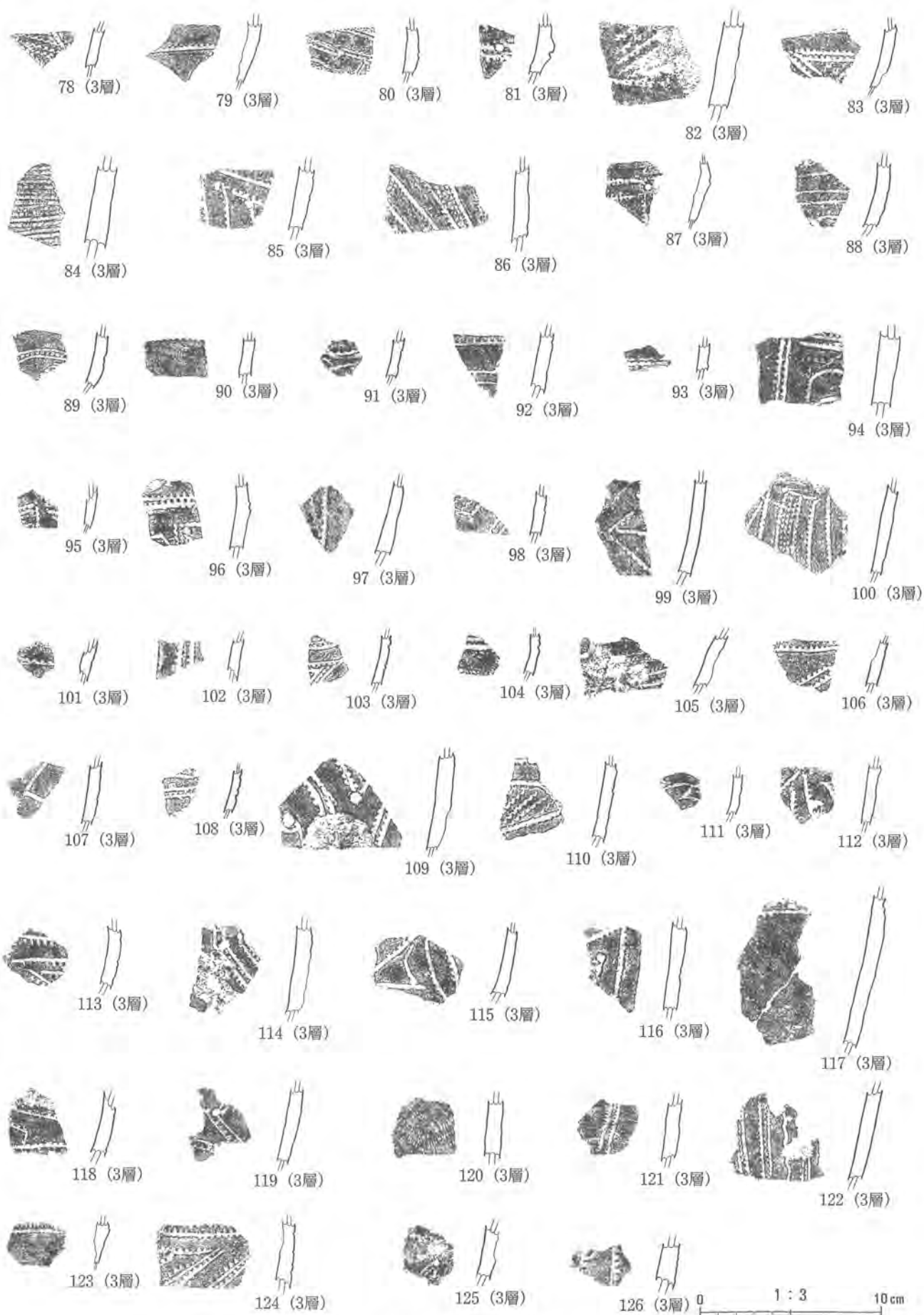


第9図 遺物包含層 出土遺物(2)

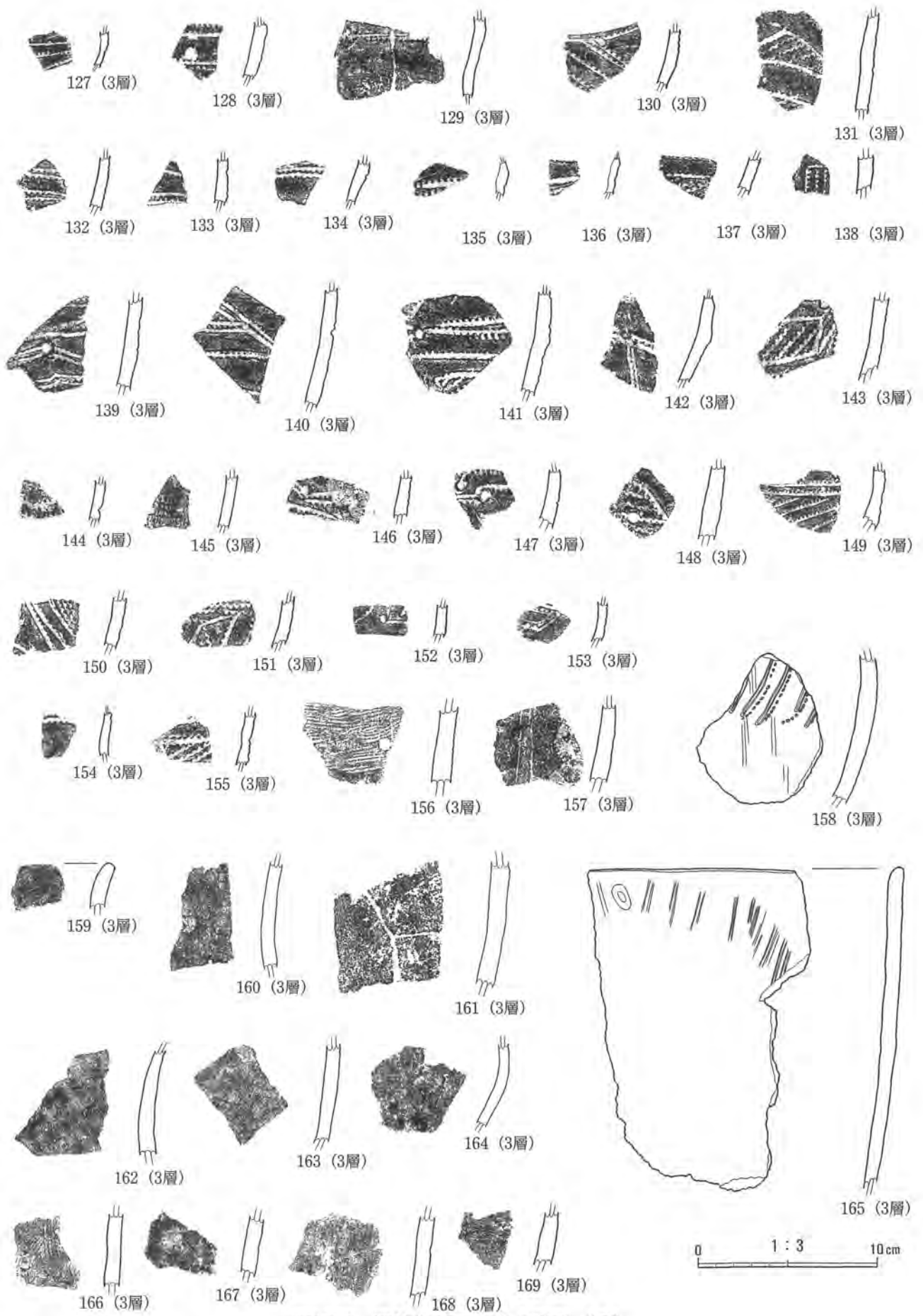


第10図 遺物包含層 出土遺物 (3)

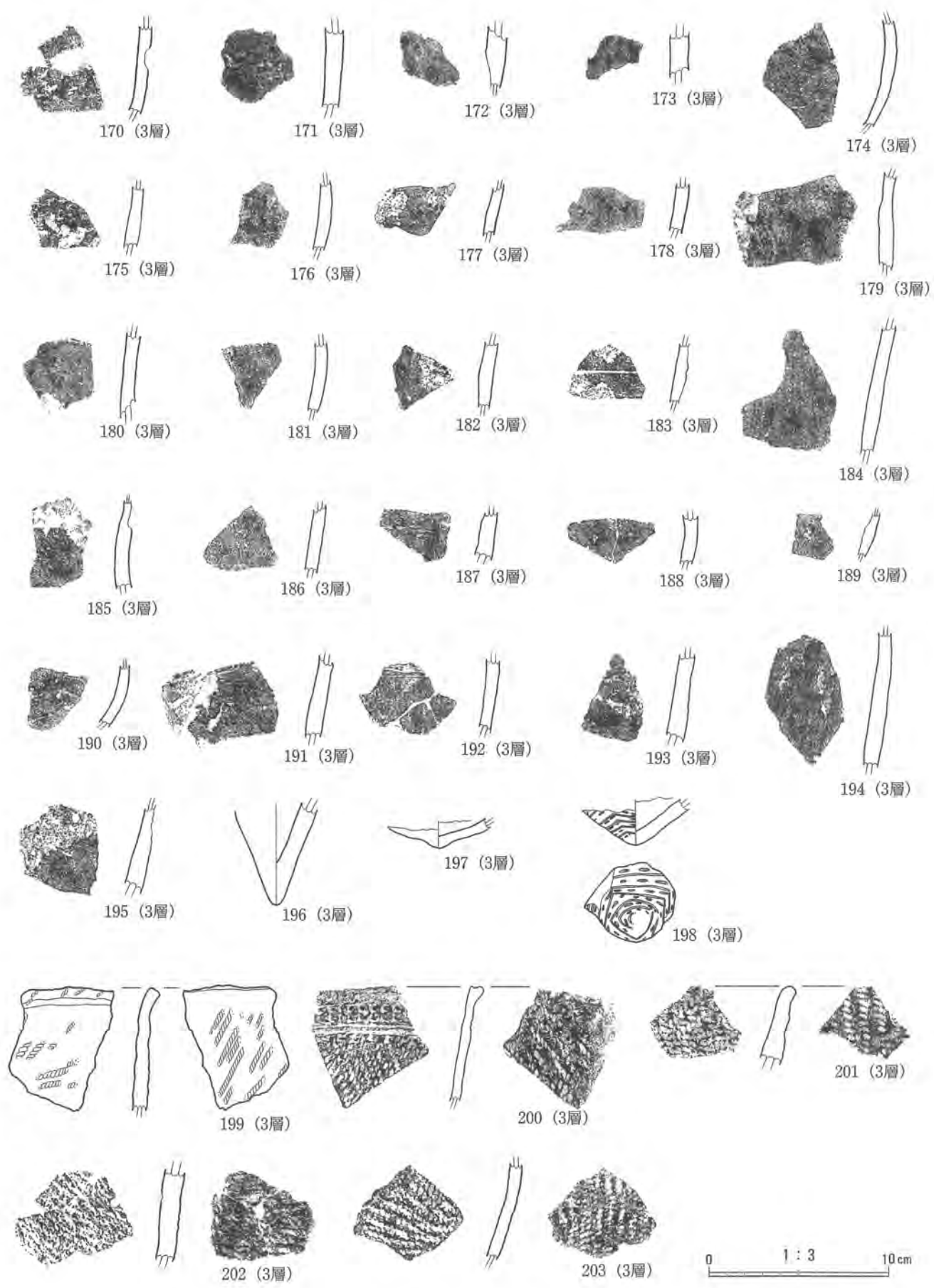




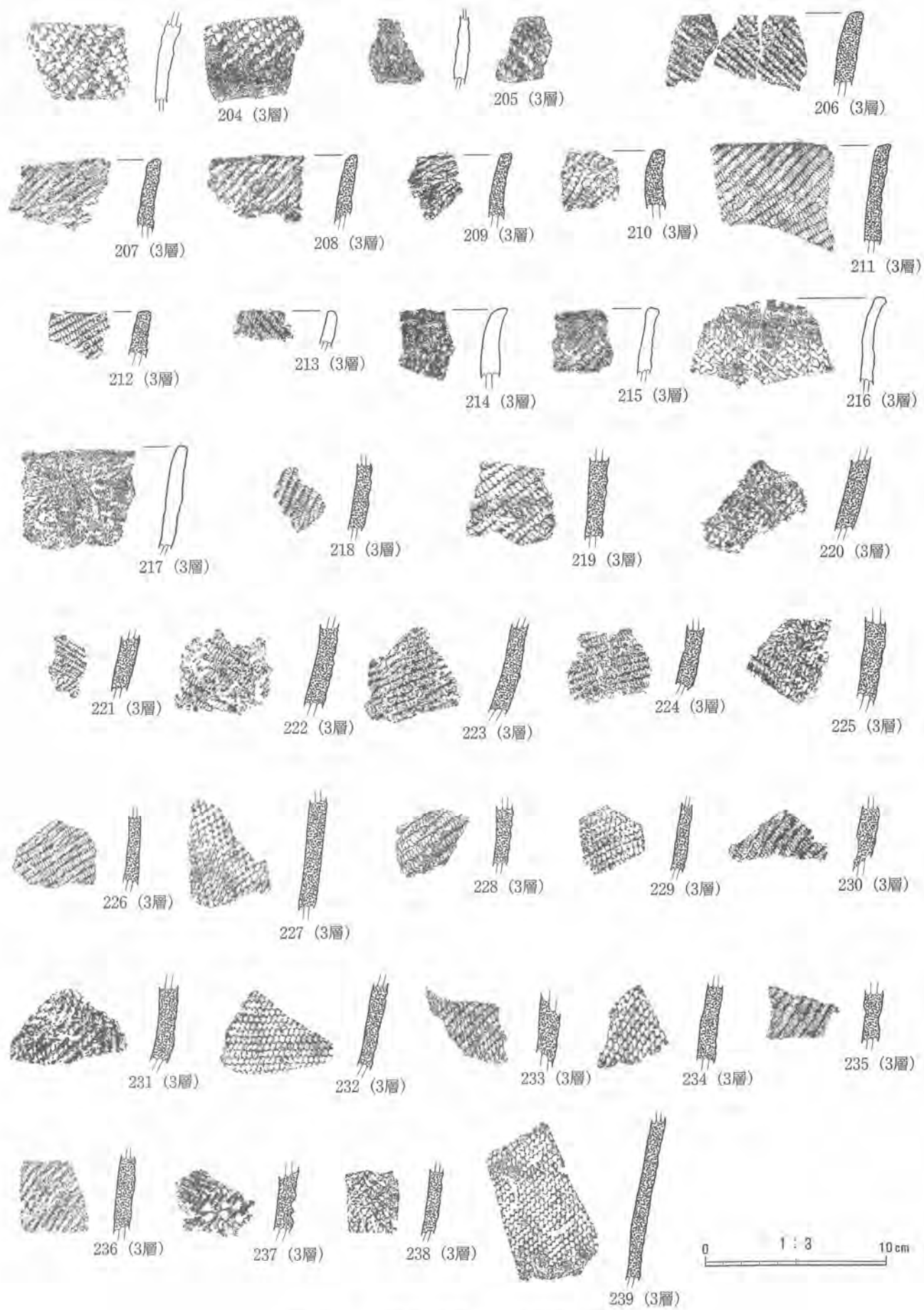
第11図 遺物包含層 出土遺物 (4)



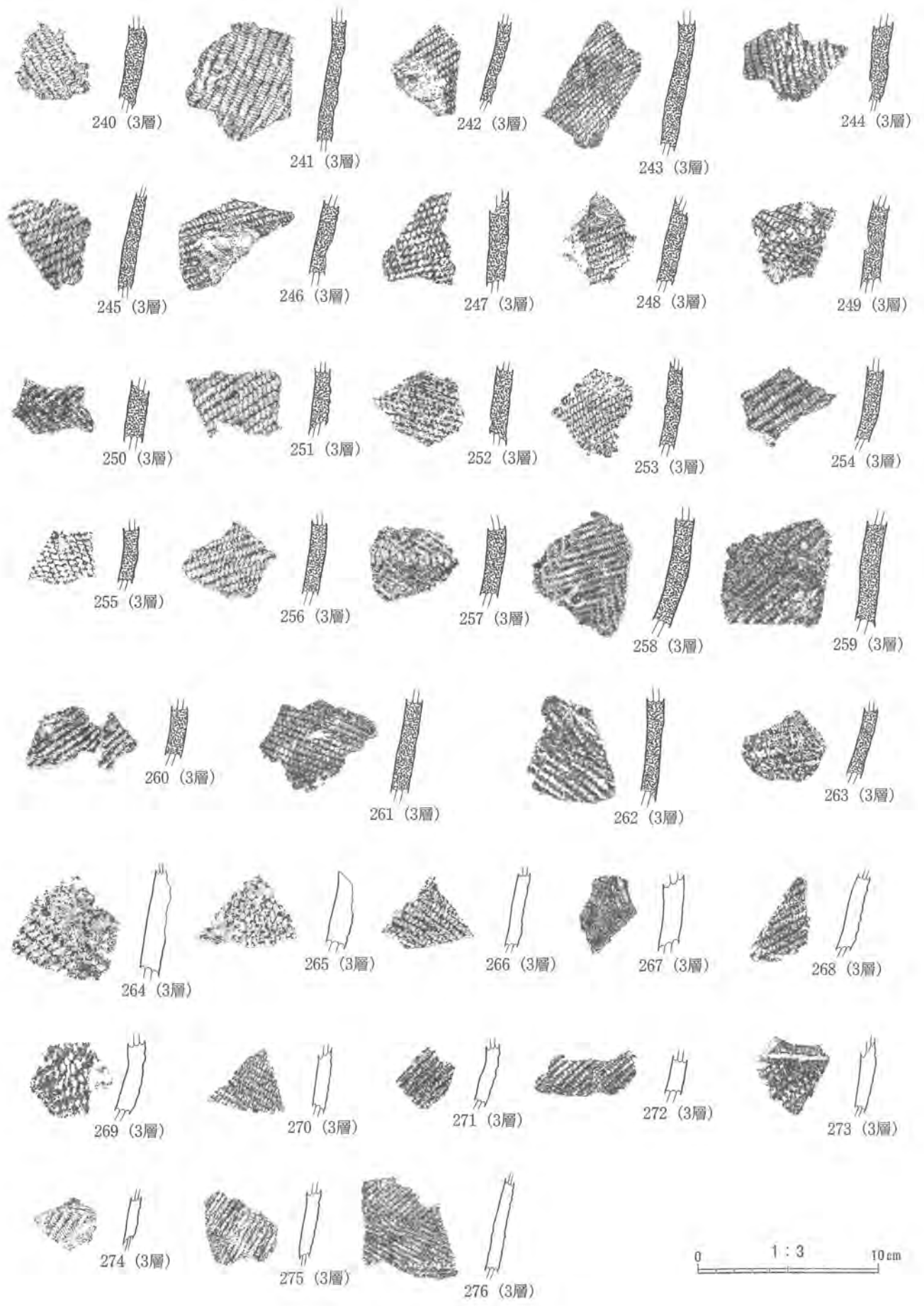
第12図 遺物包含層 出土遺物 (5)



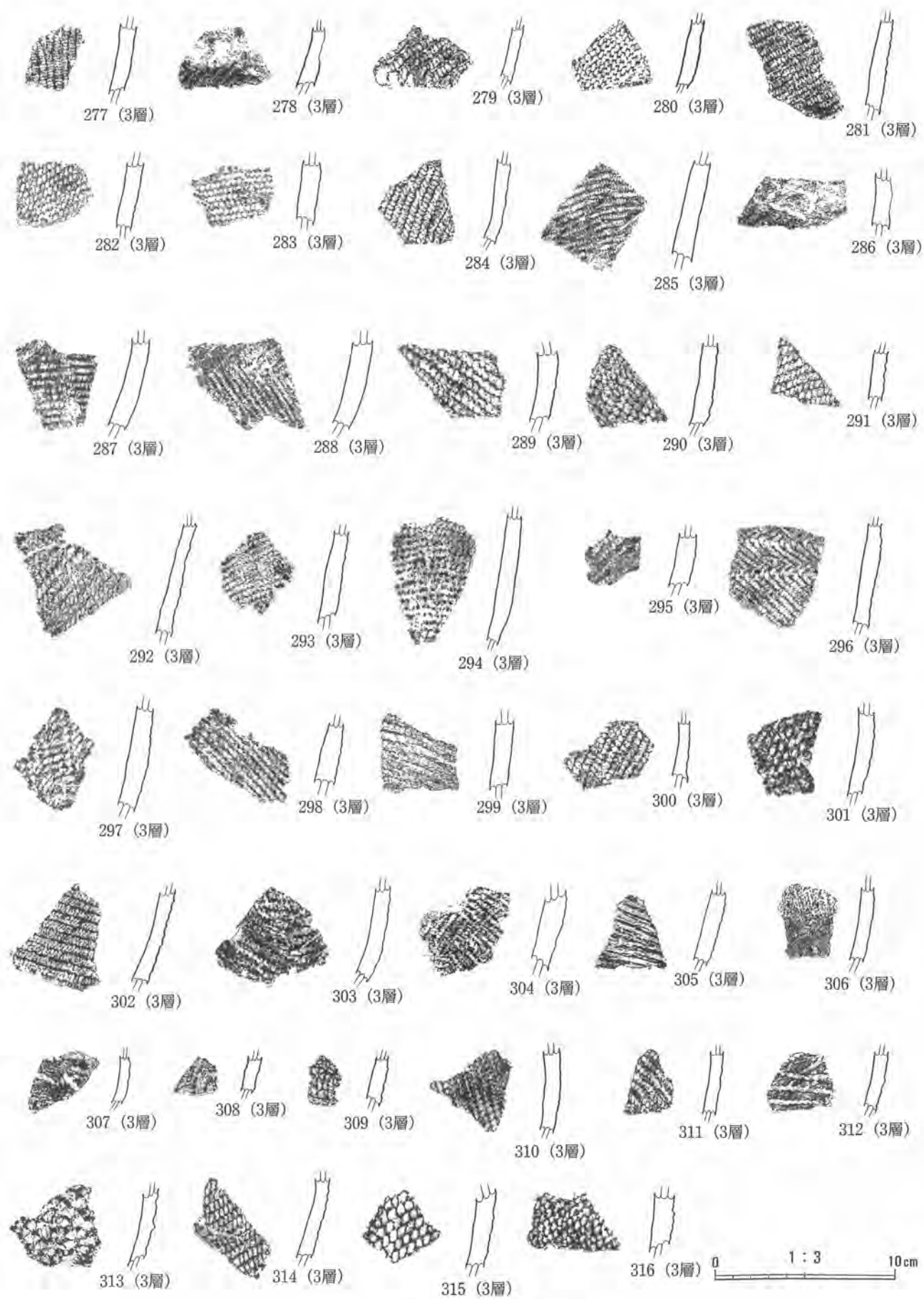
第13図 遺物包含層 出土遺物 (6)



第14図 遺物包含層 出土遺物 (7)

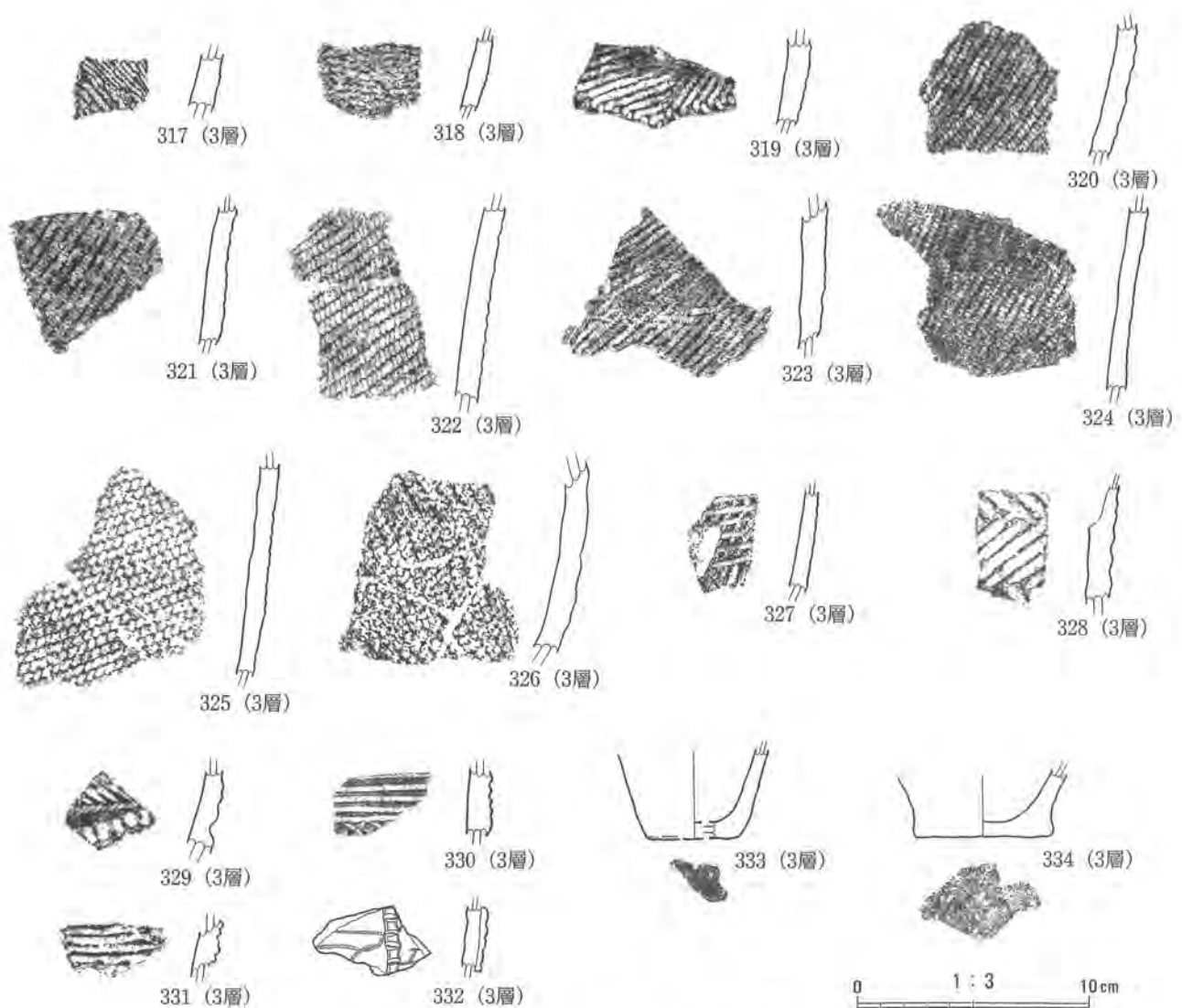


第15図 遺物包含層 出土遺物 (8)



第16図 遺物包含層 出土遺物 (9)

されている。42・43は外面剥離のため詳細は不明だが、内面には口唇部に沿って貝殻腹縁圧痕文が連続して施文されている。44～50は沈線を引いた後に貝殻腹縁文が施文され、さらに沈線が交差する箇所には刺突が施されている。平行の2本の線のモチーフや49のような長方形のモチーフ、50のような逆三角形のモチーフなど様々な幾何学的な構成をもつ。51は小突起をもつ口縁部の破片で、等間隔に並ぶ横位の沈線の上に貝殻腹縁文が施文され、刺突を基点とした線の屈曲や渦巻状の文様構成がみられる。また、横位の沈線+貝殻腹縁文からは小突起に向かって縦方向に伸びる沈線+貝殻腹縁文が2本あるのが特徴である。52は口縁部下端に横位の波状沈線がみられる。53・54は内面に刻み様の貝殻腹縁圧痕文がみられず、外面に53は棒状の施文具による押引文、54は横方向の沈線が施文されている。55は凹凸の緩やかな波状口縁で、小突起部分から胴部に向かって縦方向と横方向に伸びる沈線+貝殻腹縁文が「T」字状にみられ、さらに縦方向に長い長方形をモチーフにした沈線+貝殻腹縁文が施文されている。また、その長方形の文様の間には波状の沈線が垂下している。56は平縁の口縁部で、横位や斜行の沈線+貝殻腹縁文がみられ、その間には逆三角形のモチーフがみられる。その角の部分にあたる3箇所には刺突が施されている。57は口縁部から胴部にかけての破片で、貝殻腹縁文が施文された中では本遺跡で最も残存状態が良い。波状口縁で小突起が1箇所みられる。外面は剥離がひど



第17図 遺物包含層 出土遺物 (10)

く、全体の文様構成は不明だが、沈線＋貝殻腹縁文による縦方向に細長い菱形状のモチーフと考えられ、その屈曲する部分には刺突が施されている。58は小突起をもつ波状口縁で、沈線・貝殻腹縁文・刺突を用いて幾何学的な文様を作り出している。沈線と沈線が鋭角に交わる文様がみられるが、どのような構成であったのかは残存状況が悪く詳らかではない。

59～158は貝殻腹縁文が施文されている口縁部付近もしくは胴部の破片である。小破片が大半を占め、文様のモチーフは不明なものが多い。59～64は沈線＋貝殻腹縁文を用いて横方向に延びる線や逆三角形形状のモチーフを表出している。65は平行する沈線や斜行する線の中に貝殻腹縁連続圧痕文が施文されている。66は「八」状の文様がみられるが、本来は菱形状を呈する文様と思われる。67は貝殻腹縁を横方向に連続して圧痕したものである。68～83は横位や斜行の沈線と貝殻腹縁文が施文されているもので、沈線が屈曲する箇所に刺突がみられる。84は貝殻腹縁の押し文で横方向に施文されている。85～119は横位や斜行の沈線と貝殻腹縁文が施文され、沈線が屈曲する箇所に刺突がみられる。86・100は斜行する沈線や縦方向の平行する沈線が引かれ、その間に貝殻腹縁文が連続して施されている。120は67と同様貝殻腹縁を連続して圧痕したもので、120の場合は多方向に施文している。121～155も横位や斜行の沈線と貝殻腹縁文が施文され、沈線が屈曲する箇所に刺突がみられる。特に122は縦方向の平行の沈線と貝殻腹縁文で構成され、垂下する波状の沈線も施文されている。156は貝殻腹縁の押し文である。157は縦方向の沈線と貝殻腹縁文が施文され、158も同様に沈線と貝殻腹縁文が平行して施されている。

159～195は文様がみられずナデ調整されたものであるが、胎土や焼成から縄文時代早期中葉に属すると考えられるものである。159は口縁部の破片で、緩やかに外反している。内外面ともにナデ調整されている。160～164・166～195は胴部の破片である。内外面ともにナデ調整され、焼成が良好で胎土が硬くてしまりがある。165は口縁部から胴部にかけて残存し、外面には貝殻条痕文が施されている。1箇所に補修孔がみられる。

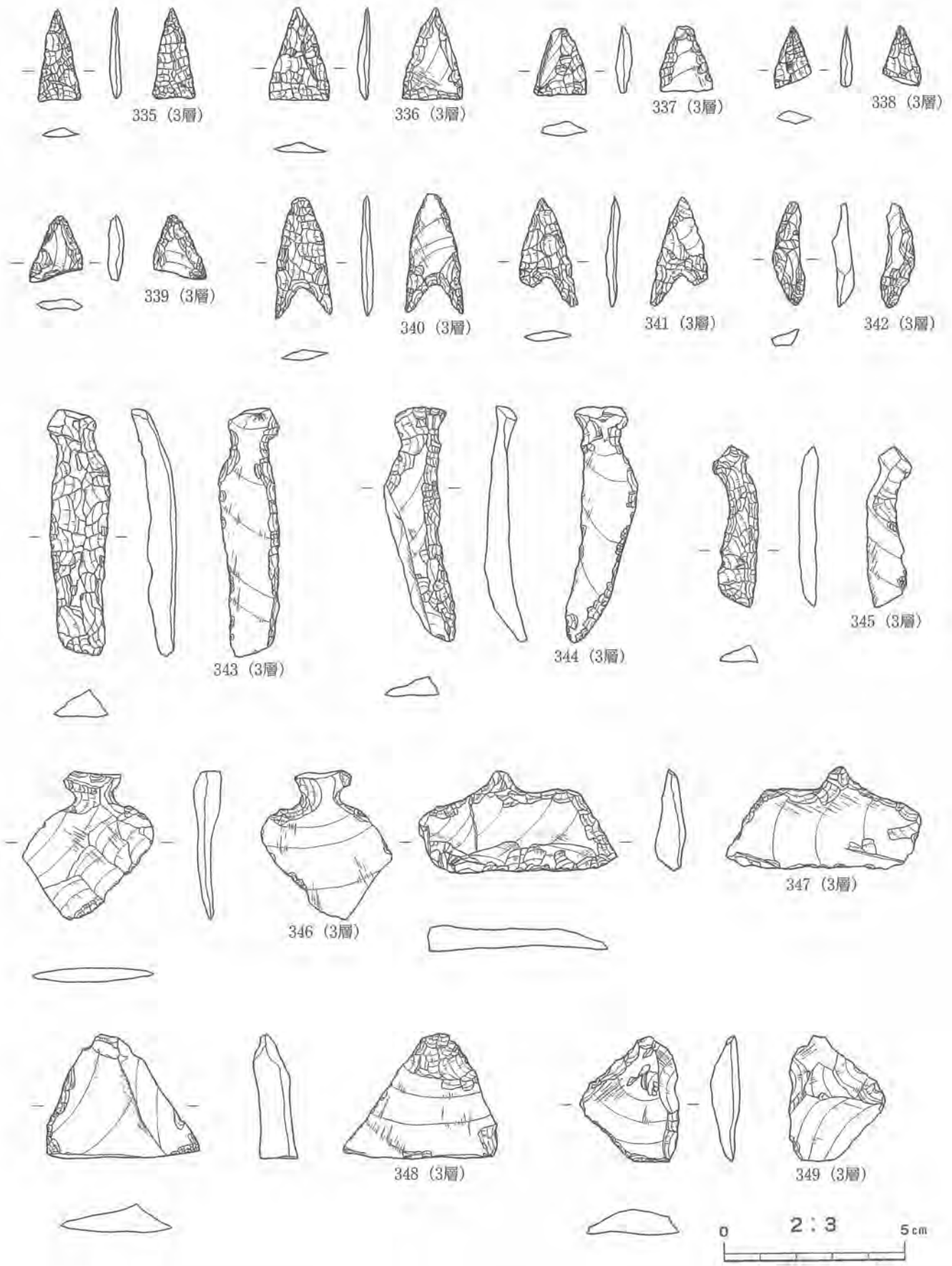
196～198は底部の破片である。全て尖底で、196・197は内外面ともにナデ調整されている。198は四角形状に沈線が連続して引かれ、その間には細長い刺突が施されている。

199～201は口縁部の破片で表裏縄文が施されている。199は外面にR L単節縄文、内面にL R単節縄文が施されている。200は内外面にL R単節縄文が施文され、その後横方向の沈線と横方向の棒状の施文具による押し文がみられる。201は内外面ともにL R単節縄文がみられる。全て直線的に立ち上がり、口唇部でやや外側に向かって開く。202～205は胴部の破片で、表裏縄文が施文されている。202・203は内外面ともにR L単節縄文が施文され、204は内外面にL R単節縄文が施文されている。205の外面はナデ調整で、内面にはR L単節縄文がみられる。これらの特徴から199～205は縄文時代早期後葉に属すると思われる。

206～217は口縁部の破片で、206～212の胎土には繊維が含まれている。口縁部の形態により直線的に立ち上がるもの（206～208、211、212、215、217）と外側に向かって緩やかに開くもの（209、210、214、216）、やや内湾気味に立ち上がるもの（213）に分けられる。206・209・214・217は摩滅のため縄文の詳細は不明であるが、それ以外は口唇部にまでL R単節縄文（207、210、211、212）やR L単節縄文（208、213、215）が施文されている。216は不明である。

218～263は胴部の破片で、全て胎土に繊維が含まれている。L R単節縄文（218、219、221～224、226、228～233、236、238～245、247、248、251～253、255、256、261、262）やR L単節縄文（225、234、235、246、249、254、258、259、260）、複節縄文（227）、無節縄文（237）が施文されている。





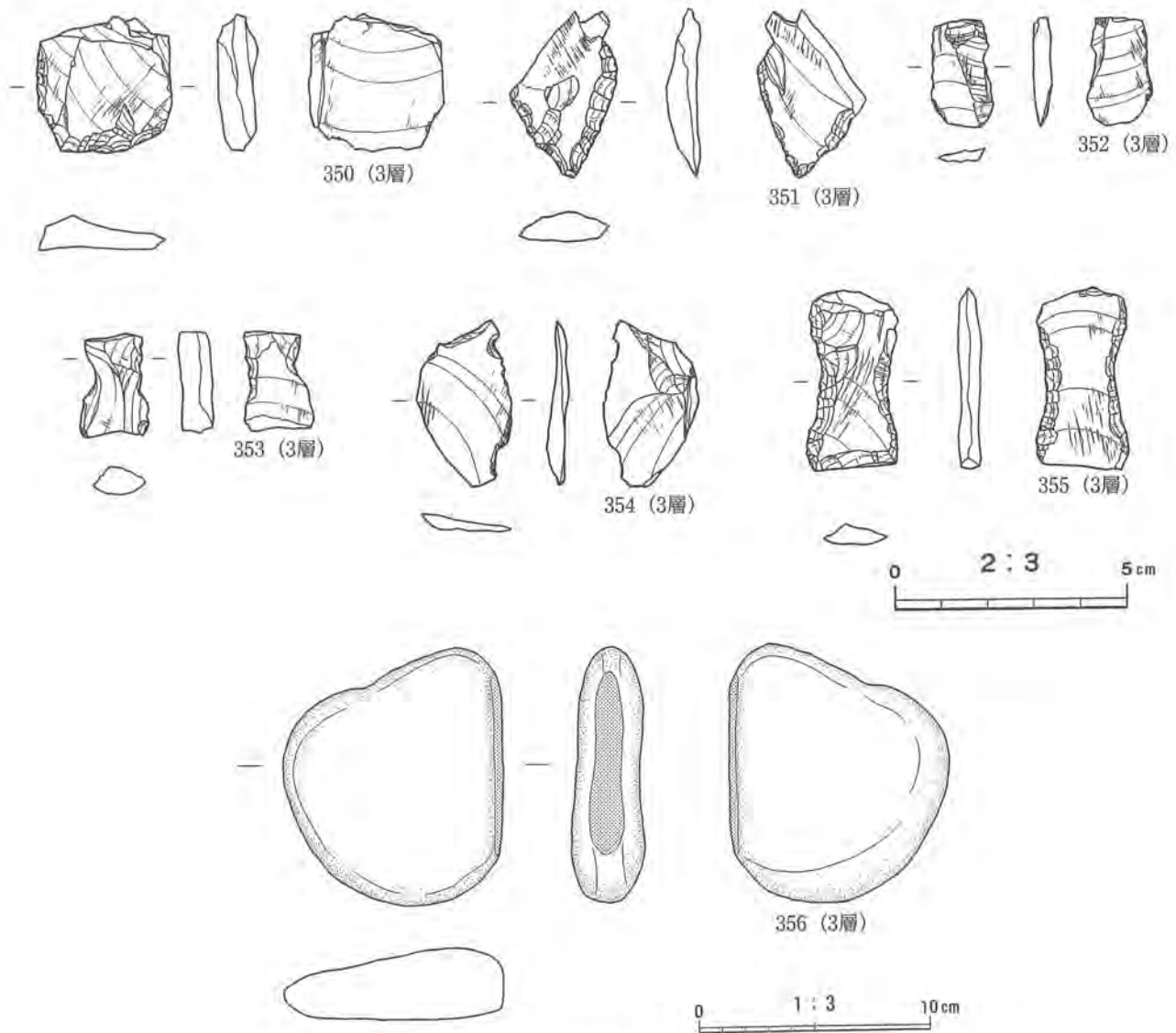
第18図 遺物包含層 出土石器 (1)

220・250・257・263は摩滅のため不明である。225・237・249は羽状縄文でいずれも結束はみられない。

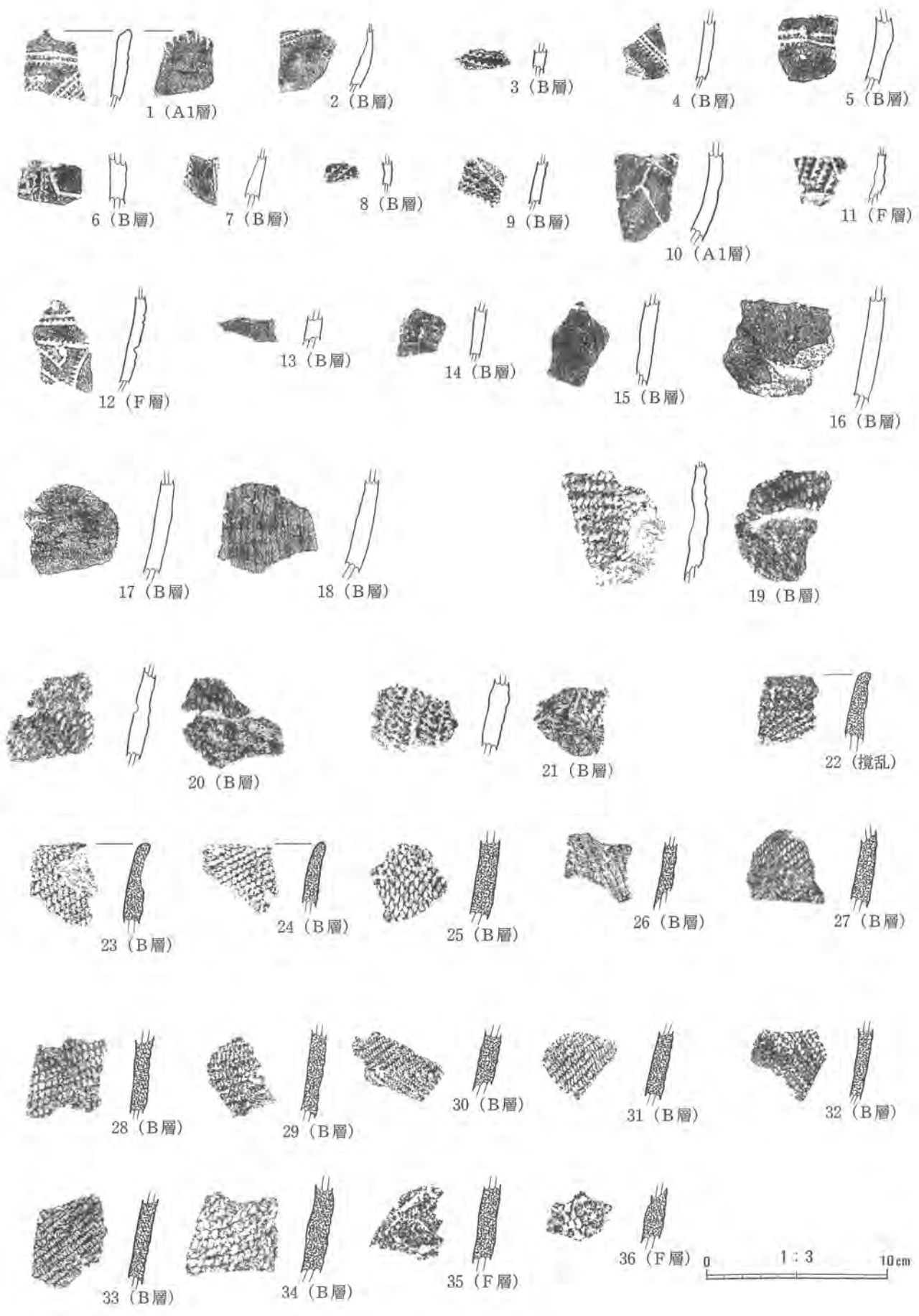
264～266は胴部の破片で、外面に縄文が施文されているものである。胎土に繊維は含まれていない。L R単節縄文 (264, 265, 268～270, 272, 274～286, 290～292, 294, 296, 300, 301, 303, 304, 309, 314～316, 320, 322, 324)、R L単節縄文 (266, 271, 288, 289, 293, 295, 302, 307, 310, 311, 317, 319, 321, 323)、複節縄文 (298, 325, 326)、無節縄文 (267, 299, 305, 306)、撚糸文 (312) が施文されている。273・287・297・308・313・318は摩滅のため縄文の詳細は不明である。274・276・279・288・296は羽状縄文で、276には結節がみられ、279には結束がみられる。それ以外には結束はみられない。327はL R単節縄文が施文された後に横方向のナデ調整が部分的にみられ縄文を消している。328は無節縄文で結束はみられない。329はL R単節縄文が施文され、その下部には横方向に連続した刺突がみられる。330には横方向の沈線が平行に連続してみられ、331には粘土紐を貼り付けた上に横方向の沈線が施されている。332には撚糸文がみられ、その上に縦方向の粘土紐が貼り付けられている。

333・334は底部の破片で、ともに平底である。内外面ともにナデ調整され、底部もナデ調整されている。

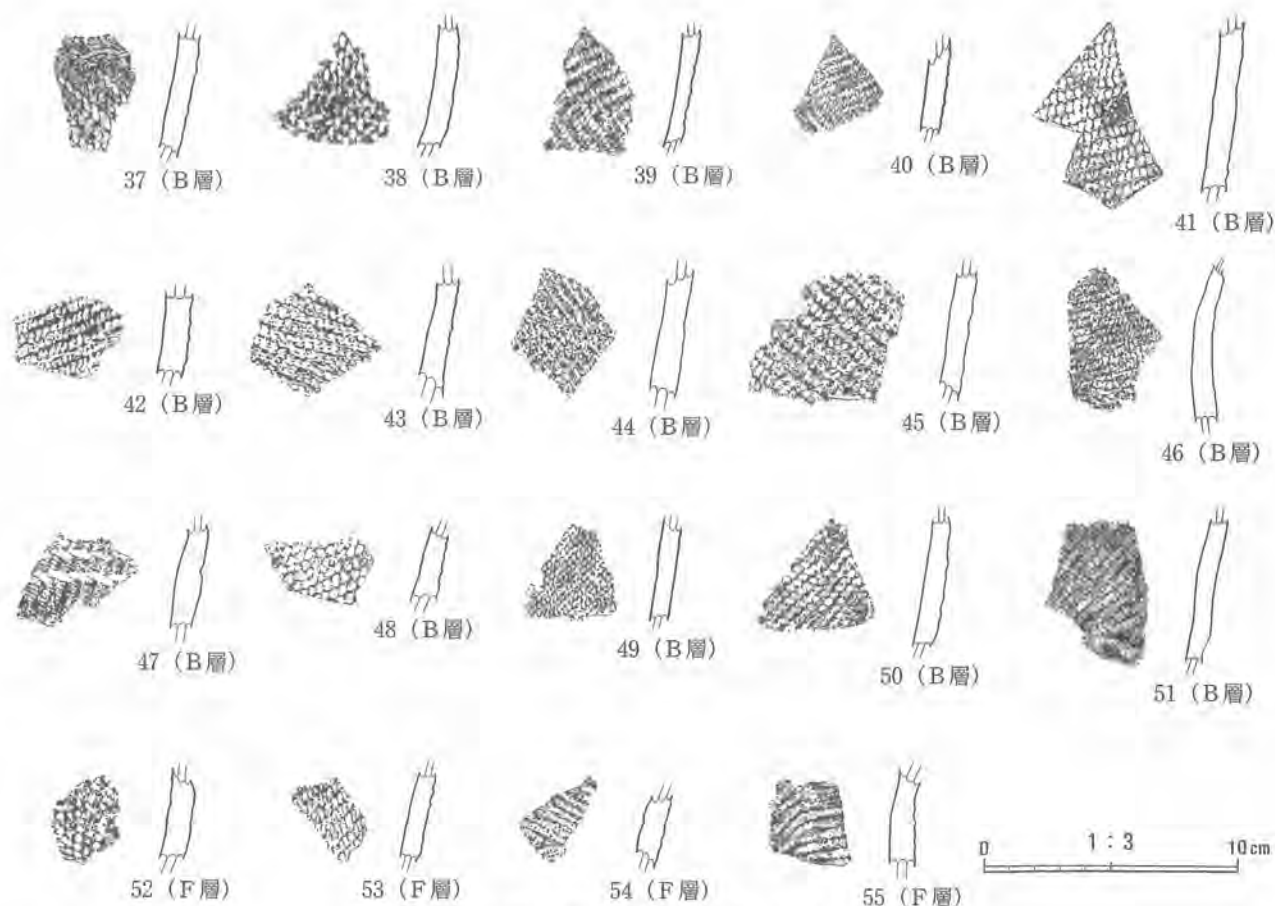
335～356は石器である。全て3層中からの出土である。335～337は平基無茎の石鏃で、335は両面に



第19図 遺物包含層 出土石器 (2)



第20図 遺構外出土遺物(1)



第21図 遺構外出土遺物(2)

調整剥離が施されているが、336・337は背面に一次剥離面が残っている。338・339は基部が欠損しているため基部形態は不明である。ともに両面に丁寧な調整剥離が施されている。340・341は凹基無茎の石鏃で、腹面の縁部には丁寧な調整剥離がみられる。340の背面には一次剥離面が大きく残っている。342は石鏃と考えられ、棒状の形態をもち、腹背両面の縁辺部に細かい調整剥離がみられる。343～347は石匙で、343～345は縦型、346・347は横型である。343・344は背面の縁辺部にも細かい調整剥離が施されている。347は腹面・背面ともに一次剥離面が残り、つまみ部は突起状を呈している。348～355は縁辺部に部分的な調整剥離がみられる不定形の石器である。

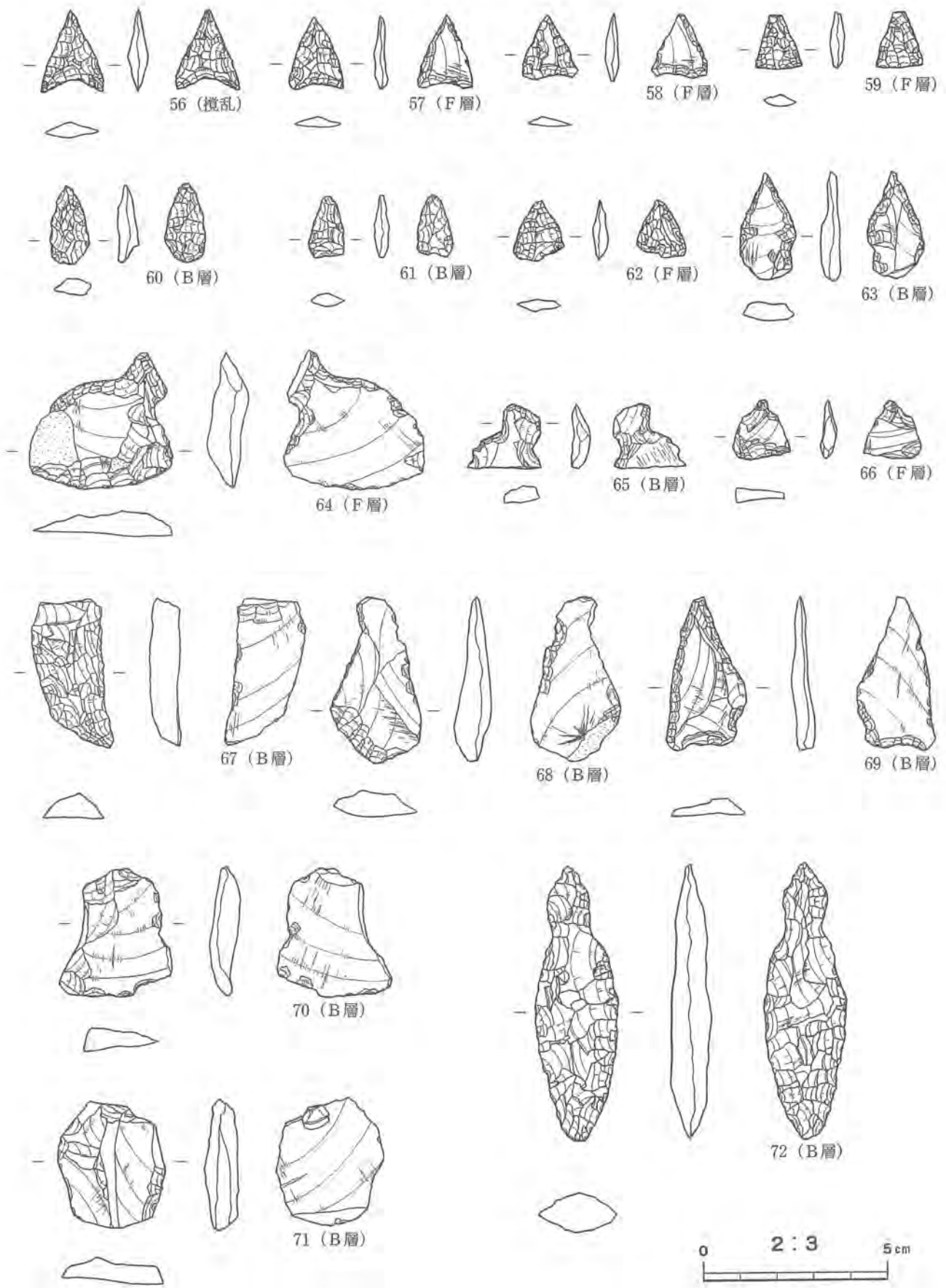
356は磨石で、最大厚3.2cmとやや扁平な形態をもち、片縁部に磨面がみられる。

### (3) 遺構外出土遺物(第20～22図、写真図版58～61)

遺構外からは縄文土器・石器が出土している。これらは調査区中央部～西部で確認された遺物包含層以外で、盛土層であるA層、表土であるB層、鉄滓が混入しているF層から出土したものである。なお、F層は調査区の中央部のみにみられ、遺物包含層の上層に堆積している。この層からは鉄滓、縄文土器、石器が出土しており、鉄滓が含まれていることから古代以降に堆積したものと考えられ、縄文土器や石器は混入したものである。出土した鉄滓は、「第3章調査の方法」で前述のとおり重量7515.6gを測り、流動滓や炉内滓などが混在している。

#### 縄文土器(1～55)

縄文土器は55点について図示した。



第22図 遺構外出土石器

### 早期に属するもの（1～21）

1～12は貝殻腹縁文が施文されているものである。1は口縁部の破片で、突起が1箇所みられる。沈線を引いたあとに貝殻腹縁文を沈線に沿って施文され、その後沈線が交差するところに刺突が施されている。口唇部の内面には刻み様の貝殻腹縁圧痕文が連続してみられる。2は沈線を引いた後に貝殻腹縁文が施文されている。3は貝殻腹縁文が連続して圧痕されている。4～6は沈線後に貝殻腹縁文が施文され、5のみさらに刺突が施される。7は沈線と貝殻腹縁文がみられ、それぞれの文様は重複していない。8は貝殻腹縁文が連続して施されている。9・10は沈線後に貝殻腹縁文が連続して圧痕される。11は貝殻腹縁文が横方向に連続して圧痕されている。12は沈線後に貝殻腹縁文が施文され、横方向や三角形のモチーフを作り出している。また沈線と沈線が交差する箇所には刺突が施されている。13～18は内外面にナデ調整されている。18は縦方向にナデ調整がみられ、その単位が明確にみることができる。焼成が良好で、胎土がかたい。19～21は表裏縄文で、19・21はLR単節縄文、20はRL単節縄文が施されている。

### 前期に属するもの（22～55）

22～24は口縁部の破片で、口唇部まで縄文が施文されている。全てLR単節縄文が施文され、22のみ羽状縄文で結束がみられる。胎土に繊維が含まれている。25～36は胴部の破片で、LR単節縄文（25、27～31、36）、RL単節縄文（26、32、33）、複節縄文（34）が施されている。35は摩滅のため不明である。30は羽状縄文で結束はみられない。37～55は胴部の破片で、胎土に繊維は含まれていない。LR単節縄文（38、39、41、42、44、46～48、51～54）、RL単節縄文（37、45、50、55）、複節縄文（40、43、49）が施されている。

### 石器（56～72）

石器は17点出土し、全て図示している。56～63は石鏃である。56～58は凹基無茎の石鏃で、56は腹面と背面の両面に丁寧な調整剥離が施されている。57・58は背面に一次剥離面が大きく残っている。59は平基無茎の石鏃で、腹背両面に丁寧な調整剥離がみられる。先端部は欠損している。60は基部が丸みを帯び、円基鏃の形態をもつ。61・62・63は基部の一部が欠損している石鏃である。63は腹背両面とも縁辺部にのみ調整剥離がみられる。

64～67は石匙である。64は横型で楕円形の形態をもち、腹面・背面に一次剥離面が残っている。65はつまみ部のみ残存しているもので、形態は不明である。66は小型の石匙と考えられ、つまみ状の突起がみられる。67はつまみ部が欠損しているが、縦型と思われる。

68はつまみ部を作り出している搔器である。69～71は不定形の削器で、両縁辺部に微細な調整剥離が施されている。

72はつまみ状の抉れた部分を有する筥状石器である。腹面・背面の両面に調整剥離が施されている。

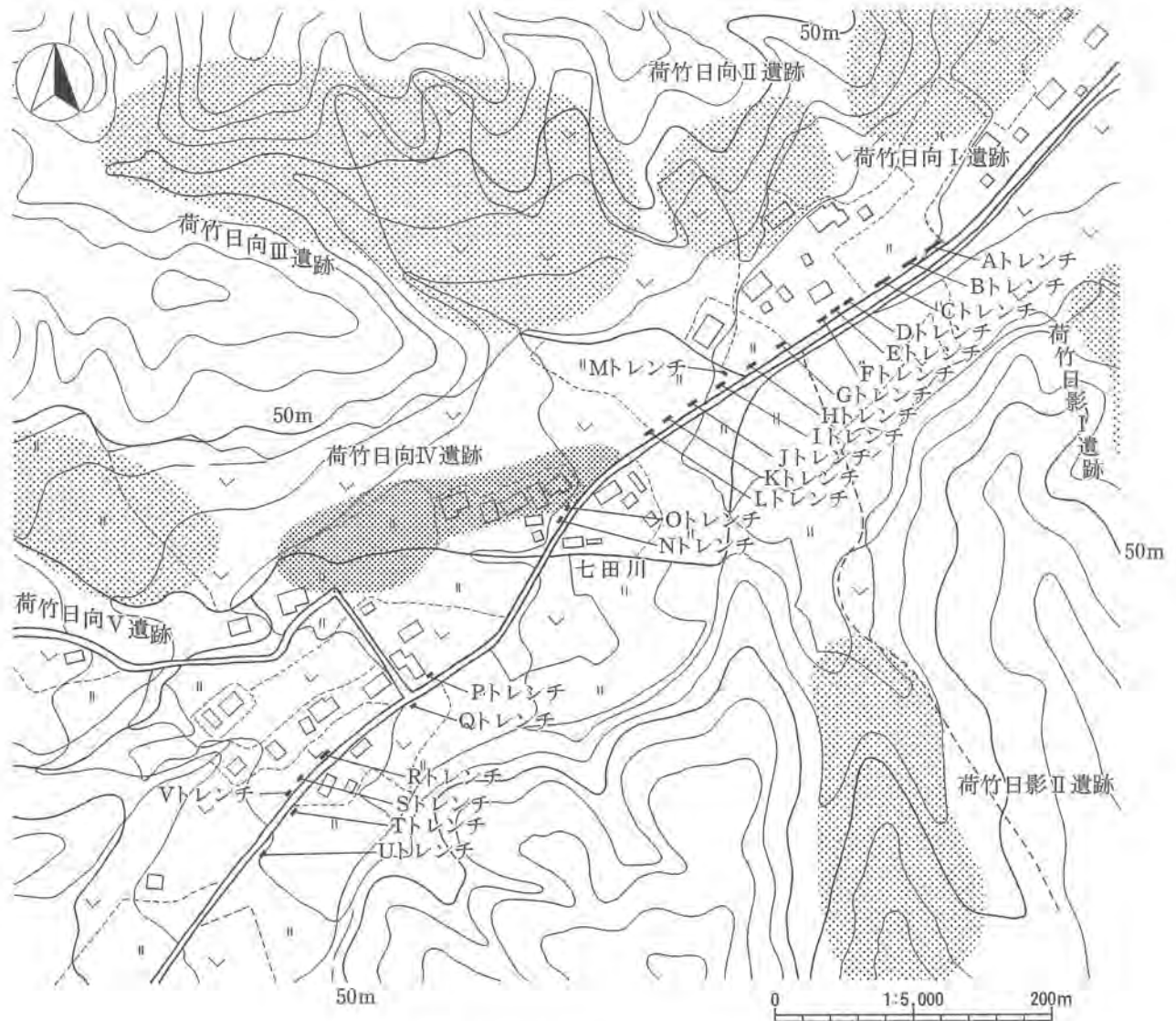
## 第5章 遺跡隣接地の試掘調査

市道向川原荷竹線は全長約1,044mの道路拡幅工事であり、その中で荷竹日向IV遺跡を含む約660mが遺跡隣接地として試掘調査を要する区間になる。その区間の設定については、前述のとおり平成15年12月3日の現地踏査で決定され、それに基づき平成17・18年度に試掘調査が実施された。トレンチについてはAからVまで22箇所を設定し、平成17年度にはA～Mトレンチ、平成18年度にはN～Vトレンチまでを設定し、遺構・遺物の確認を行なった。

### (1) トレンチ調査

#### Aトレンチ (第24図、写真図版24)

Aトレンチは試掘調査区間の東端に設定され、長さ15m、幅1mで確認を行った。堆積土は1～4層に分けられ、1層は耕作土、2層は水田の床土、3層は盛土である。4層中には多数の礫と砂が含まれており、すぐ脇を流れる七田川による水成堆積と考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。



第23図 試掘調査トレンチ配置図

**Bトレンチ** (第24図、写真図版25)

Bトレンチは長さ15m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、1層は耕作土、2層は盛土である。Aトレンチ同様、盛土下層である3層には多数の礫と砂が含まれている。遺構・遺物は確認されなかった。

**Cトレンチ** (第24図、写真図版26)

Cトレンチは長さ12m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、1層は耕作土、2層は水田の床土である。3層には多数の礫が含まれている。遺構・遺物は確認されなかった。

**Dトレンチ** (第24図、写真図版27)

Dトレンチは長さ5m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、1層は耕作土、2層は黒色を呈するシルト質埴壤土、3層は5cm大の礫を含む砂土である。2層にも礫が多量に含まれている。遺構・遺物は確認されなかった。

**Eトレンチ** (第24図、写真図版28)

Eトレンチは長さ4m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、1層は地山(マサ土)が混入された盛土で、2層は黒色を呈するシルト質埴壤土、3層は砂土である。2層・3層ともに礫が多量に含まれている。遺構・遺物は確認されなかった。

**Fトレンチ** (第24図、写真図版29)

Fトレンチは長さ8m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1層・2層に分けられ、1層は黒褐色を呈する埴壤土、2層は砂土である。トレンチの中央部分からはブロックで造られた現代の小屋の跡が見つかり、ガラス片やブロック片などが出土した。遺構・遺物は確認されなかった。

**Gトレンチ** (第24図、写真図版30)

Gトレンチは長さ6m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～4層に分けられ、1層は耕作土、2層は水田の床土、3層は地山(マサ土)が混入された盛土、4層は砂土である。遺構・遺物は確認されなかった。

**Hトレンチ** (第24図、写真図版31)

Hトレンチは長さ8m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～4層に分けられ、4層はさらに4a層と4b層に細別される。1層は耕作土、2層は水田の床土、3層は地山(マサ土)が混入された盛土、4a層・4b層は砂土である。4a層より4b層の方が礫が多く含まれ、砂粒も粗い。遺構・遺物は確認されなかった。

**Iトレンチ** (第24図、写真図版32)

Iトレンチは長さ15m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、さらに1a層・1b層と3a層・3b層に細別される。1a層・1b層は耕作土、2層は水田の床土、3a層・3b層は砂土である。Hトレンチ同様3a層に礫が多く含まれている。遺構・遺物は確認されなかった。

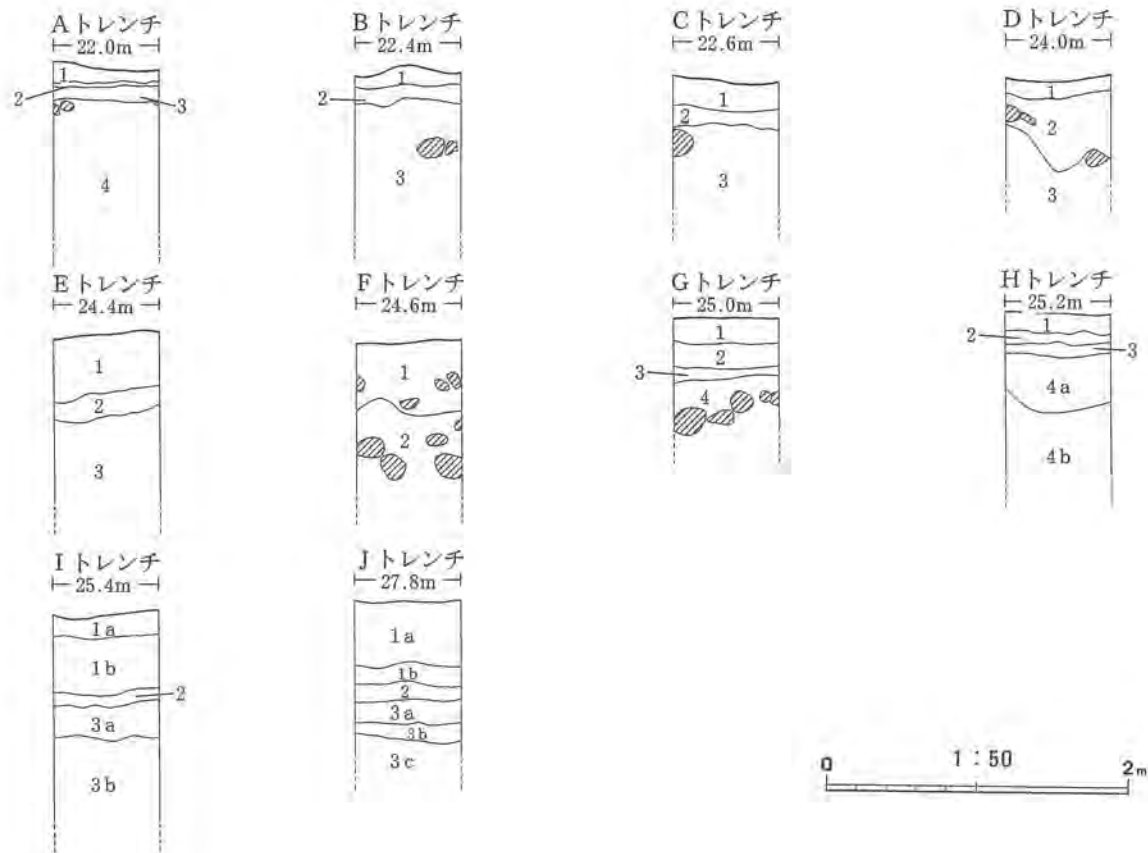
**Jトレンチ** (第24図、写真図版33)

Jトレンチは長さ8m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、さらに1a層・1b層と3a～3c層に細別される。1a層・1b層は耕作土、2層は水田の床土、3a～3c層は砂土である。3a～3c層は砂粒の密度の違いで分けられる。また層中からは湧水がみられた。遺構は確認されなかったが、1a層から石器が1点出土している。

**Kトレンチ** (第25図、写真図版34)

Kトレンチは長さ10m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、1層は耕作土、





Aトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR3/4 暗褐色シルト質堆積土5%塊状	硬質、粘性あり
水田床土 2	10YR3/1 黒褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土40%塊状	硬質、粘性あり
盛土 3	10YR5/6 黄褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり
礫層 4	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR3/4 暗褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり、混含まれる

Bトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR3/4 暗褐色シルト質堆積土5%塊状	硬質、粘性あり
水田床土 2	10YR5/6 黄褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土40%塊状	硬質、粘性あり
礫層 3	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり、混含まれる

Cトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR3/4 暗褐色シルト質堆積土5%塊状	硬質、粘性あり
水田床土 2	10YR3/1 黒褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土40%塊状	硬質、粘性あり
礫層 3	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土1%塊状	硬質、粘性あり

Dトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂礫土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
堆積土 2	10YR2/1 黒色シルト質堆積土	10YR2/2 黒褐色砂礫土10%塊状	硬質、粘性あり、礫多数
砂土 3	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR2/2 黒褐色砂礫土5%塊状	軟質、粘性なし、礫多数

Eトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土 1	10YR5/4 にぶい黄褐色砂礫土	10YR2/2 黒褐色砂礫土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
堆積土 2	10YR2/1 黒色シルト質堆積土	10YR2/2 黒褐色砂礫土10%塊状	硬質、粘性あり、礫多数
砂土 3	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR2/2 黒褐色砂礫土5%塊状	軟質、粘性なし、礫多数

Fトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
堆積土 1	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR3/1 黒褐色砂土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂土 2	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR2/1 黒色砂土10%塊状	軟質、粘性なし

Gトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR3/3 暗褐色堆積土	7.5YR5/8 暗褐色堆積土1%塊状	硬質、粘性あり
水田床土 2	7.5YR3/3 暗褐色シルト質堆積土	7.5YR5/6 暗褐色シルト質堆積土20%塊状	硬質、粘性あり、床土
盛土 3	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR2/2 褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり
砂土 4	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR4/4 褐色砂土40%塊状	硬質、粘性あり

Hトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR3/4 暗褐色シルト質堆積土5%塊状	硬質、粘性あり
水田床土 2	7.5YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR3/4 暗褐色堆積土40%塊状	硬質、粘性あり、床土
盛土 3	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂礫土30%塊状	硬質、粘性あり、炭化物少量
砂土 4a	10YR2/1 黒色砂土	10YR4/4 褐色砂土10%塊状	硬質、粘性あり
4b	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土10%塊状	軟質、粘性なし 10~20cm大の礫多数

Iトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR2/2 黒褐色砂礫土	10YR3/2 黒褐色堆積土1%塊状	硬質、粘性あり
2	10YR2/1 黒褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり 2m次の小礫含まれる
水田床土 3	7.5YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR2/1 黒色シルト質堆積土1%塊状	硬質、粘性あり
砂土 4a	10YR2/1 黒色シルト質堆積土	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
4b	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり

Jトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1a	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土		
1b	10YR2/1 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR5/6 暗褐色シルト質堆積土20%塊状	硬質、粘性あり、床土
水田床土 2	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土	10YR2/2 褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり
砂土 3a	10YR2/1 黒色砂土	10YR4/4 褐色砂土40%塊状	硬質、粘性あり
3b	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり、湧水
3c	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR6/3 にぶい黄褐色砂土10%塊状	軟質、粘性ややあり、礫

第24図 試掘調査トレンチ 断面図 (1)

2 a 層・2 b 層は黒色を呈するシルト質埴壤土、3 層は砂土である。3 層からは湧水がみられた。遺構・遺物は確認されなかった。

#### Lトレンチ (第25図、写真図版35)

Lトレンチは長さ6 m、幅1 mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、1 a 層・1 b 層は耕作土、2 層は黒色を呈するシルト質埴壤土で、3 層は砂土である。3 層からは湧水がみられた。遺構は確認されなかったが、1 a 層から磨石が1点と1 b 層から鉄滓が少数出土している。

#### Mトレンチ (第25図、写真図版36)

MトレンチはIトレンチの北側に長さ4 m、幅1 mで設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、1 a 層・1 b 層と3 a～3 c 層に細別される。1 a 層・1 b 層は耕作土、2 層は水田の床土、3 a～3 c 層は砂土である。遺構・遺物は確認されなかった。

#### Nトレンチ (第25図、写真図版37)

Nトレンチは荷竹日向IV遺跡調査区の約10 m西側に長さ2 m、幅1 mで設定し、平成17年度の調査で検出されていた縄文時代の遺物包含層の西端確認を行なった。堆積土は全て盛土で、1 a 層～1 d 層に細別される。特に1 b 層・1 c 層は砂利が多量に含まれ、現代のものと思われる。遺構・遺物は確認されず、また遺物包含層の西端も確認されなかった。

#### Oトレンチ (第25図、写真図版38)

Oトレンチは長さ2 m、幅1 mに設定した。Nトレンチでは遺物包含層の西端を確認できなかったため、さらに荷竹日向IV遺跡調査区とNトレンチの間にOトレンチを設定し、再度西端の確認を試みた。堆積土は1層で、さらに1 a 層・1 b 層に細別される。ともに盛土層である。層中にはゴミやビニールなどが混入している。調査の結果、Oトレンチからも遺物包含層の西端は確認されず、最終的にその後実施した調査区の調査において西端を確認した。

#### Pトレンチ (第25図、写真図版39)

Pトレンチは長さ3 m、幅1 mに設定し確認を行った。現況は畑地である。堆積土は1～3層に分けられる。1 層は畑の耕作土で、2 a 層・2 b 層は盛土層である。2 b 層には地山であるマサ土塊が混入している。3 層は礫層である。遺構・遺物は確認されなかった。

#### Qトレンチ (第25図、写真図版40)

Qトレンチは長さ5 m、幅1 mに設定し確認を行った。現況は畑地である。堆積土は1層のみで畑の耕作土である。層厚は最大でも8 cmと薄く、その下層は地山になる。遺構・遺物は確認されなかった。

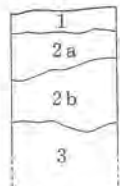
#### Rトレンチ (第25図、写真図版41)

Rトレンチは長さ2 m、幅1 mに設定し確認を行った。現況は畑地である。堆積土は1～3層に分けられる。1 a 層・1 b 層は畑の耕作土で、2 層は黒褐色を呈する堆積土である。3 層は地山漸移層で、層厚は約10 cmと薄い。遺構・遺物は確認されなかった。

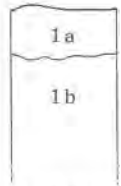
#### Sトレンチ (第25図、写真図版42)

Sトレンチは長さ3 m、幅1 mに設定し確認を行った。現況は畑地で、同じ畑の平坦面に設定したVトレンチの東5 mに位置する。堆積土は1～3層に分けられる。1 a 層・1 b 層から縄文土器が出土しているが、畑の耕作土であることから混入したものと思われる。小破片であるため図示できなかった。2 層は黒褐色を呈する堆積土で、地山であるマサ土塊が混入している。3 層は地山漸移層である。遺構は確認されなかった。

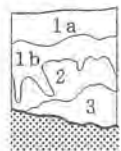
Kトレンチ  
— 28.6m —



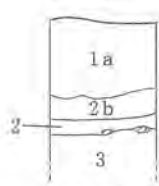
Oトレンチ  
— 31.4m —



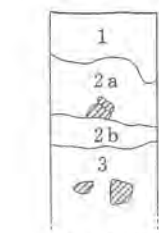
Sトレンチ  
— 41.2m —



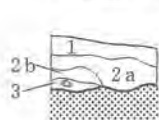
Lトレンチ  
— 29.6m —



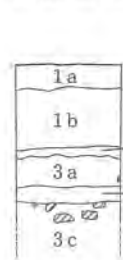
Pトレンチ  
— 36.8m —



Tトレンチ  
— 40.6m —



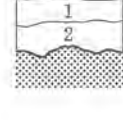
Mトレンチ  
— 25.2m —



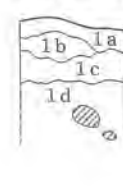
Qトレンチ  
— 36.0m —



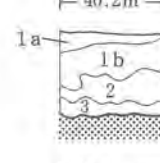
Uトレンチ  
— 41.2m —



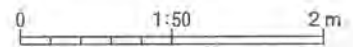
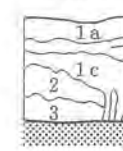
Nトレンチ  
— 30.8m —



Rトレンチ  
— 40.2m —



Vトレンチ  
— 41.8m —



Kトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR2/1 黒色シルト質堆積土	7.5YR3/4 暗褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり
堆積土 2a	10YR2/1 黒色シルト質堆積土	10YR2/2 黒褐色砂土1%塊状	硬質、粘性あり
2b	10YR1.7/1 黒色シルト質堆積土	10YR3/2 黒褐色砂土1%塊状	硬質、粘性あり
砂土 3	10YR3/2 黒褐色砂土	10YR4/2 灰黄褐色砂土10%塊状	軟質、粘性なし

Lトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
耕作土	1a	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土1%塊状	硬質、粘性あり
	1b	10YR2/2 黒褐色堆積土	7.5YR2/2 黒褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり 鉄滓、土器含まれる
堆積土 2	10YR2/1 黒色シルト質堆積土	7.5YR2/1 黒色シルト質堆積土5%塊状	硬質、粘性あり、湧水	
砂土 3	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土	10YR4/6 褐色砂土10%塊状	軟質、粘性なし、湧水	

Mトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
耕作土	1a	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR3/2 黒褐色堆積土1%塊状	硬質、粘性あり
	1b	10YR2/1 黒褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土10%塊状	硬質、粘性あり 2mm次の小礫含まれる
水田床土 2	7.5YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR2/1 黒色シルト質堆積土5%塊状	硬質、粘性あり	
砂土	3a	10YR2/1 黒色シルト質堆積土	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3b	10YR5/6 黄褐色砂堆積土	10YR1.7/1 黒色砂堆積土20%塊状	硬質、粘性あり
	3c	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり

Nトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
堆土	1a	10YR2/2 黒褐色堆積砂土	10YR3/4 暗褐色堆積砂土3%塊状	硬質、粘性あり 3mm~5mm次の小礫多量
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色堆積砂土	10YR2/2 黒褐色堆積土20%塊状	硬質、粘性あり 3mm次の小礫多量
	1c	10YR4/3 にぶい黄褐色堆積砂土	10YR3/3 暗褐色堆積砂土10%塊状	硬質、粘性あり、礫多量
	1d	10YR2/1 黒色シルト質堆積土	10YR3/2 黒褐色堆積土5%塊状	硬質、粘性あり

Oトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
堆土	1a	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR2/3 黒褐色堆積土10%塊状	硬質、粘性あり
	1b	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 5cm次の礫

Pトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
堆積土 1	10YR2/1 黒色堆積土	10YR1.7/1 黒色堆積土5%塊状	やや硬質、粘性なし	
硬土	2a	10YR2/1 黒色堆積土	10YR3/3 黒褐色砂土1%塊状	軟質、粘性ややあり 5mm~10mm次の礫多量
	2b	10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土30%塊状	硬質、粘性あり
埋層 3	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR2/3 黒褐色砂土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり	

Qトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	10YR4/4 褐色堆積土	10YR4/6 褐色堆積土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 1mm次の小礫多量

Rトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
耕作土	1a	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR2/3 黒褐色堆積土10%塊状	やや硬質、粘性なし
	1b	10YR2/1 黒褐色堆積土	10YR2/2 黒褐色堆積土5%塊状	硬質、粘性あり
堆積土 2	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR2/3 黒褐色堆積土10%塊状	硬質、粘性あり	
地山 漸移層 3	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質	10YR3/4 暗褐色シルト質堆積土20%塊状	硬質、粘性あり	

Sトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
耕作土	1a	10YR2/1 黒色堆積土	10YR4/6 褐色堆積土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	1b	10YR2/1 黒色堆積土	10YR2/2 黒褐色堆積土10%塊状	硬質、粘性あり
堆積土 2	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR4/4 褐色堆積土20%塊状	硬質、粘性あり	
地山 漸移層 3	10YR4/6 褐色砂質堆積土	10YR2/3 黒褐色砂質堆積土5%塊状	硬質、粘性あり	

Tトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 1	10YR2/2 黒褐色砂堆積土	10YR2/1 黒色砂土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり 5mm次の小礫多量
硬土 2a	10YR2/2 黒褐色堆積土	10YR3/4 暗褐色堆積土5%塊状	硬質、粘性あり
	2b	10YR2/1 黒色堆積土	10YR4/6 褐色砂土10%塊状
水田床土 3	10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	7.5YR3/1 黒褐色シルト質堆積土5%塊状	硬質、粘性あり

Uトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
耕作土 1	2.5YR3/1 暗赤灰色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土1%塊状	硬質、粘性あり
水田床土 2	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土	10YR4/4 褐色砂土塊5%塊状	硬質、粘性あり

Vトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
耕作土	1a	10YR2/1 黒色堆積土	10YR4/6 褐色堆積土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	1b	10YR2/1 黒色堆積土	10YR2/2 黒褐色堆積土1%塊状	硬質、粘性あり
	1c	10YR2/1 黒色堆積土	10YR2/2 黒褐色堆積土10%塊状	硬質、粘性あり
堆積土 2	10YR4/4 褐色堆積土	10YR4/4 褐色堆積土20%塊状	硬質、粘性あり	
地山 漸移層 3	10YR4/6 褐色砂質堆積土	10YR2/3 黒褐色砂質堆積土20%塊状	硬質、粘性あり	

第25図 試掘調査トレンチ 断面図(2)

### Tトレンチ (第25図、写真図版43)

Tトレンチは長さ3m、幅1mに設定し確認を行った。堆積土は1～3層に分けられ、1層は表土、2a層・2b層は盛土である。3層は酸化し赤みを帯びており、水田の床土の可能性がある。すぐ西側には水田が広がっており、以前はこのTトレンチの地点も水田として利用されていたと考えられる。2a層中から縄文土器が1点出土している。遺構は確認されなかった。

### Uトレンチ (第25図、写真図版44)

Uトレンチは長さ5m、幅1mに設定し確認を行った。現況は水田である。堆積土は1層・2層に分けられる。1層は耕作土で、2層は水田の床土である。2層はやや赤みを帯びている。2層中から縄文土器が2点出土している。遺構は確認されなかった。

### Vトレンチ (第25図、写真図版45)

Vトレンチは長さ6m、幅1mに設定し確認を行った。現況は畑地で、前述のとおりSトレンチの西側5mに位置する。堆積土はSトレンチ同様、1～3層に大別され、さらにVトレンチのみ1層は1a層～1c層に細別される。1a層～1c層は畑の耕作土、2層は黒褐色を呈する堆積土、3層は地山漸移層である。1c層中から縄文土器が4点出土している。遺構は確認されなかった。

## (2) トレンチ調査 出土遺物 (第26図、写真図版60・61)

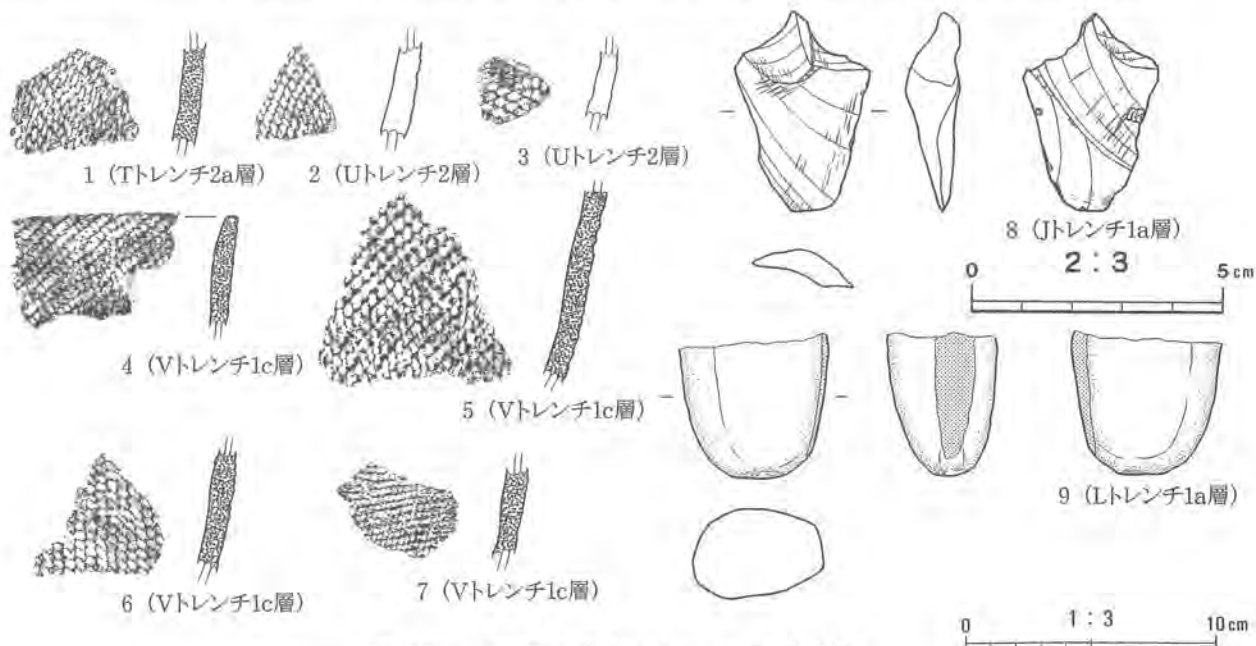
トレンチ調査では縄文土器7点、石器2点が図示できた。全て盛土や耕作土中からの出土である。

### 縄文土器 (第26図1～7)

1はTトレンチの盛土である2a層中から出土し、胴部の破片である。複節縄文が施文され、胎土に繊維が含まれている。2と3はUトレンチの水田床土である2層中から出土している。ともに胴部の破片で、LR単節縄文が施文されている。4～7はVトレンチの耕作土である1c層中から出土している。4は口縁部、5～7は胴部の破片である。4の口縁部は直線的に立ち上がり、口縁の上部まで縄文が施文されている。4～7まで器面にはLR単節縄文が施文され、胎土に繊維が含まれている。これらの特徴から第26図1～7は縄文時代前期初頭に属すると思われる。

### 石器 (第26図8・9)

石器は2点出土している。8は削器と考えられ、片縁部に微細な調整がみられる。9は磨石で、ほぼ半分が欠損し、本来は楕円形の形態を有していたと考えられる。片縁部に磨面がみられる。



第26図 試掘調査トレンチ 出土遺物

第1表 荷竹日向IV遺跡及び隣接地出土 土器観察表(1)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第8図	1	遺物包含層	1層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第8図	2	遺物包含層	1層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第8図	3	遺物包含層	1層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第8図	4	遺物包含層	1層	口縁部	R L単節縄文→粘土紐貼付 →刺突	ナデ	砂粒、金雲母	
第8図	5	遺物包含層	1層	口縁部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第8図	6	遺物包含層	1層	胴部	捺糸文?	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	7	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	8	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒、石英	胎土に繊維
第8図	9	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	10	遺物包含層	1層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	11	遺物包含層	1層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	12	遺物包含層	1層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒、石英	胎土に繊維
第8図	13	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒、石英	胎土に繊維
第8図	14	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	15	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	16	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	17	遺物包含層	1層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第8図	18	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒、石英	胎土に繊維
第8図	19	遺物包含層	1層	胴部	R L単節縄文(摩滅)	ナデ	砂粒	
第8図	20	遺物包含層	1層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第8図	21	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第8図	22	遺物包含層	1層	胴部	R L単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒	
第8図	23	遺物包含層	1層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第8図	24	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	剥離のため 不明	砂粒	
第8図	25	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第8図	26	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第8図	27	遺物包含層	1層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第8図	28	遺物包含層	2層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第8図	29	遺物包含層	2層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第8図	30	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文	貝殻腹縁文	砂粒	
第8図	31	遺物包含層	3層	口縁部	棒状のものによる押引文、貝殻腹縁文	貝殻腹縁文	砂粒	
第8図	32	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	33	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	34	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	35	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	36	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	37	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	補修孔
第9図	38	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	39	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	40	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	41	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	42	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	43	遺物包含層	3層	口縁部	剥離のため不明	貝殻腹縁文	砂粒、金雲母	
第9図	44	遺物包含層	3層	口縁部	貝殻腹縁文	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	45	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	46	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	47	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	48	遺物包含層	3層	口縁部	沈線	貝殻腹縁文	砂粒、金雲母	補修孔
第9図	49	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	50	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	51	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	52	遺物包含層	3層	口縁部	沈線	貝殻腹縁文	砂粒	
第9図	53	遺物包含層	3層	口縁部	棒状のものによる押引文	ナデ	砂粒	
第9図	54	遺物包含層	3層	口縁部	沈線	ナデ	砂粒	
第10図	55	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第10図	56	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第10図	57	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第10図	57	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第10図	58	遺物包含層	3層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第10図	59	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第10図	60	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第10図	61	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒、石英	
第10図	62	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒、金雲母	
第10図	63	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→沈線	ナデ	砂粒	

第1表 荷竹日向IV遺跡及び隣接地出土 土器観察表(2)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第10図	64	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒、金雲母	
第10図	65	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→沈線	ナデ	砂粒	
第10図	66	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第10図	67	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第10図	68	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒、金雲母	
第10図	69	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第10図	70	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→沈線→刺突	ナデ	砂粒	
第10図	71	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第10図	72	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→沈線→刺突	ナデ	砂粒	
第10図	73	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第10図	74	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第10図	75	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第10図	76	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第10図	77	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	78	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒、石英	
第11図	79	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒、金雲母	
第11図	80	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	81	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	82	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	83	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	84	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁押引文	ナデ	砂粒	
第11図	85	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	86	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	87	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	剥離のため 不明	砂粒	
第11図	88	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	89	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	90	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	剥離のため 不明	砂粒	
第11図	91	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文(摩滅)	ナデ	砂粒	
第11図	92	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	93	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	94	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	95	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	96	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	97	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	98	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	99	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	100	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	101	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	102	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	103	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	104	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	105	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	106	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	107	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	108	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	109	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	110	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	111	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	剥離のため 不明	砂粒	
第11図	112	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	113	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	114	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	115	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	116	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	117	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	118	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	119	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	120	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁連続圧痕文	ナデ	砂粒	
第11図	121	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	122	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第11図	123	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	剥離のため 不明	砂粒	
第11図	124	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第11図	125	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	

第1表 荷竹日向IV遺跡及び隣接地出土 土器観察表(3)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第11図	126	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	127	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	剥離のため不明	砂粒	
第12図	128	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	129	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	130	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	131	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	132	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	133	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	134	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	135	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	剥離のため不明	砂粒	
第12図	136	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	137	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	138	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	139	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	140	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	141	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	142	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	143	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	144	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	145	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁連続圧痕文	ナデ	砂粒	
第12図	146	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	147	遺物包含層	3層	胴部	刺突→沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	148	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	149	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	150	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	剥離のため不明	砂粒	
第12図	151	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	152	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	153	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第12図	154	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	155	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁文	剥離のため不明	砂粒	
第12図	156	遺物包含層	3層	胴部	貝殻腹縁押引文	ナデ	砂粒	
第12図	157	遺物包含層	3層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	158	遺物包含層	3層	胴部	沈線・貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第12図	159	遺物包含層	3層	口縁部	ナデ	ナデ	砂粒	
第12図	160	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第12図	161	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第12図	162	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第12図	163	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第12図	164	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第12図	165	遺物包含層	3層	口縁部~胴部	貝殻条痕文, ナデ	ナデ	砂粒、石英	補修孔
第12図	166	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第12図	167	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第12図	168	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒、金雲母	
第12図	169	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	170	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒、石英	
第13図	171	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	172	遺物包含層	3層	胴部	沈線、ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	173	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	174	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	175	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	176	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	177	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	178	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	179	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	180	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	181	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	182	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	183	遺物包含層	3層	胴部	沈線、ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	184	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	185	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	186	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	

第1表 荷竹日向IV遺跡及び隣接地出土 土器観察表(4)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第13図	187	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	188	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	189	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	剥離のため不明	砂粒、石英	
第13図	190	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	191	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	192	遺物包含層	3層	胴部	沈線、ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	193	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒、石英	
第13図	194	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第13図	195	遺物包含層	3層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	補修孔
第13図	196	遺物包含層	3層	底部	ナデ	ナデ	砂粒	底部ナデ、尖底
第13図	197	遺物包含層	3層	底部	ナデ	ナデ	砂粒	底部ナデ、尖底
第13図	198	遺物包含層	3層	底部	沈線→刺突	ナデ	砂粒	尖底
第13図	199	遺物包含層	3層	口縁部	R L単節縄文	L R単節縄文	砂粒	
第13図	200	遺物包含層	3層	口縁部	L R単節縄文→沈線・押引文	R L単節縄文	砂粒	
第13図	201	遺物包含層	3層	口縁部	L R単節縄文	L R単節縄文	砂粒	
第13図	202	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	縄文不明?	砂粒	
第13図	203	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	R L単節縄文	砂粒	
第14図	204	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	L R単節縄文	砂粒	
第14図	205	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	R L単節縄文	砂粒	
第14図	206	遺物包含層	3層	口縁部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒、石英	胎土に繊維
第14図	207	遺物包含層	3層	口縁部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	208	遺物包含層	3層	口縁部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	209	遺物包含層	3層	口縁部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	210	遺物包含層	3層	口縁部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	211	遺物包含層	3層	口縁部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	212	遺物包含層	3層	口縁部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	213	遺物包含層	3層	口縁部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第14図	214	遺物包含層	3層	口縁部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	
第14図	215	遺物包含層	3層	口縁部	R L単節縄文	ナデ	砂粒、金雲母	
第14図	216	遺物包含層	3層	口縁部	縄文不明?	ナデ	砂粒	
第14図	217	遺物包含層	3層	口縁部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒、金雲母	
第14図	218	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	219	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	220	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	221	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	222	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒、石英	胎土に繊維
第14図	223	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	224	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	225	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒、金雲母	胎土に繊維
第14図	226	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	227	遺物包含層	3層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	228	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	229	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	230	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	剥離のため不明	砂粒	胎土に繊維
第14図	231	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	232	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	233	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	234	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	235	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	236	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	237	遺物包含層	3層	胴部	無節縄文(結束なし)・刺突	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	238	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第14図	239	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒、金雲母	胎土に繊維
第15図	240	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	241	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	242	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	243	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	244	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	剥離のため不明	砂粒	胎土に繊維
第15図	245	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	246	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	247	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	248	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	249	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒	胎土に繊維



第1表 荷竹日向IV遺跡及び隣接地出土 土器観察表(5)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第15図	250	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	251	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	252	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	253	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	254	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	255	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	256	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	257	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	258	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	259	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	260	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	261	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	262	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	263	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第15図	264	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	265	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	266	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	267	遺物包含層	3層	胴部	無節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	268	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	269	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	270	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	271	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	272	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	273	遺物包含層	3層	胴部	縄文(摩滅)→沈線	ナデ	砂粒	
第15図	274	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒	
第15図	275	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第15図	276	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文(結節あり)	ナデ	砂粒、石英	
第16図	277	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	278	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	279	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文(結束あり)	ナデ	砂粒	
第16図	280	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	281	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	282	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	283	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	284	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	285	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	286	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒、石英	
第16図	287	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	
第16図	288	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒、石英	
第16図	289	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	290	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	291	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	292	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	293	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	294	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	295	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	296	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒	
第16図	297	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒、石英	
第16図	298	遺物包含層	3層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	299	遺物包含層	3層	胴部	無節縄文	ナデ	砂粒、石英	
第16図	300	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	301	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	302	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒、石英	
第16図	303	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	304	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	305	遺物包含層	3層	胴部	無節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	306	遺物包含層	3層	胴部	無節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	307	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	308	遺物包含層	3層	胴部	剥離のため不明	剥離のため不明	砂粒	
第16図	309	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	310	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	311	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	312	遺物包含層	3層	胴部	撚糸文	ナデ	砂粒	
第16図	313	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	
第16図	314	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	

第1表 荷竹日向IV遺跡及び隣接地出土 土器観察表(6)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第16図	315	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第16図	316	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	317	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	318	遺物包含層	3層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	
第17図	319	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	320	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	321	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	322	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	323	遺物包含層	3層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	324	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	325	遺物包含層	3層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒	
第17図	326	遺物包含層	3層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒、金雲母	
第17図	327	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文→ナデ	ナデ	砂粒、金雲母	
第17図	328	遺物包含層	3層	胴部	無節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒	
第17図	329	遺物包含層	3層	胴部	L R単節縄文・刺突	ナデ	砂粒	
第17図	330	遺物包含層	3層	胴部	沈線	ナデ	砂粒	
第17図	331	遺物包含層	3層	胴部	粘土紐貼付け→沈線	ナデ	砂粒	
第17図	332	遺物包含層	3層	胴部	撚糸文→粘土紐貼付け	剥離のため不明	砂粒	
第17図	333	遺物包含層	3層	底部	ナデ	ナデ	砂粒	底部ナデ
第17図	334	遺物包含層	3層	底部	ナデ	ナデ	砂粒	底部ナデ
第20図	1	遺構外	A1層	口縁部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	貝殻腹縁文	砂粒	
第20図	2	遺構外	B層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第20図	3	遺構外	B層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第20図	4	遺構外	B層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第20図	5	遺構外	B層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第20図	6	遺構外	B層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第20図	7	遺構外	B層	胴部	沈線・貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第20図	8	遺構外	B層	胴部	貝殻腹縁文	剥離のため不明	砂粒	
第20図	9	遺構外	B層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第20図	10	遺構外	A1層	胴部	沈線→貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第20図	11	遺構外	F層	胴部	貝殻腹縁文	ナデ	砂粒	
第20図	12	遺構外	F層	胴部	沈線→貝殻腹縁文→刺突	ナデ	砂粒	
第20図	13	遺構外	B層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第20図	14	遺構外	B層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第20図	15	遺構外	B層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第20図	16	遺構外	B層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第20図	17	遺構外	B層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒	
第20図	18	遺構外	B層	胴部	ナデ	ナデ	砂粒、金雲母	
第20図	19	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	L R単節縄文	砂粒	
第20図	20	遺構外	B層	胴部	R L単節縄文	R L単節縄文	砂粒	
第20図	21	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	L R単節縄文	砂粒	
第20図	22	遺構外	攪乱	口縁部	L R単節縄文(結束あり)	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	23	遺構外	B層	口縁部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	24	遺構外	B層	口縁部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	25	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	26	遺構外	B層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	27	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	28	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒、石英	胎土に繊維
第20図	29	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	30	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	31	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	32	遺構外	B層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	33	遺構外	B層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	34	遺構外	B層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	35	遺構外	F層	胴部	摩滅のため不明	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第20図	36	遺構外	F層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第21図	37	遺構外	B層	胴部	R L単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	38	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	39	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒	
第21図	40	遺構外	B層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	41	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	42	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文	ナデ	砂粒、石英	
第21図	43	遺構外	B層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	44	遺構外	B層	胴部	L R単節縄文(結束なし)	ナデ	砂粒	

第1表 荷竹日向IV遺跡及び隣接地出土 土器観察表(7)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第21図	45	遺構外	B層	胴部	RL単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	46	遺構外	B層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	47	遺構外	B層	胴部	LR単節縄文→RL単節縄文	ナデ	砂粒、石英	
第21図	48	遺構外	B層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	49	遺構外	B層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	50	遺構外	B層	胴部	RL単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	51	遺構外	B層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	52	遺構外	F層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	53	遺構外	F層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	54	遺構外	F層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	
第21図	55	遺構外	F層	胴部	RL単節縄文	ナデ	砂粒	
第26図	1	Tトレンチ	2a層	胴部	複節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第26図	2	Uトレンチ	2層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	
第26図	3	Uトレンチ	2層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒、金雲母	
第26図	4	Vトレンチ	1c層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第26図	5	Vトレンチ	1c層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第26図	6	Vトレンチ	1c層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維
第26図	7	Vトレンチ	1c層	胴部	LR単節縄文	ナデ	砂粒	胎土に繊維

第2表 荷竹日向IV遺跡及び隣接地出土 石器観察表

挿図番号	番号	地点	層位	器 種	現存する規模 (cmまたはg)				備 考
					最大長	最大幅	最大厚	重量	
第18図	335	遺物包含層	3層	石鏃	2.5	1.2	0.3	0.6	平基無茎鏃
第18図	336	遺物包含層	3層	石鏃	2.6	1.7	0.3	1.2	平基無茎鏃
第18図	337	遺物包含層	3層	石鏃	1.9	1.5	0.4	1.1	平基無茎鏃
第18図	338	遺物包含層	3層	石鏃	1.7	1.0	0.3	0.4	基部欠損
第18図	339	遺物包含層	3層	石鏃	1.8	1.5	0.5	1.0	基部欠損
第18図	340	遺物包含層	3層	石鏃	3.2	1.6	0.3	1.6	凹基無茎鏃
第18図	341	遺物包含層	3層	石鏃	3.0	1.5	0.3	1.2	凹基無茎鏃
第18図	342	遺物包含層	3層	石鏃?	2.9	0.8	0.5	1.3	
第18図	343	遺物包含層	3層	石匙	6.8	1.6	0.7	8.8	縦型
第18図	344	遺物包含層	3層	石匙	6.5	1.5	0.6	7.5	縦型
第18図	345	遺物包含層	3層	石匙	4.5	1.1	0.5	2.6	縦型
第18図	346	遺物包含層	3層	石匙	4.1	3.4	0.8	5.7	横型
第18図	347	遺物包含層	3層	石匙	2.8	5.2	0.8	11.5	横型
第18図	348	遺物包含層	3層	削器?	3.4	4.3	1.1	13.1	
第18図	349	遺物包含層	3層	削器?	3.5	2.8	0.8	7.4	
第19図	350	遺物包含層	3層	削器?	2.9	2.9	0.9	6.6	
第19図	351	遺物包含層	3層	削器?	3.6	2.3	0.7	5.7	
第19図	352	遺物包含層	3層	削器?	2.3	1.3	0.4	1.4	
第19図	353	遺物包含層	3層	削器?	2.2	1.5	0.7	1.7	
第19図	354	遺物包含層	3層	削器?	3.1	2.1	0.4	2.1	
第19図	355	遺物包含層	3層	削器?	3.9	2.0	0.5	4.8	
第19図	356	遺物包含層	3層	磨石	11.1	9.6	3.2	550.9	片縁部に磨面
第22図	56	遺構外	攪乱	石鏃	2.2	1.7	0.6	1.2	凹基無茎鏃
第22図	57	遺構外	F層	石鏃	2.0	1.5	0.3	0.7	凹基無茎鏃
第22図	58	遺構外	F層	石鏃	1.7	1.6	0.4	0.8	凹基無茎鏃
第22図	59	遺構外	F層	石鏃	1.5	1.3	0.4	0.7	平基無茎鏃
第22図	60	遺構外	B層	石鏃	2.1	1.1	0.5	1.2	円基鏃
第22図	61	遺構外	B層	石鏃	1.7	0.9	0.4	0.4	
第22図	62	遺構外	F層	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.6	
第22図	63	遺構外	B層	石鏃	2.9	1.5	0.6	2.4	
第22図	64	遺構外	F層	石匙	3.7	3.9	1.0	10.0	横型
第22図	65	遺構外	B層	石匙	1.8	2.0	0.5	1.4	つまみ部のみ残存
第22図	66	遺構外	F層	石匙?	1.6	1.6	0.4	0.9	つまみ部を作り出している
第22図	67	遺構外	B層	石匙?	4.0	1.9	0.8	7.3	つまみ部欠損
第22図	68	遺構外	B層	搔器	4.5	2.4	1.0	7.0	つまみ部を作り出している。
第22図	69	遺構外	B層	削器?	4.2	2.1	0.5	3.8	
第22図	70	遺構外	B層	削器?	3.5	3.0	0.7	6.9	
第22図	71	遺構外	B層	削器?	3.5	2.9	0.9	7.8	
第22図	72	遺構外	B層	筥状石器	7.5	2.3	1.1	16.7	つまみ部を作り出している
第26図	8	遺跡隣接地	1a層	削器?	4.0	2.7	1.1	6.3	
第26図	9	遺跡隣接地	1a層	磨石	5.7	6.0	4.3	173.3	

## 第6章 まとめ

今回の荷竹日向IV遺跡の発掘調査では土坑1基と縄文時代の遺物包含層が検出された。平成17年度から遺跡隣接地の試掘調査として実施され、調査の結果、荷竹日向IV遺跡範囲の東端よりも東側の地点で遺構・遺物が検出されたことから遺跡範囲拡張の届出を行なっている。その他の調査地点では表土や盛土中から数点の遺物は確認されたが遺構は検出されていないことから、遺跡の分布範囲は遺跡南側を東流する七田川の河岸段丘上に限定されると推測される。

今回の調査で検出された遺構数は極めて少ないが、縄文時代の遺物包含層中から縄文時代早期中葉～前期初頭の土器がまとまって出土したことは特筆され、この調査の最大の特徴といえることができる。本章では、これらの土器の出土状況や文様などについて事実関係を整理し若干の私見を述べたい。

### (1) 遺物包含層の堆積状況について

遺物包含層は調査区西端部から中央部にかけて確認されている。基本土層のA・B層を掘り下げた段階で検出され、分布範囲は細別された1層から3層を含め南北6.9m、東西23.6m、層厚は最大で65cmを測る。堆積土は1層から3層に細別され、1層は調査区中央部、2層は調査区西端部にのみ堆積している。3層は調査区中央部において南北約6.3m、東西約21.9mと広い範囲に分布し、1・2層と比較しても遺物量は多い。1・2層よりも下層に堆積していることから堆積時期はそれらよりも古いといえる。1・2層に関しては互いの土層に重複はみられず、新旧関係は不明である。

これらの遺物包含層が堆積している地形についてしてみると、地山面での標高約31.9m～約30.8mの範囲に限定され、調査区東西北部の3方向から中央部に向かって緩やかに傾斜する地形となっている。そのため、調査区の北側では標高30.9m以上、東側でも標高約31.0m以上の地点には堆積しておらず、西端についても次第に層厚が薄くなりなくなってしまう。これらのことを考え合わせると、この遺物包含層は、調査区中央部にみられる小規模な沢地状の微地形に堆積したものと考えることができよう。また、調査区南端においては市道向川原荷竹線に掘削され、遺物包含層は確認できないが、調査区における南北方向の地形をみた場合に北から南へ緩やかに傾斜していることから、遺物包含層はさらに南へ広がっていたと思われる。

遺物包含層が堆積された時期については、1～3層から縄文時代早期中葉～縄文時代前期初頭に属する土器が出土し、さらに該期以外の土器はみられないことから縄文時代前期初頭ごろと推測することができる。また、細別された層の新旧関係は明確であるが、それぞれの層から出土した土器をみると時期差はみられないため、比較的短期間のうちに堆積したものと考えることができる。その後遺物包含層の上層に堆積するのが、「第4章第3節 遺構外出土遺物」でF層とした鉄滓が含まれている層である。これについても明確な年代は不明であるが、鉄滓が含まれていることから宮古市周辺で製鉄関連の遺跡がみられる奈良・平安時代以降に堆積したものと考えることができよう。ただし、遺物包含層が形成された縄文時代前期初頭から奈良・平安時代までの期間の土層堆積の有無については、掘削等の人為的な行為も想定されることから、現況として把握している層序として捉えておきたい。さらにその上層には近代のものと思われる水道管やブロックの基礎などが含まれる盛土層や表土層が堆積している。

### (2) 遺物包含層から出土した遺物について

遺物包含層は1層～3層に細別され、各々の層からは縄文土器や石器が多数出土している。これらは土器の特徴から縄文時代早期中葉～前期初頭に属するものと考えられ、特に縄文時代早期中葉の土器については174点を数え、宮古市内では現在のところ最多の数を有する。なお、これらの土器は層位的に出土したのではなく早期中葉から前期初頭までの土器が混在した状態で出土していることを予め指摘しておきたい。ここでは、遺物包含層から出土した土器について文様や形態、胎土などから以

下のように分類し整理していきたい。(P37~43土器観察表参照)

**第1群土器** 貝殻を施文具とする文様がみられるもの

- 1類 沈線・貝殻腹縁文・刺突で幾何学的なモチーフの文様が描かれるもの
- 2類 貝殻腹縁押引文が施文されるもの
- 3類 貝殻条痕文が施文されるもの

**第2群土器** 無文のもの(内外面にナデ調整されるもの)

**第3群土器** 表裏縄文が施文されるもの

**第4群土器** 外面にのみ縄文が施文されるもの

- 1類 羽状縄文が施文されるもの
- 2類 斜縄文が施文されるもの

第1群土器は1~3類に細別したが、その中でも1類は127点で第1群土器全体の約97%を占めている。これらは沈線・貝殻腹縁文・刺突の中でいずれか1つの施文方法もしくは複数の施文方法を行なっているもので、横位や縦位の沈線+貝殻腹縁文や沈線+貝殻腹縁文+刺突による菱形状や逆三角形状、四角形状の幾何学的なモチーフが描かれている。菱形状や逆三角形状などで区画された中には貝殻腹縁連続圧痕文が施文されている例もみられる。これらの文様は切り合い関係から施文工程を復元することが可能で、まず沈線が横位や菱形状または逆三角形状に引かれ、その後その沈線をなぞるように貝殻腹縁文が施文されている。ただし、貝殻腹縁文が施文されず沈線のみが引かれた箇所も観察される。そして最後に2本以上の沈線が交わる場所に棒状の施文具による刺突が垂直に施されている。貝殻腹縁文が先に施文される2点(第10図63・65)の例外を除き、ほぼこの順序で施文しており、文様のモチーフは複雑であるのに対して施文工程は画一的であるといえる。

宮古市内で貝殻腹縁文が施文された遺跡は鉾ヶ崎館山貝塚、早稲栃Ⅱ遺跡、金浜Ⅰ遺跡、笹沢Ⅰ遺跡、千鶏Ⅳ遺跡、小平Ⅰ遺跡が挙げられ数は多くない。いずれも破片資料であるが、その中でも鉾ヶ崎館山貝塚においては41点も出土し、特に乳房状の突起をもつ尖底部の破片には同心円のモチーフが描かれている。なお、今回出土した尖底部(第13図198)には方形状のモチーフに刺突が連続して施されている。

2類(第11図84・第12図156)と3類(第12図165)については数が少ない。宮古市内の類例としては重茂半島に位置する笹沢Ⅰ遺跡で3類の貝殻条痕文が施文された土器が18点出土している。

第1群土器1・2類は沈線や貝殻腹縁文、刺突の組合せによる菱形状や逆三角形状などの幾何学的なモチーフが描かれる特徴をもつ。完形資料ではなく、主に口縁部周辺の文様構成による判断であることを考慮しなければならないが、これらの要素から縄文時代早期中葉の「物見台式」に属するもの



第27図 遺物包含層 出土土器 (1:5)

と考えられる。宮古周辺の遺跡では八戸市田面木平(1)遺跡や売場遺跡、六ヶ所村鷹架遺跡などで同様の施文方法とモチーフをもつものがみられる。一方、縄文時代早期中葉の良好な資料が出土している盛岡市では押型文に続く沈線文を軸とした文様構成をもつとされ(神原 2006)、第1群土器とは様相が異なると指摘できる。これらの地域的な差異や前後関係を含めこの第1群土器については今後詳細に検討することが必要であろう。

第2群土器は41点が相当する。内外面にナデ調整されたもので、胎土や焼成は第1群土器と極めて類似している。このことから貝殻文が施文されていない胴部における破片資料と考えられ、第1群土器と同様縄文時代早期中葉と推測される。ちなみに、後述する第3群土器と合わせて第1群・第2群土器の胎土は密で焼成が良好であることが観察され1つの特徴を有している。今後、縄文時代の他時期における資料との比較検討が課題となろう。

第3群土器については7点(第13図199~203、第14図204、205)が相当する。内外面にR L単節縄文やL R単節縄文が施文され、特に口縁部の破片では口唇部まで施文されているのが特徴である。焼成が良好で、硬い胎土をもつ。この土器群は縄文時代早期後葉~末葉に属すると考えられ、宮古市内では千鶏遺跡、金浜I遺跡、鉾ヶ崎館山貝塚に類例がみられる。

第4群土器については1類9点、2類105点が相当する。それぞれ胎土に繊維が含まれている土器と含まれていない土器に細別される。1類は結束がみられないものが大半を占める。2類は胴部の破片が大半であるが、口縁部の破片を観察すると口唇部まで斜縄文が施文されているものが多い。破片資料のため不明な点が多いが、これらの特徴から大きく縄文時代前期初頭に属すると考えられる。

このように遺物包含層から出土した土器について概観したが、前述したように第1群~第4群土器は混在して出土しており、層位的な新旧関係は捉えられなかった。縄文時代早期~前期にかけてはまだ不明な点も多く残されており、今後さらに検討・研究していく必要があると思われる。

### (3) 総括

今回の発掘調査では、遺跡隣接地の試掘調査によって縄文時代の遺物包含層と土坑1基が確認され、荷竹日向IV遺跡の範囲拡大変更を行なった。遺跡は津軽石川の支流である七田川の河岸段丘上に位置し、遺物包含層はこの河岸段丘上にある沢地状の地形に堆積したものと考えられる。遺物包含層からは縄文時代早期中葉から前期初頭にかけての土器が出土し、とりわけ早期中葉の貝殻文が施文された土器は宮古市内では最多の数を有するものになる。しかし、遺物出土に対して該期の遺構は検出されず、周辺にその存在の可能性を示唆するのみであり、縄文時代早期中葉における土器様相の一端を垣間見たにすぎない。今後、該期の遺物や遺構が検出されることは十分考えられ、その際にはこれらの資料を含めさらに再検討することが必要であろう。

#### <主な引用・参考文献>

- 名久井文明 1982 「貝殻文尖底土器」『縄文文化の研究』第3巻 雄山閣  
富樫泰時 1989 「早期貝殻沈線文系土器様式」『縄文土器大観』第1巻 小学館  
松田光太郎 2004 「貝殻文の施文具」『考古学ジャーナル』第523号  
領塚正浩 2006 「縄文時代早期中葉土器群の研究史~東北地方北部を中心として~」『縄文時代早期中葉土器群の再検討』-資料集- 海峡土器編年研究会  
神原雄一郎 2006 「盛岡における縄文時代早期前葉から中葉にかけての土器」『縄文時代早期中葉土器群の再検討』-資料集- 海峡土器編年研究会

写真図版







1. 荷竹日向IV遺跡 航空写真（上方が北、宮古湾方面）



2. 調査区近景（北東から）



3. 調査区近景（北東から）



4. 調査区近景（南西から）



5. 調査風景（南西から）



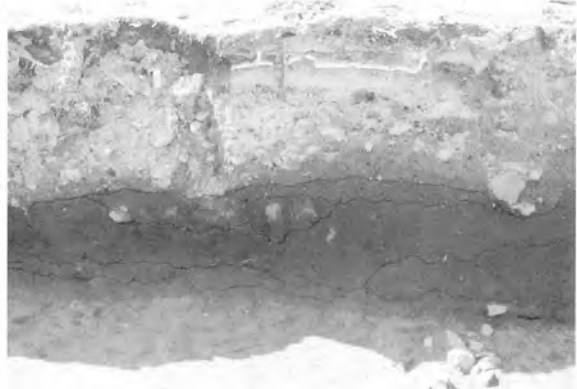
6. 調査区東側 完掘状況（北東から）



7. 調査区西側 遺物包含層検出状況（南西から）



8. 遺物包含層 東西セクション面（南東から）



9. 遺物包含層 東西セクション面（南東から）



10. 遺物包含層 東西セクション面(南東から)



11. 遺物包含層 東西セクション面(南東から)



12. 遺物包含層 南北セクション面(北東から)



13. 遺物包含層 南北セクション面（東から）



14. 遺物包含層 南北セクション面（東から）



15. 遺物包含層 東西セクション面（南から）



16. 調査区北側 遺物包含層検出状況 (南東から)



17. 調査区北側 完掘状況 (南東から)



18. 調査区西側 完掘状況 (西から)



19. 調査区西側 完掘状況 (東から)



20. 遺物包含層 掘り下げ状況 (西から)



21. 遺物包含層 掘り下げ状況 (西から)



22. 1号土坑 セクション面 (南から)



23. 1号土坑 完掘状況 (北から)



24. Aトレンチ 調査状況 (東から)



25. Bトレンチ 調査状況 (東から)



26. Cトレンチ 調査状況 (東から)



27. Dトレンチ 調査状況 (東から)



28. Eトレンチ 調査状況 (東から)



29. Fトレンチ 調査状況 (東から)



30. Gトレンチ 調査状況 (東から)



31. Hトレンチ 調査状況 (東から)



32. Iトレンチ 調査状況 (東から)



33. Jトレンチ 調査状況 (東から)



34. Kトレンチ 調査状況 (東から)



35. Lトレンチ 調査状況 (東から)



36. Mトレンチ 調査状況 (東から)



37. Nトレンチ 調査状況 (東から)



38. Oトレンチ 調査状況 (南西から)



39. Pトレンチ 調査状況 (東から)



40. Qトレンチ 調査状況 (北東から)



41. Rトレンチ 調査状況 (北東から)



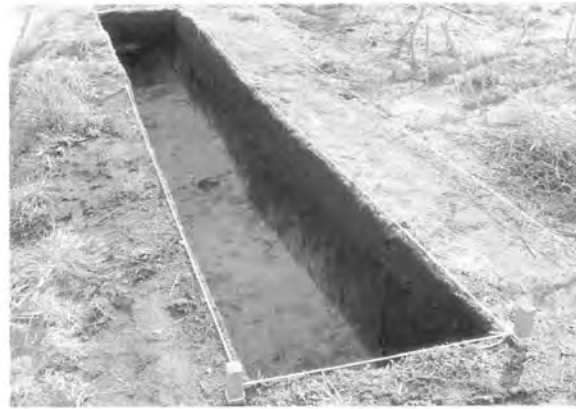
42. Sトレンチ 調査状況 (東から)



43. Tトレンチ 調査状況 (南西から)



44. Uトレンチ 調査状況 (南から)



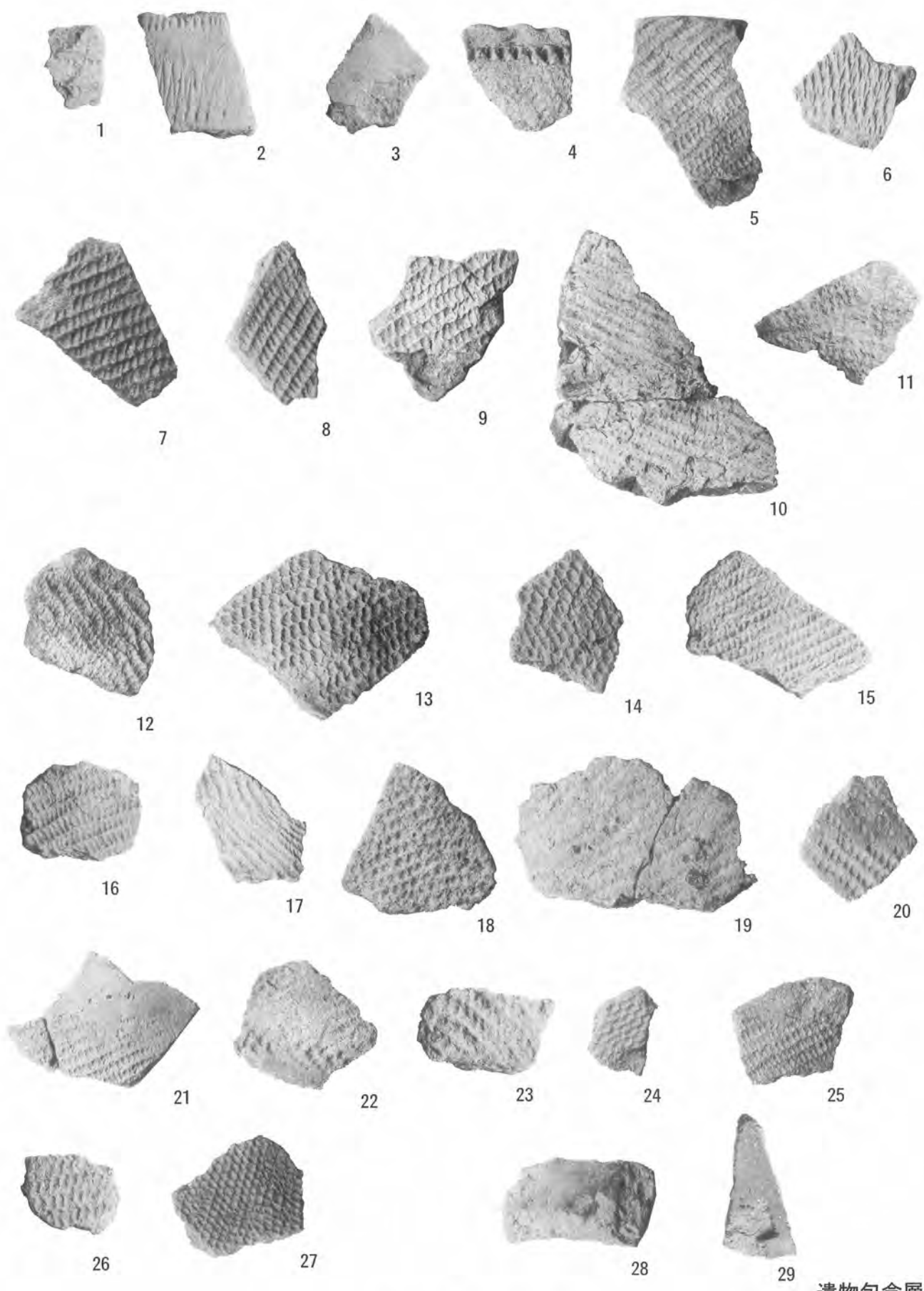
45. Vトレンチ 調査状況 (南東から)



46. 調査風景 (西から)



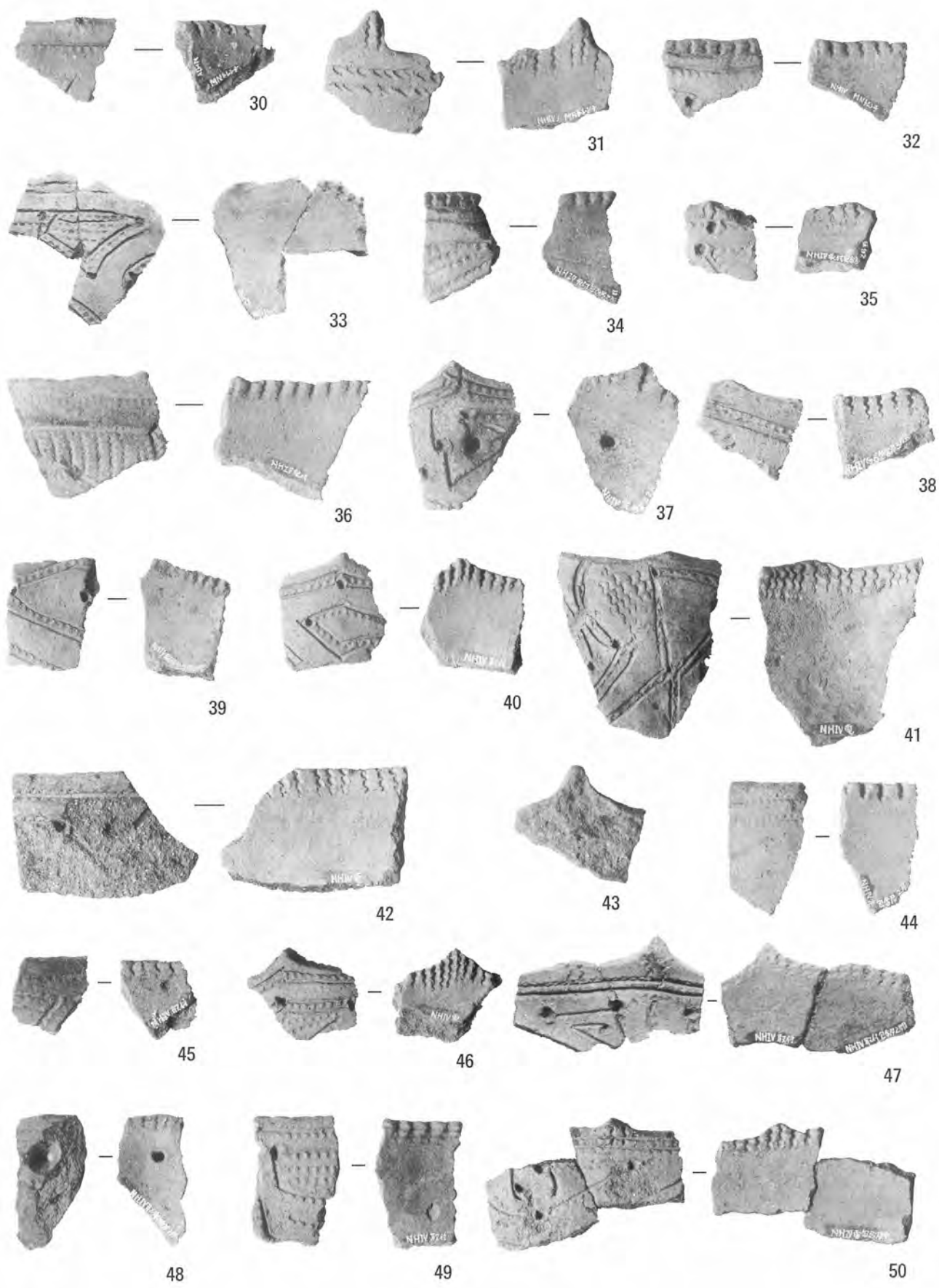
47. 調査風景 (南西から)



遺物包含層

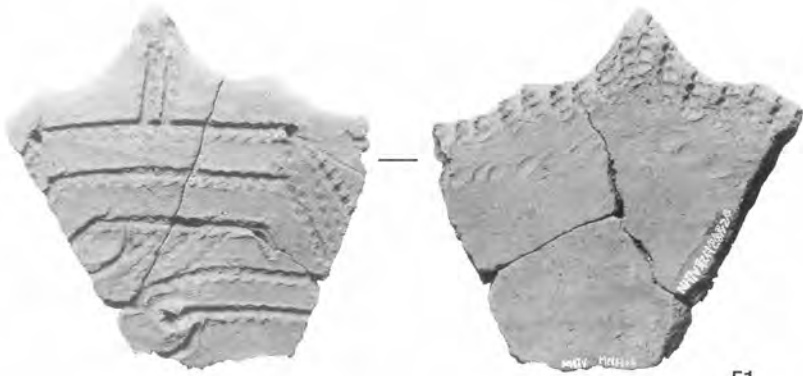
48. 出土遺物 (1) (1:2)





遺物包含層

49. 出土遺物 (2) (1:2)



51



52



53

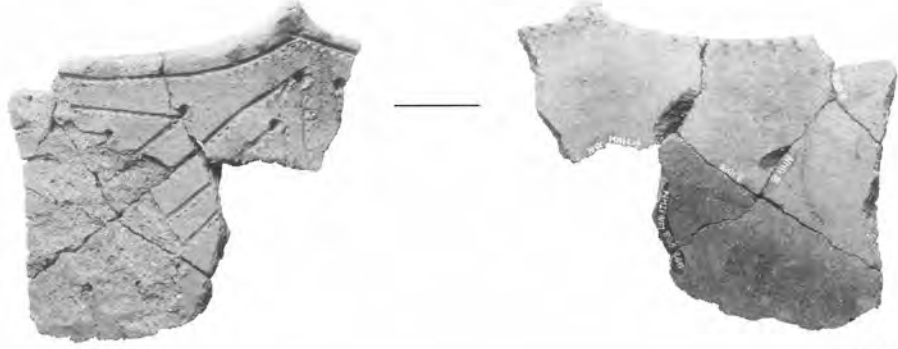
54



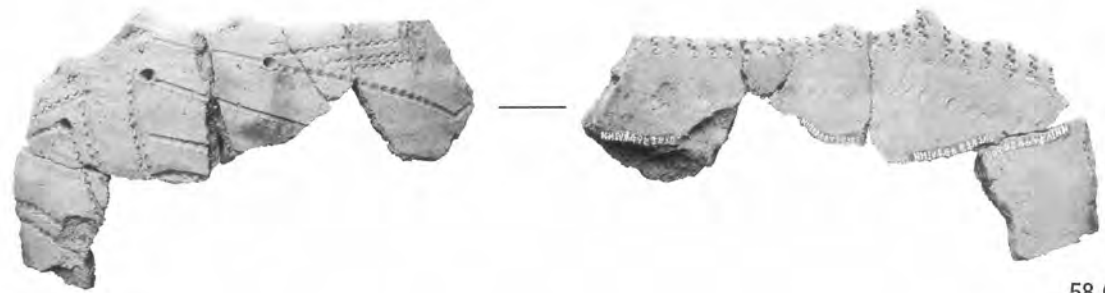
55



56



57 (1 : 3)



58 (1 : 3)



59



60



61



62



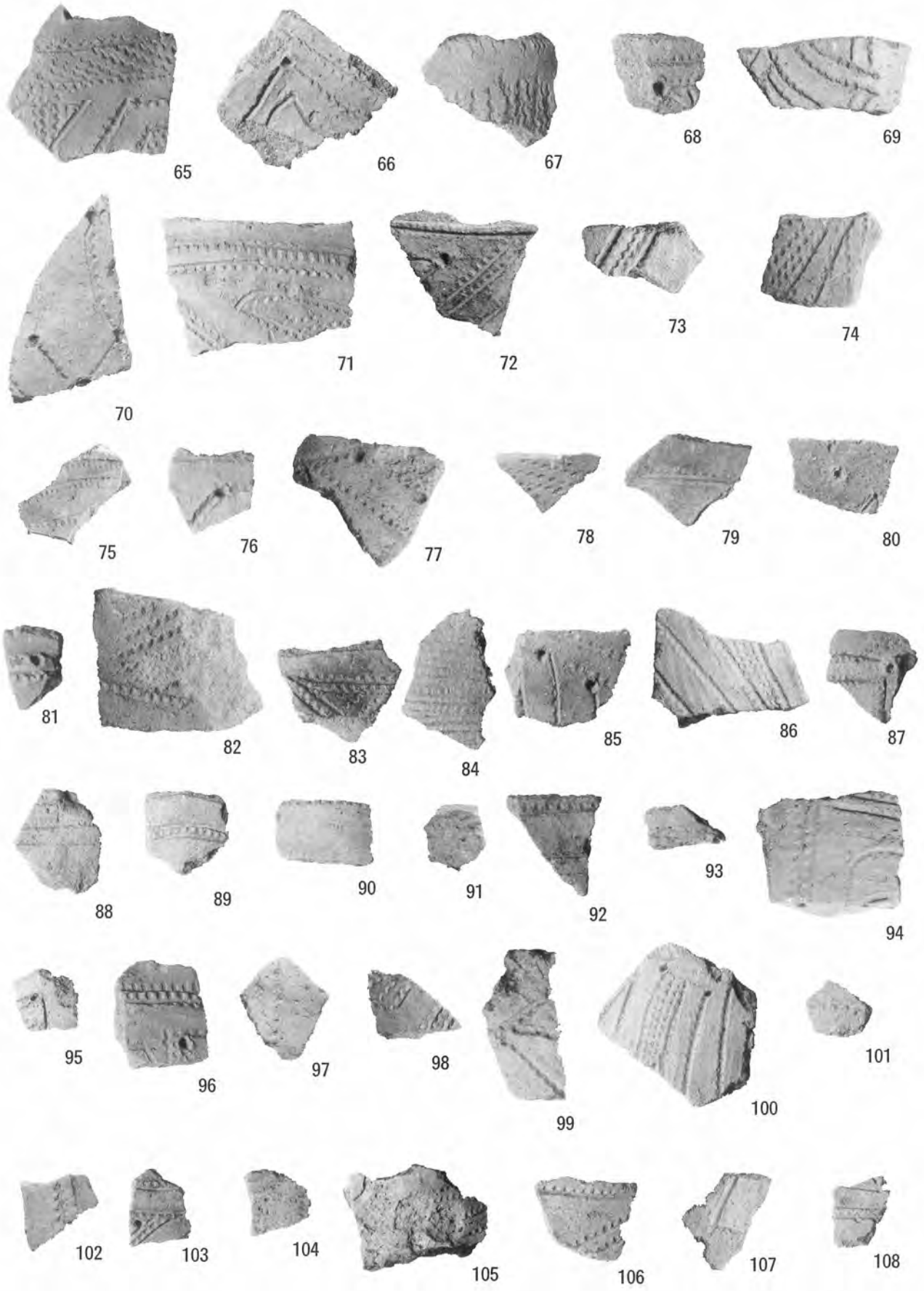
63



64

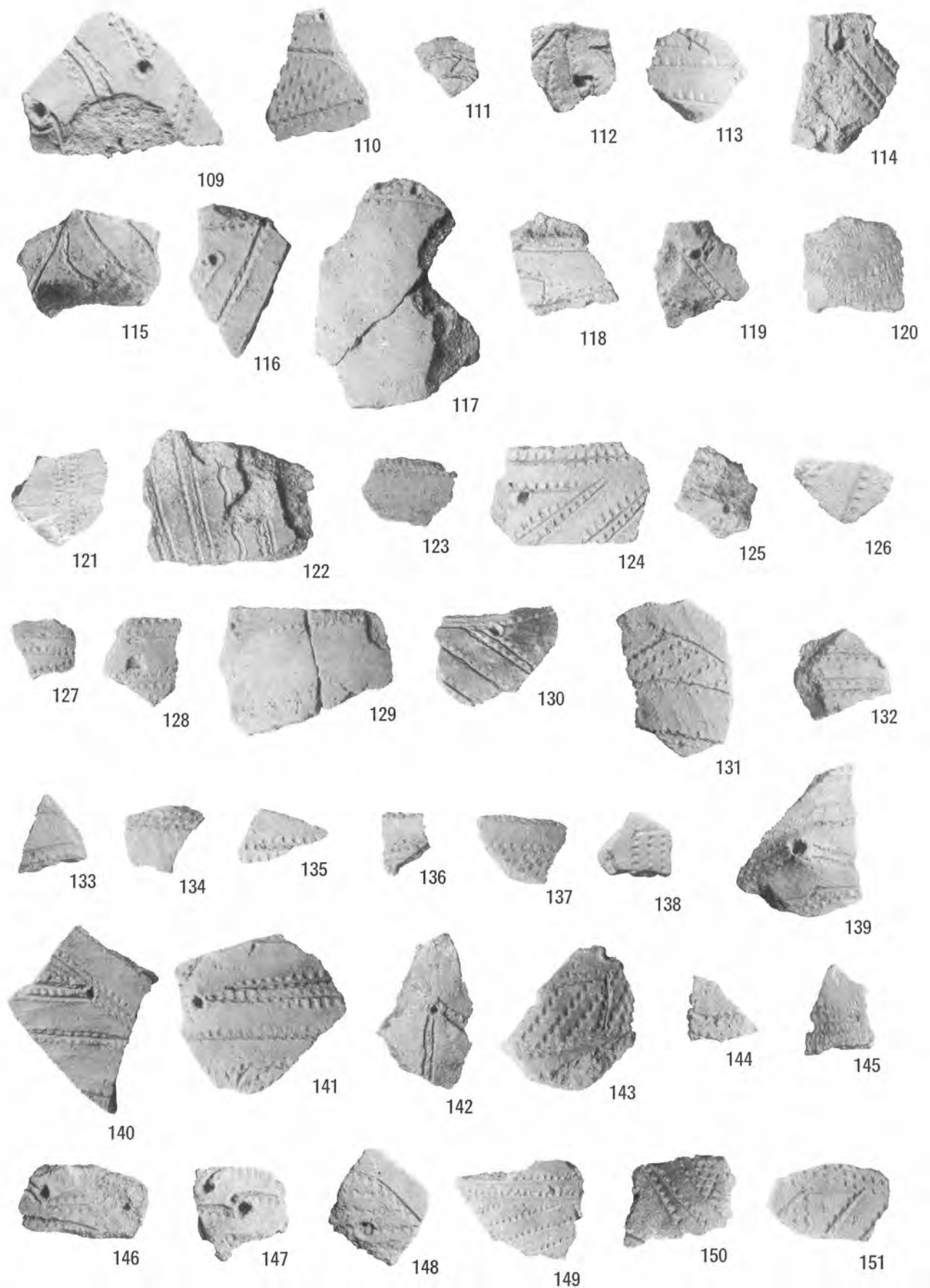
遺物包含層

50. 出土遺物 (3) (1 : 2)



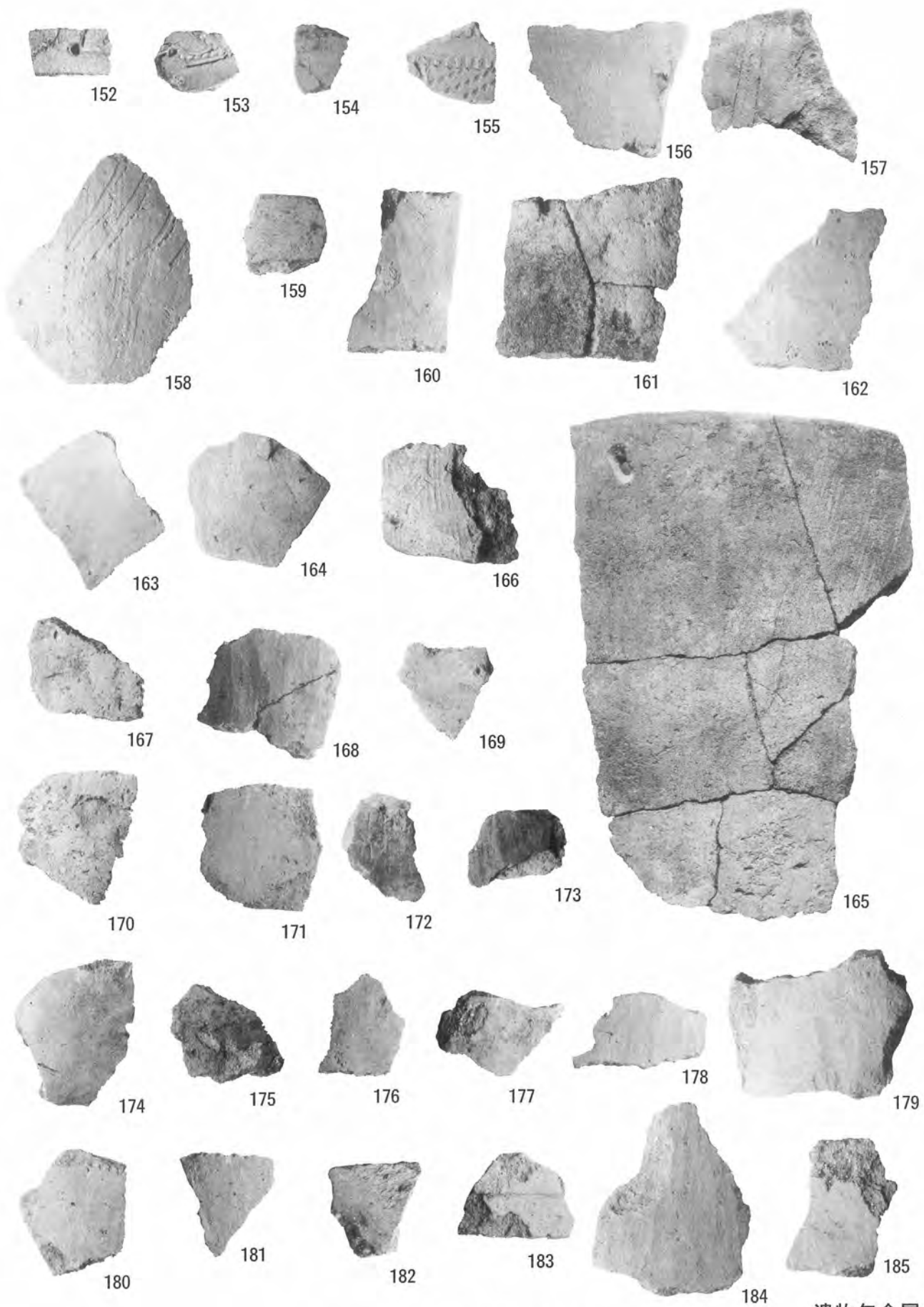
遺物包含層

51. 出土遺物 (4) (1:2)



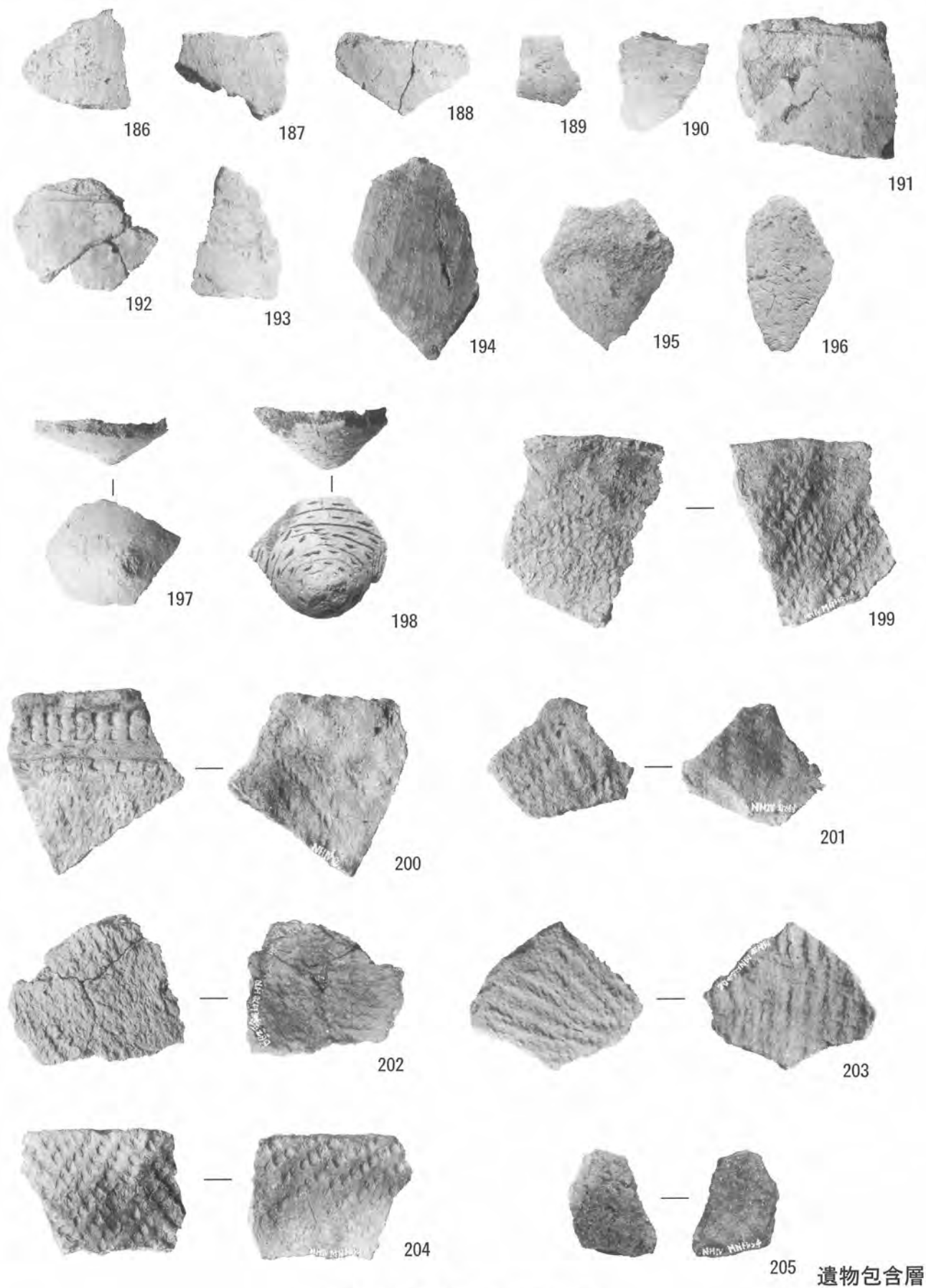
遺物包含層

52. 出土遺物 (5) (1:2)

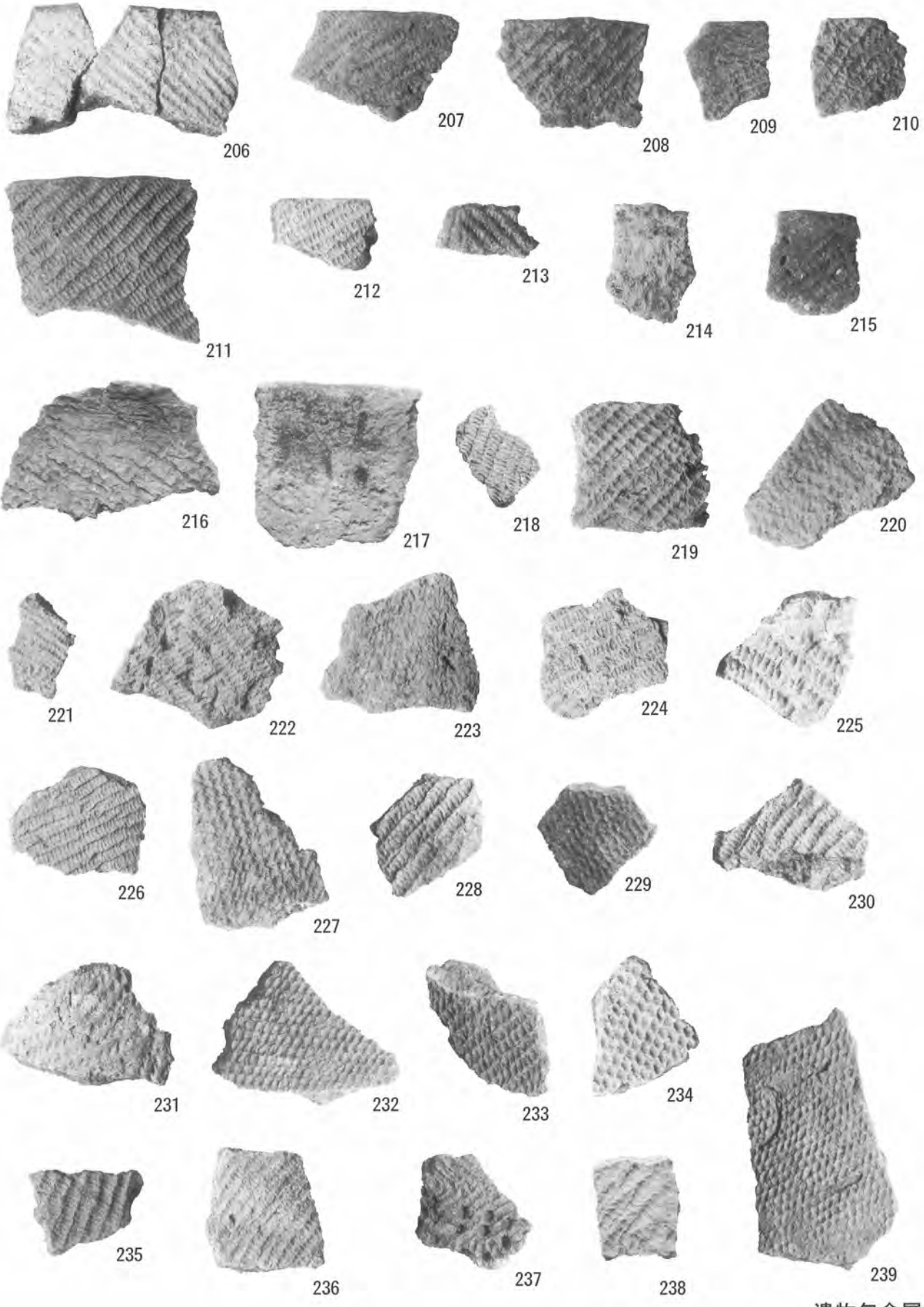


53. 出土遺物 (6) (1 : 2)

遺物包含層

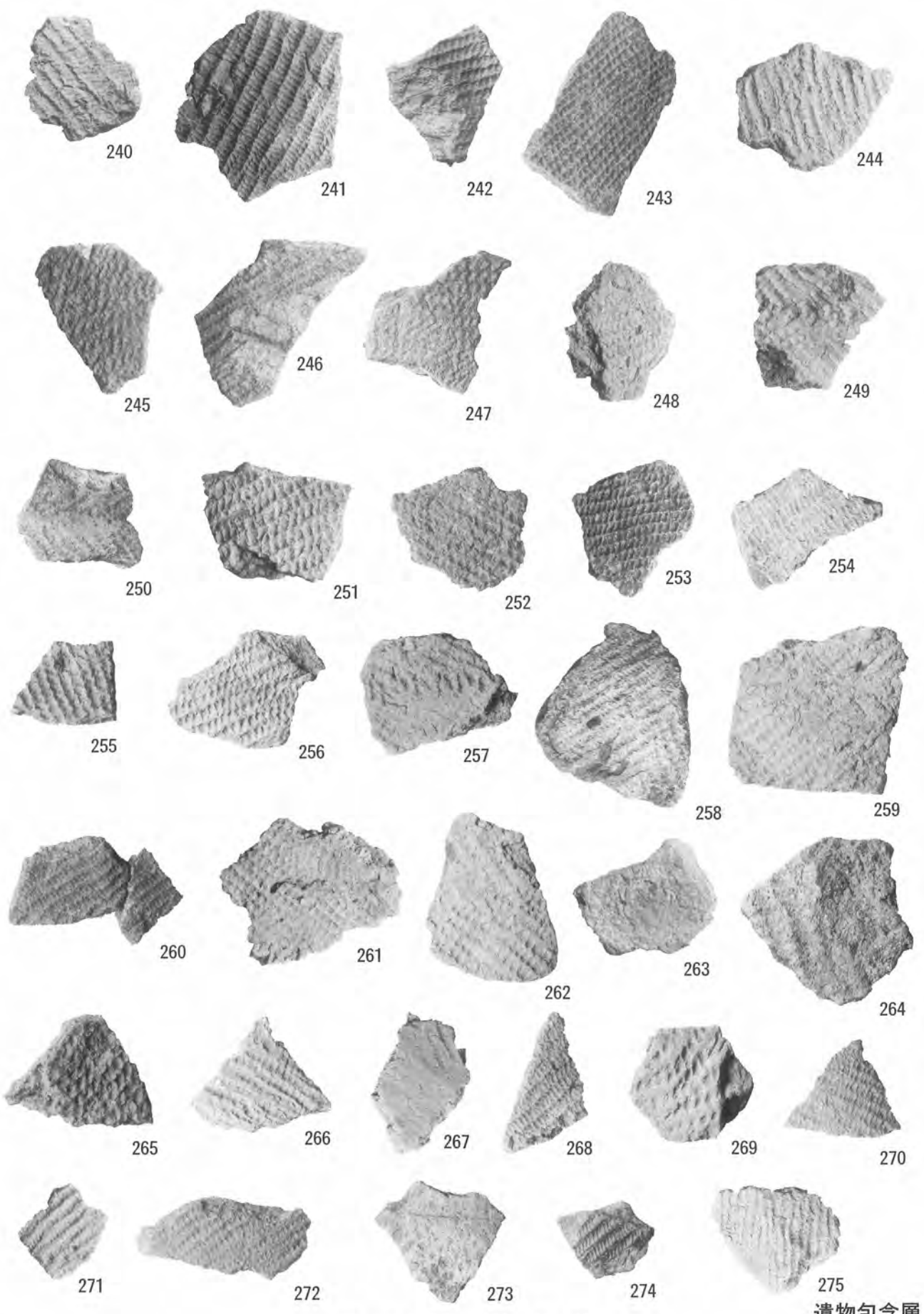


54. 出土遺物 (7) (1:2)



遺物包含層

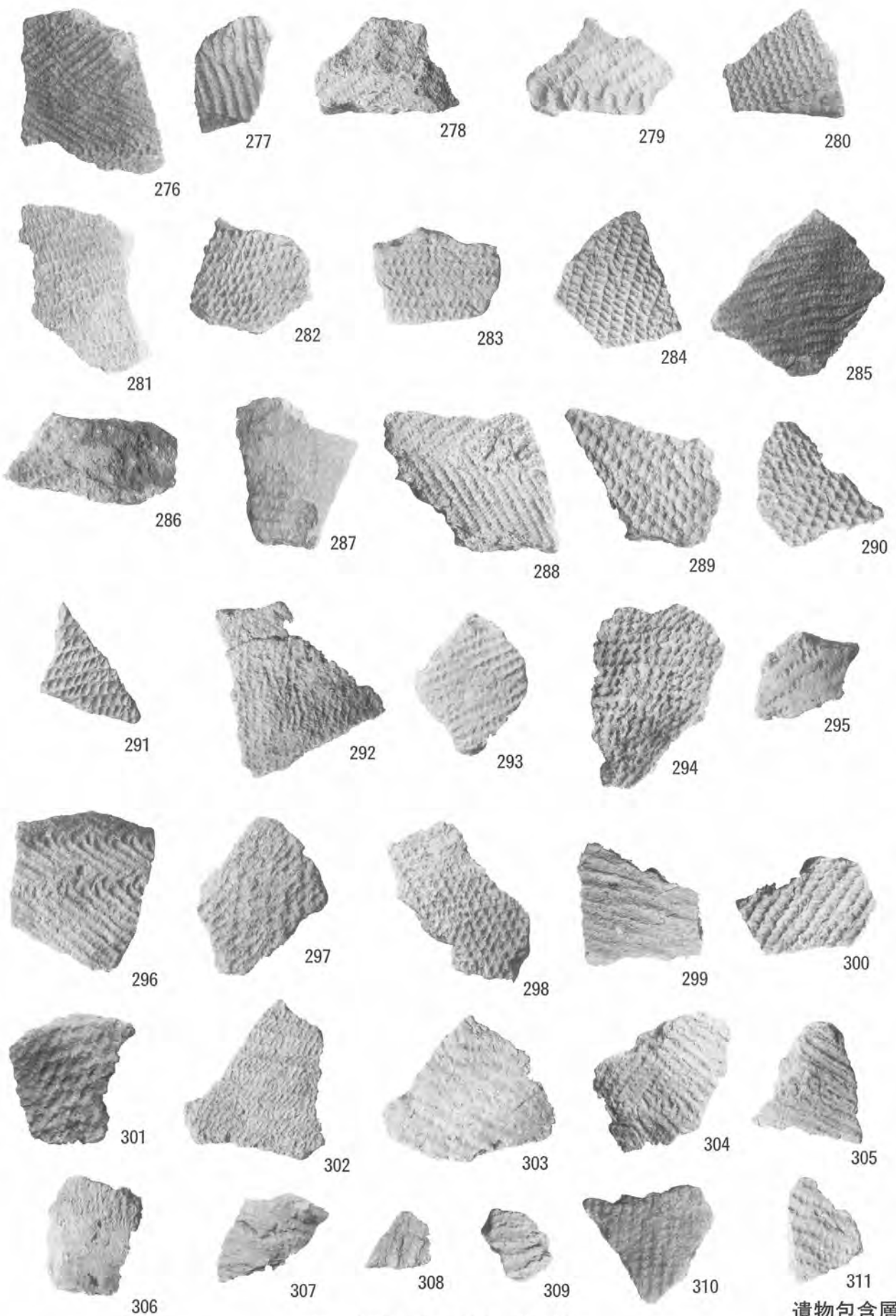
55. 出土遺物 (8) (1:2)



56. 出土遺物 (9) (1 : 2)

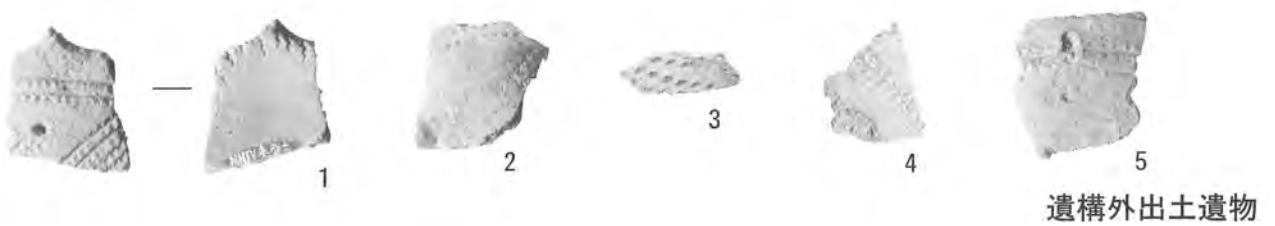
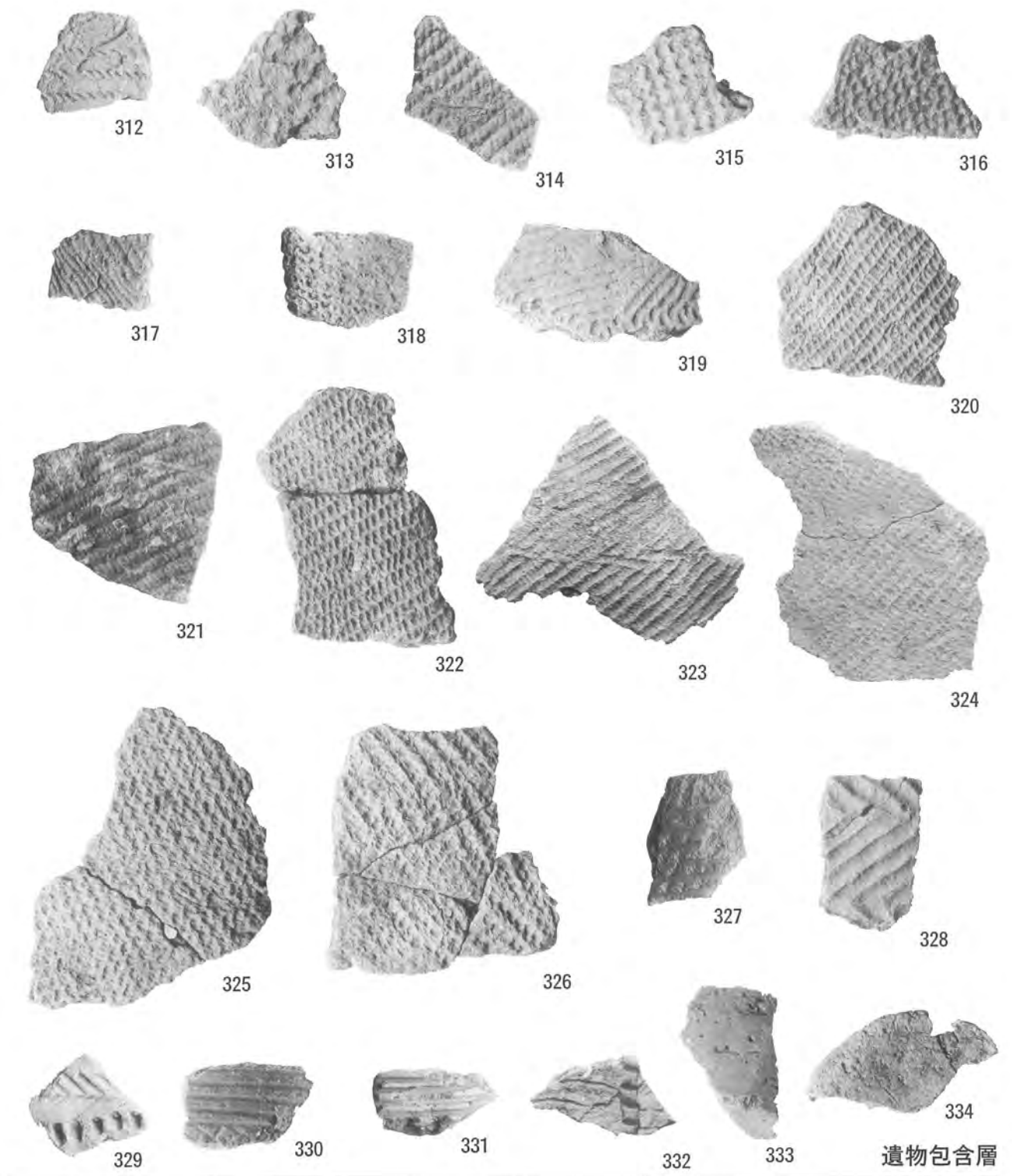
遺物包含層



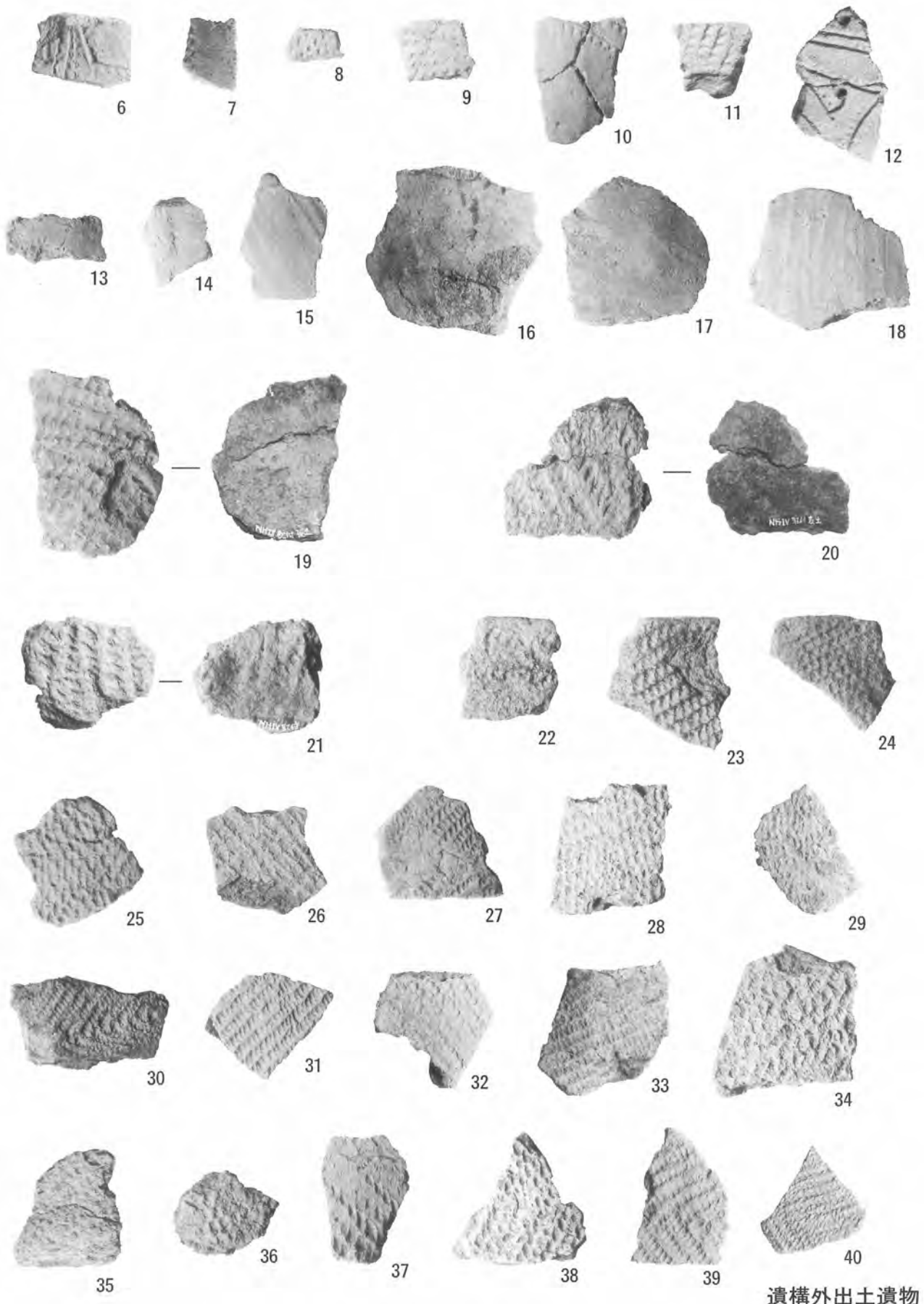


57. 出土遺物 (10) (1:2)

遺物包含層

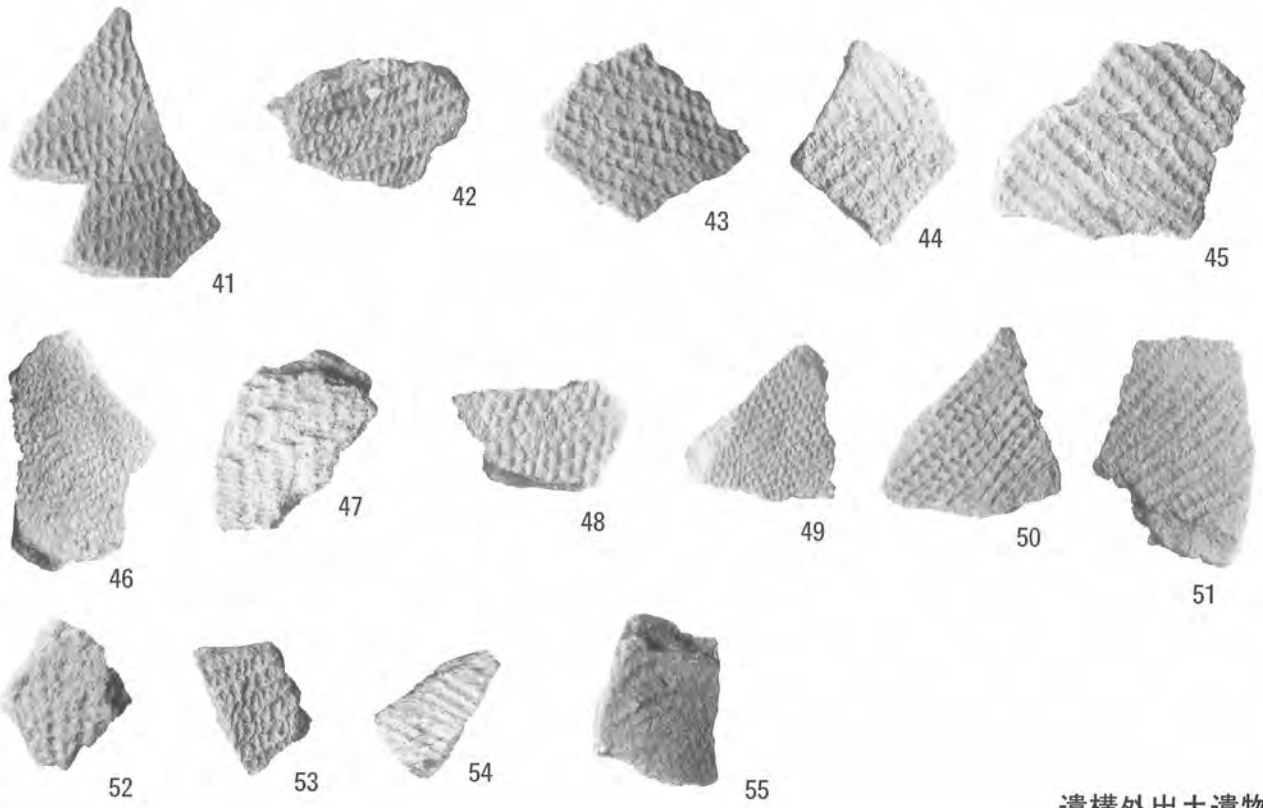


58. 出土遺物 (11) (1:2)

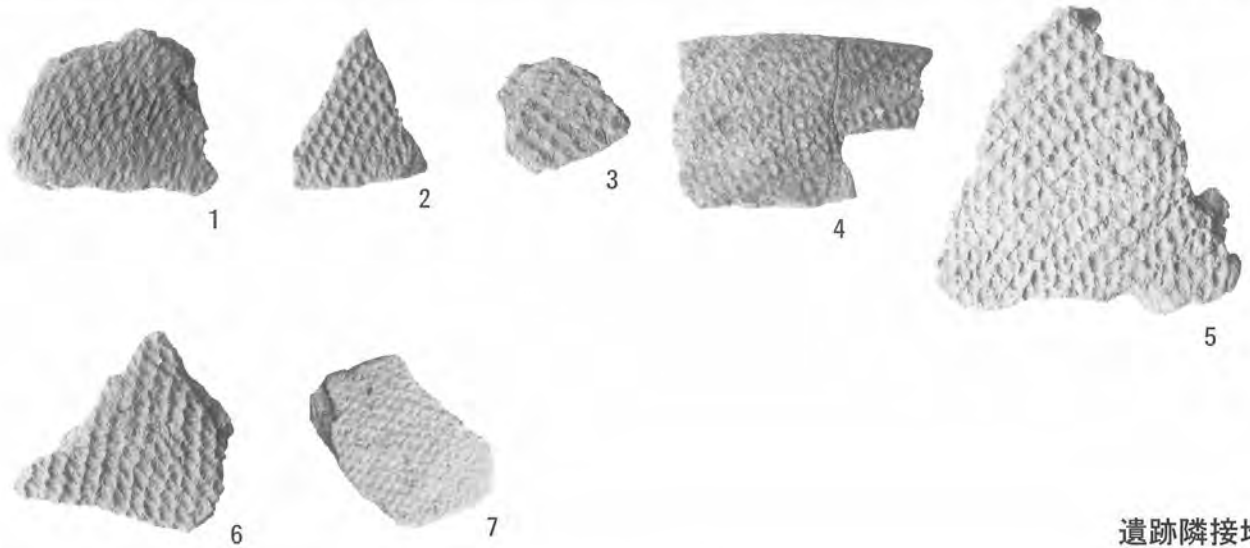


遺構外出土遺物

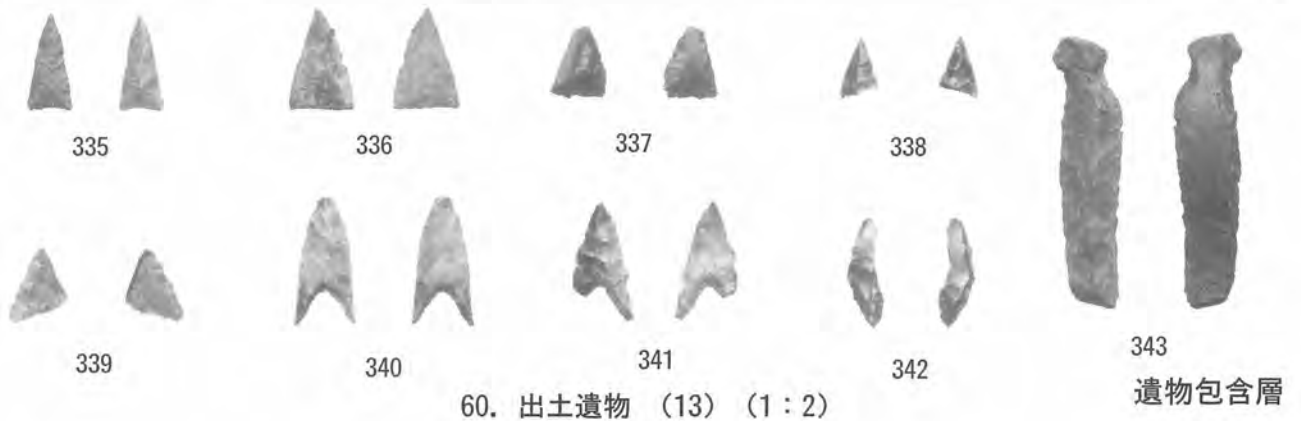
59. 出土遺物 (12) (1:2)



遺構外出土遺物

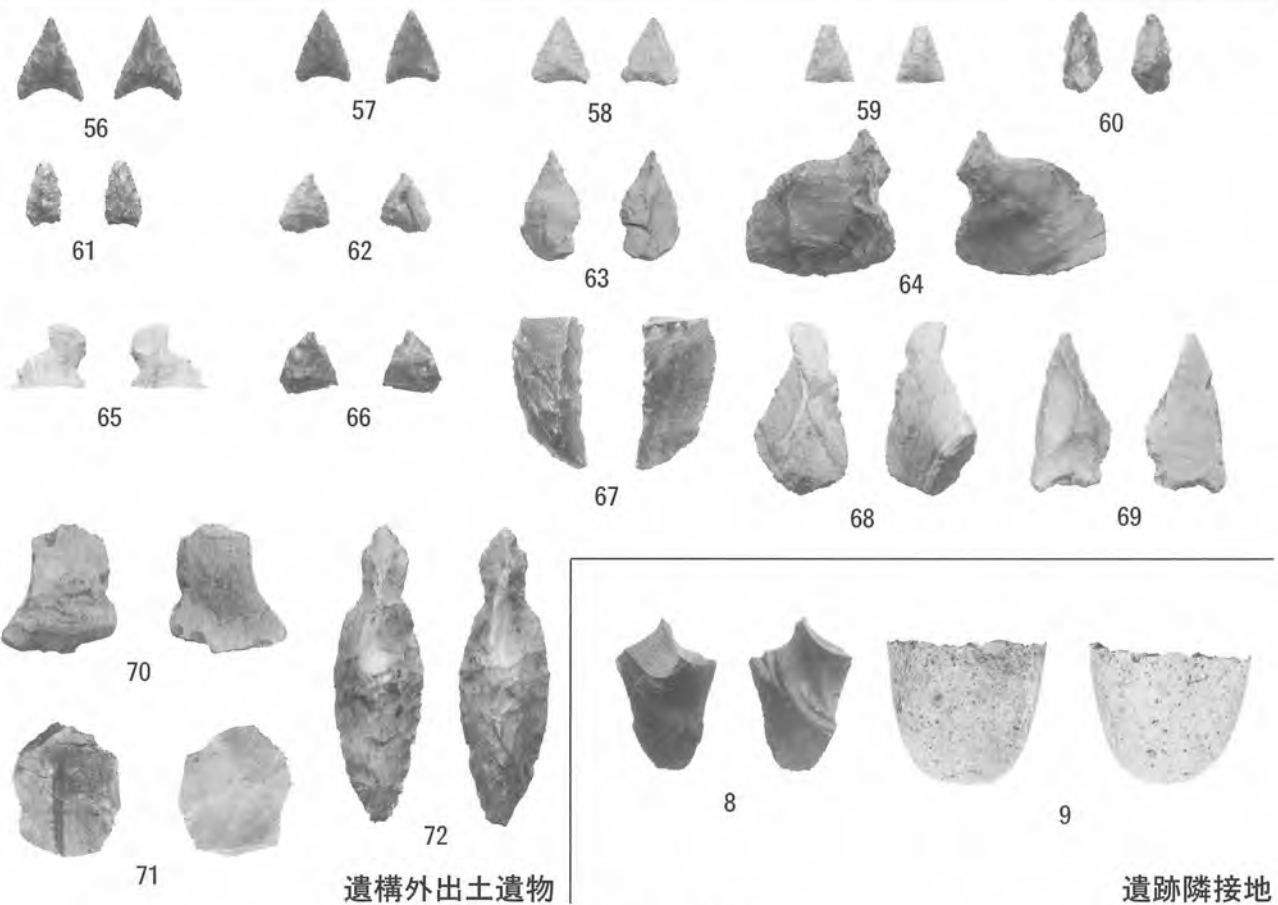
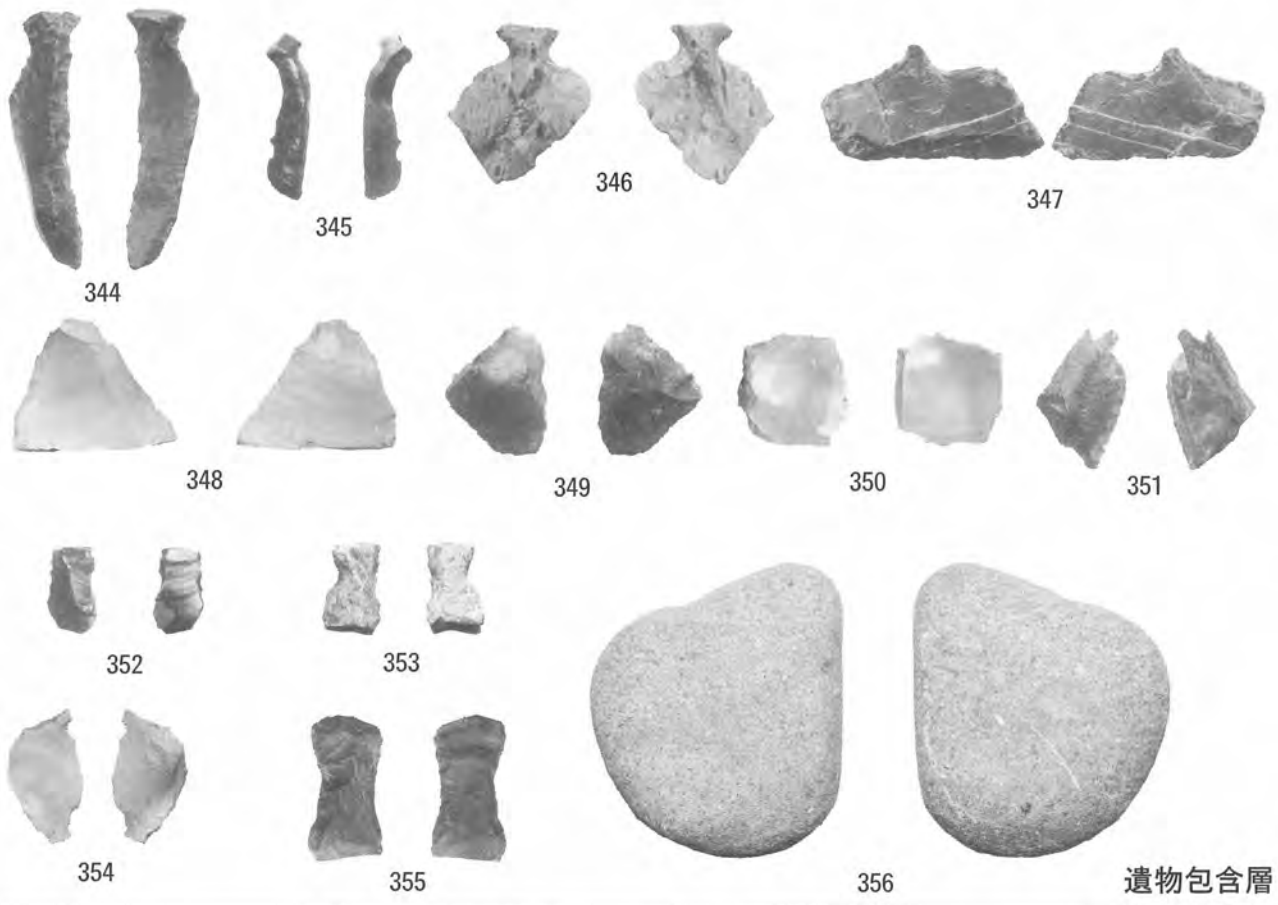


遺跡隣接地



60. 出土遺物 (13) (1:2)

遺物包含層



61. 出土遺物 (14)

# 報告書抄録

ふりがな	にちくひなた4							
書名	荷竹日向IV遺跡							
副書名	市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	74							
編著者名	長谷川真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1 TEL.0193-72-2175 FAX.0193-72-2176							
発行年月日	2008/3/21							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / '' (世界測地系)	東経 ° / ' / '' (世界測地系)	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にちくひなた4 荷竹日向IV遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 つがるいしだい ちわりあざ 津軽石第16地割字 にちくひなた 荷竹日向	03202	LG63-0177	39° 33' 27"	141° 55' 20"	170916~ 171024 180410~ 180712	289m <sup>2</sup>	市道向川原荷竹 線道路改良工事 に伴う試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
荷竹日向IV遺跡	散布地	縄文時代	土坑1基 遺物包含層	縄文土器・石器・鉄滓			縄文時代早期 中葉の貝殻文 を有する土器 が出土	

## 宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- |         |                                       |         |  |
|---------|---------------------------------------|---------|--|
| 1 1979  | 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』                      | 43 1995 | 『磯鷄館山遺跡発掘調査報告書』  |
| 2 1980  | 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』                       | 44 1995 | 『崎山貝塚一範圍確認調査報告書一』                                      |
| 3 1983  | 『宮古市遺跡分布調査報告書1』                       | 45 1995 | 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・塚ノ神遺跡一市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書一』           |
| 4 1984  | 『宮古市遺跡分布調査報告書2』                       | 46 1995 | 『花原市遺跡一平成4年度発掘調査報告書一』                                  |
| 5 1984  | 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』                 | 47 1995 | 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』                            |
| 6 1985  | 『宮古市遺跡分布調査報告書3』                       | 48 1996 | 『大付遺跡一平成5年・6年度発掘調査報告書一』                                |
| 7 1985  | 『金浜館発掘調査報告書』                          | 49 1997 | 『花原市遺跡一平成8年度発掘調査報告書一』                                  |
| 8 1986  | 『宮古市遺跡分布調査報告書4』                       | 50 1997 | 『白石遺跡一第6次発掘調査報告書一』                                     |
| 9 1986  | 『宮古市遺跡分布図一昭和60年度版一』                   | 51 1998 | 『赤畑・天神山・山口館一北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書一』                  |
| 10 1986 | 『中谷地・島田遺跡報告書』                         | 52 1998 | 『藤畑遺跡一平成9年度発掘調査報告書一』                                   |
| 11 1987 | 『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』                   | 53 1999 | 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枝田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀Ⅲ遺跡一宮古市水産課津軽石環状整備事業関係一』    |
| 12 1987 | 『寒風・早稲橋Ⅵ遺跡調査報告書』                      | 54 1999 | 『千鷲Ⅳ遺跡一宮古市水産課千鷲地区漁港漁村総合整備事業関係一』                        |
| 13 1987 | 『崎山遺跡群Ⅰ一昭和60年度発掘調査概報一』                | 55 1999 | 『崎山貝塚一第12次・13次内容確認調査概報』                                |
| 14 1988 | 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)一昭和62年度発掘調査報告書一』 | 56 2000 | 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡一特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書一』 |
| 15 1988 | 『崎山遺跡群Ⅱ一昭和62年度発掘調査概報一』                | 57 2002 | 『山口館跡一北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書一』                      |
| 16 1989 | 『千鷲遺跡一昭和62年度発掘調査報告書一』                 | 58 2002 | 『小沢Ⅱ大上遺跡一市内遺跡発掘調査報告書2一』                                |
| 17 1989 | 『トロノ木Ⅰ遺跡一第1～7次発掘調査報告書一』               | 59 2003 | 『大又沢Ⅱ遺跡一東北電力宮古へりポート移設工事関係発掘調査報告書一』                     |
| 18 1989 | 『崎山遺跡群Ⅲ一昭和63年度発掘調査概報一』                | 60 2003 | 『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡一市内遺跡発掘調査報告書3一』                           |
| 19 1989 | 『高根遺跡一昭和63年度発掘調査報告書一』                 | 61 2003 | 『早稲橋Ⅱ遺跡第6次調査一市内遺跡発掘調査報告書4一』                            |
| 20 1989 | 『狐崎Ⅱ遺跡一昭和63年度発掘調査報告書一』                | 62 2003 | 『下在家Ⅰ遺跡一平成14年度発掘調査報告書一』                                |
| 21 1989 | 『崎山トロノ木Ⅳ遺跡一昭和63年度調査報告書一』              | 63 2004 | 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡一市道伊崎線改良工事関係発掘調査報告書一』                       |
| 22 1990 | 『狐崎遺跡一平成元年度発掘調査報告書一』                  | 64 2005 | 『弘川館跡一瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書一』                               |
| 23 1990 | 『崎山遺跡群Ⅳ一平成元年度発掘調査概報一』                 | 65 2006 | 『高浜Ⅵ地神遺跡一高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書一』                        |
| 24 1990 | 『磯鷄館山遺跡一昭和63年度発掘調査報告書一』               | 66 2006 | 『崎山貝塚第20次調査、早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査一市内遺跡発掘調査報告書5一』                 |
| 25 1990 | 『銀ヶ崎館山貝塚一平成元年度発掘調査報告書一』               | 67 2006 | 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡一市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書一』     |
| 26 1991 | 『崎山遺跡群Ⅴ一平成2年度発掘調査概報一』                 | 68 2006 | 『木戸井内Ⅳ遺跡一宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書一』                    |
| 27 1991 | 『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群一平成元年・2年度発掘調査報告書一』         | 69 2006 | 『菅ノ沢遺跡発掘調査一市内遺跡発掘調査報告書6一』                              |
| 28 1990 | 『熊野町遺跡一昭和63年度発掘調査報告書一』                | 70 2007 | 『山口館跡一市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書一』                      |
| 29 1991 | 『弘川Ⅰ遺跡一平成2年度発掘調査報告書一』                 | 71 2007 | 『近内館跡一宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書一』                  |
| 30 1992 | 『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』    | 72 2007 | 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査一市内遺跡発掘調査報告書7一』                        |
| 31 1992 | 『重茂館遺跡群一第1次調査報告書一』                    | 73 2007 | 『弘川館跡(第2次調査)一宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書一』                  |
| 32 1992 | 『黒森町Ⅰ遺跡一平成3年度発掘調査報告書一』                |         |  |
| 33 1992 | 『高根遺跡一平成3年度発掘調査報告書一』                  |         |  |
| 34 1992 | 『鯉沢遺跡一平成2年度発掘調査報告書一』                  |         |  |
| 35 1992 | 『大付遺跡一平成3年度発掘調査報告書一』                  |         |  |
| 36 1992 | 『細越Ⅰ遺跡、芋野Ⅱ遺跡一農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書一』  |         |  |
| 37 1992 | 『崎山遺跡群Ⅵ一平成3年度発掘調査概報一』                 |         |  |
| 38 1993 | 『萩沢Ⅱ遺跡一平成4年度発掘調査報告書一』                 |         |  |
| 39 1993 | 『早稲橋Ⅱ遺跡一第1次・第2次発掘調査報告書一』              |         |  |
| 40 1993 | 『崎山遺跡群Ⅶ一平成4年度発掘調査概報一』                 |         |  |
| 41 1994 | 『崎山遺跡群Ⅷ一平成5年度発掘調査概報一』                 |         |  |
| 42 1995 | 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡一平成4年度発掘調査報告書一』              |         |  |

## 宮古市埋蔵文化財調査報告書74

### にちくひなた4 荷竹日向Ⅳ遺跡

一市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書一

平成20年3月21日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会

〒028-2101 宮古市茂市第2地割112番地1

TEL. 0193-72-2175

印刷 ショウジ印刷株式会社

〒027-0084 宮古市末広町4番10号

TEL. 0193-62-1326







